

## 七 作曲依頼関係書類

東京音楽学校は、外部からの依頼に応じて多くの作詞・作曲を行つてきました。依頼は校歌が大半で、他に寮歌・団歌・奉迎歌・県歌・社歌などがある。

右記に関する往復文書は、『自明治四十年十月 至大正四年十一月 作曲委託關係書類 東京音楽學校』から『昭和三十一年度 作曲依頼関係 音楽学部』まで計十八冊の綴りにまとめられ、保管されている。本項は、そのうち東京音楽学校として扱つた昭和二十四年四月までの分を

自明治四十年十月 至大正四年十一月 作曲委託關係書類										
			依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	作詞者	楽譜	作曲者	備考
明41	明41／1／20	東京府立第一高等女学校	学校	市立富山商業	岐阜□□中学	埼玉女子師範学校	校歌	有	土井林吉	依頼状、礼状あり(10／14)。 楽譜に「40・10・9」と書込み。謝礼25円。
		校歌	校歌	有	有	有	有	有	楠美恩三郎	土井林吉は土井晩翠の本名。
有	島山健	池辺義象								
有	岡野貞一	楠美恩三郎	楠美恩三郎	楠美恩三郎	楠美恩三郎	楠美恩三郎	楠美恩三郎	楠美恩三郎	楠美恩三郎	依頼状のみ。余白に「40・11・1」「富尾木〔知佳〕幹事ノ所ヲ經テ依頼アリ、楠美〔恩三郎〕助教授ヲシテ作曲セシム」と書込み。
明41		樂譜のみ。余白に「本曲ハ東京府第二高等女學校長ノ依頼ニヨリ幹事岡野〔貞一〕氏ニ嘱シテ作曲セシメ送付ス 明治四十一年二月廿四日」と書込み。	依頼状あり。樂譜に「41・1・23」と記載。樂譜送付状(1／24)に「報酬ハ拾五圓乃至貳十圓ノ範圍内ニテ」とあるが、2月3日付回答案では10円で決着。							

すべて表にまとめたものである。

表は原資料(依頼状、歌詞、樂譜、東京音楽学校よりの回答案・樂譜送付状などを含む)に基づき、依頼から終結までの経緯をまとめている。原則として資料の保管現状順に作成したため、日付は順不同である。ただし、なかには原資料が存在せず、綴りとともに保管されている「作歌作曲依頼表」(当時の東京音楽学校庶務課が作成したものと思われる)にのみ記録が残されている場合がある。この場合には「作歌作曲依頼表」の記載を採録し、備考で出典を明示するか、または\*印を付して区別した。

表中の使用文字は、人名および原資料からの引用以外は新字体とした。また、「依頼年月日」欄の日付は、依頼状にある日付を採録した。

明41／11／12	明41	明41	明41／9／21	明41／5／8	明41	明41／6／7	明41	明41
会 帝国軍人後援	花田陸軍中佐	学校 熊本工業高等	長崎県北松浦 郡宇久尋常高 等小学校	公立八幡尋常 高等小学校	仙台高等工業	尚志会(仙台) 第二高等学 校	農林學校	京華中學校
		校歌		校歌	校歌		校歌	校歌
無 有 有			有	無	有	有 有	無	有
	芳賀矢一撰				土井晩翠	土井晩翠		
無 有 有			無	無	有	有 有	無	有
楠美恩三郎	内田条太郎	南能衛	南能衛		南能衛	前田久八	岡野貞一	楠美恩三郎
（送迎唱歌）。樂譜は二種類現存し、そのうち一つは歌詞修正に伴う改訂版。樂譜送付状あり（10／5）。曲につき5円、計10円で受諾。礼状あり（11／27）。報酬は一	（報徳唱歌）。樂譜は二種類現存し、そのうち一つは歌詞修正に伴う改訂版。樂譜送付状あり（10／5）。	歌詞と樂譜のみ。樂譜は伴奏付。歌詞余白に「四十一年九月七日富尾木（知佳）幹事ヨリ樂譜送付」と書込み。	依頼状あり。9月28日付回答案によると、「本校ニハ未タ一般ノ作曲依頼ニ應スヘキ設備無之ニ付御引受ケ難致候得共作曲者ニ相當ノ報酬贈與ノ御豫定ニ及ベハ職員若クハ卒業生中ノ某氏ニ御委嘱相求度其場合ハ本校ニテ可成御便宜相計可申」。東京高等師範學校からも依頼校の校歌作曲依頼があつた（9／28）が、それに対して東京音樂學校は9月28日付回答案とほぼ同内容の回答をしている（9／30）。	依頼状、および依頼校よりの「經費の餘裕無之」という理由による依頼取り下げ状（5／16）。	（棹歌）。依頼状、樂譜送付状（6／15）あり。樂譜に「注意 潛艇スル際唱謡セントスルトキハ各小節ノ第一強聲部ニ於テオーレヲ一下スペシ」と書込み。謝礼10円。礼状あり（6／25）。	（友工會の歌）。樂譜は伴奏付。依頼承諾および謝礼額を15円から20円の間とする旨の回答案（6／26）、樂譜送付状案（9／4）、謝礼15円を送る旨の礼状（10／2）あり。	樂譜送付状（日付不明）、礼状および報酬額照会（5／10）、15円から20円の間とする旨の回答（5／19）。	樂譜とその送付状（3／12）のみ。依頼校職員小原要逸を通して依頼されたことが読みとれる。樂譜に「四十一年三月十一日提出」と書込み。

明42	明42／5／4	明42／5／3	明42／5／6	明42／4／3	明42／4／3		明42／2／26	明42／2／25	明42／2／1
学校自彌寮	長崎高等商業	校立三好農林学 常高等小学校	徳島県三好郡 世知原開知尋	長崎県立松浦 石川尋常小学	愛媛県宇摩郡 高崎市立甲種 商業学校	中学校	三重県立第四 工業学校	新潟県立村松 農科大学寄宿 舍恵迪寮	東北帝国大学
寮歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	寮歌
有	有	有	有	無	有	有	有	有	無
		丸山正彦			松村明敏		小野寺五郎	吉丸一昌	
有	有	有	無	有	有	有	有	有	無
中田 章	原田 潤	南能衛	松井壯吉	岡野貞一	山田耕筰	南能衛			
樂譜送付状案（6／12）に、歌詞の校訂を島崎赤太郎に依頼した旨の記載。謝礼15円。	依頼状あり（歌詞の訂正と作曲を依頼）。時間がかかり、再三催促されている。樂譜送付状あり（7／1）。	依頼状あり。歌詞に「六月二日依頼者實業兵樂部記者森肇氏ニ交付」と書込み。依頼日は歌詞書込みによる。作詞者は陸軍教授。	伴奏付。歌詞に「六月二日依頼者實業兵樂部記者森肇氏ニ交付」と書込み。依頼状あり。東京音楽学校より、学校の事業としては引受けられないが、仲介は可能とする旨の回答案（5／13）と、謝礼は10円以上20円程度である旨の回答案（5／26）。	戊申聖詔唱歌《朝起る歌》。樂譜のみ。	依頼状あり。作詞者は依頼校校長。東京音楽学校より歌詞修正を伝える通知（5／11）、謝礼領收書送付状案（5／19）。余白に「備考作曲者ハ岡野貞一報酬ハ金五圓ナリ」と書込み。	依頼状あり（依頼校教諭秋山鋼太郎を通して依頼）。謝礼額問い合わせの手紙（3／3）。東京音楽学校よりの樂譜送付状（5／12）に歌詞の校訂を上田萬年に依頼する旨の通知。樂譜裏に作曲と校正料として15円送金の払込票貼付。秋山よりの礼状（5／26）。なお、秋山が依頼状に記している伊勢山田中学校が三重県立第四中学校と同一校であること、および作詞者名は、三重県史編纂室のご協力により判明した。	依頼状あり。作詞も依頼。樂譜は伴奏付。謝礼10円。	依頼状、および東京音楽学校より、学校の事業としては引受けられないが仲介は可能とする旨の回答（2／4）。	依頼状あり。および東京音楽学校より、学校の事業としては引受けられないが仲介は可能とする旨の回答（2／4）。

明42／12／16	明43		明43	明43		明43／1／10		明42／10／12	明42	明42
学校	茨城県水海道中学校	校	東京府立第一中学校	長崎高等商業学校	郡立栃木高等女学校					
奈良県南葛城郡櫛羅尋常小	新潟県北蒲原郡木崎村木崎尋常高等小学	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
	吉丸一昌	吉丸一昌			寺田茂雄			芳賀矢一	荻野由之	
有	有	有	有	有	有	無	有	有	有	楠美恩三郎
(校訂)島崎赤太郎	南能衛		南能衛	楠美恩二郎 梁田貞			原田潤			年6月30日」と記載。
依頼状あり。依頼者による数字譜を校訂した。樂譜に「明治四十三年一月十二日」と書込み。樂譜送付状あり(明43／1／12)。	歌詞の修正と作曲を依頼。作曲催促状(4／9)、樂譜送付状(4／14)、礼状(4／20)あり。		依頼校より渡部博士宛依頼状(3／2)、樂譜送付状(4／14)あり。	歌詞は二種類現存。樂譜ではそのうち一方の歌詞を採用している。樂譜に「明治四十三年三月十四日提出 三月十六日送付」と書込み。	依頼校の三年生で、仮校歌を作詞。それを依頼校教授の能典作と小野竹三が校閲した。謝礼15円。礼状あり(1／29)。樂譜は楠美および梁田作曲の二種類があるが、最終的にどちらが採用されたのかは不明。梁田作曲の樂譜に「四十三年九月九日發送」と書込み。楠美作曲の樂譜余白に「如此長き歌詞六首には冗漫の嫌なきかみ。楠美作曲の樂譜余白に「從來校歌なるものは其の要領のみにて足るにあらずや」「拍子の緩慢なるを嫌ふ」「如何に遅くも歌詞一首にて五十秒内外なるべし」「試作作者楠美恩三郎申出候」と書込み。	依頼状あり。作詞者は依頼校の三年生で、仮校歌を作詞。それを依頼校教授の能典作と小野竹三が校閲した。謝礼15円。礼状あり(1／29)。樂譜は楠美および梁田作曲の二種類があるが、最終的にどちらが採用されたのかは不明。梁田作曲の樂譜に「四十三年九月九日發送」と書込み。楠美作曲の樂譜余白に「如此長き歌詞六首には冗漫の嫌なきかみ。楠美作曲の樂譜余白に「從來校歌なるものは其の要領のみにて足るにあらずや」「拍子の緩慢なるを嫌ふ」「如何に遅くも歌詞一首にて五十秒内外なるべし」「試作作者楠美恩三郎申出候」と書込み。	歌詞と樂譜のみ。樂譜余白に「四十二年九月十八日 東京府第三中學校長八田三喜宛送付」と書込。	東京音楽学校による「二十八日回答發送」の書込と回答の下書き(「御依頼ノ件ニ關シテハ特殊ノ御希望モ有之仕儀ナレバ直接ニ鳥居教授ニ御交渉相成候事可然ト存シ候」)がある。	依頼状あり。依頼校は作詞作曲者として当地の出身者である鳥居忱を指名してきたが、鳥居は辞退(10月22日付回答案)。依頼校は東京音楽学校に対し、再度鳥居に依頼してくれよう求めた(10／26)。この通知には、東京音楽学校による「二十八日回答發送」の書込と回答の下書き(「御依頼ノ件ニ關シテハ特殊ノ御希望モ有之仕儀ナレバ直接ニ鳥居教授ニ御交渉相成候事可然ト存シ候」)がある。	「新潟縣唱歌」。樂譜のみ。「荻野由之作歌三首ノウチ一首ヲ錄ス」「42

明43／11／6	明43／11／2	明43／10／14	明43	明43／9／22	明43	明43				明43／4／1
等小学校 五カ所尋常高 三重県度会郡	東京盲学校	学校 千葉県立生実	女学校 愛知県立高等	校 静岡英和女学校	校 三重県師範学	校 鹿島尋常高等	小学校 佐賀県藤津郡	名古屋市 学校	北海道北海中	校歌
校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	市歌	校歌
有	有	無	有	有	無	有	有	有	有	有
	尾上八郎	吉丸一昌		吉丸一昌	谷川士清					土井晩翠
有	有	無	有	有	無	有	有	無	無	有
本居長世	岡野貞一	島崎赤太郎	南能衛	島崎赤太郎	中田 章		山田耕作			本居長世
依頼状、樂譜送付状（12／21）、礼状（12／23）あり。	依頼状、樂譜送付状（11／17）。樂譜は単声版（変ホ長調）と混声四部版（ヘ長調）の二種。	依頼状あり。作詞も依頼。	樂譜のみ。樂譜裏貼付の歌詞に「下谷區谷中清水町17 上田萬年」、樂譜に「明治四十三年十月廿一日送付」と書込み。	記され、小学校の校歌依頼とも考えられる。樂譜送付状あり（10／12）。伴奏付。依頼状には、附属尋常小学校を設立したが校歌がまだない旨が	東京音楽学校は樂譜送付状（日付不明）の中で、歌詞が調和せず今回特に手がかかるとして、特別に15円要求している。東京音楽学校より仲介者高橋要次郎宛の報酬受取通知（7／25）、依頼校校長相澤英二郎宛の報酬受取通知（7／25）。作詞者名はここから判明。	樂譜のみ。樂譜に「四十三年七月六日」と書込み。歌詞は「なにゆえにくだきしみぞと ひととはば それとこたへん やまとだましひ」	（名古屋市歌）。歌詞のみ。	依頼状あり。樂譜に「四十三年七月五日淺田靖氏ニ校長交付」と書込み。	校歌歌詞案のみ。依頼学校名は不明であるが、歌詞に「筑波」「鬼怒河」などの地名が記され、また「龜陵は學校所在地の名なり」と書き込まれているところから、水海道中学校のものと思われる。	名古屋市

明44／5／10	明44／5／13	明44／4／18	明44	明44／3／9	明44／3／9	明44	明44	明44	明44	明44	明43
長深井康郎 新潟県佐渡郡	滋賀県坂田郡 小学校	埼玉県秩父郡 両神尋常高等 小学校	帝国軍人後援 会	郡平戸女兒尋 常高等小学校	長崎県北松浦 郡平戸尋常高 等小学校	女子職業学校	石川県青年団	金澤末藏	会	帝国軍人後援 会	
	郡歌	校歌		校歌	校歌	校歌	団歌	校歌			校歌
無	有	有	有	有	有	有	有	無	有		無
		吉丸一昌		丸山正彦	丸山正彦						
無	有	無	有	無	無	有	有	無	有		無
	岡野貞一	岡野貞一	大和田愛羅			岡野貞一	岡野貞一		岡野貞一		
ピアノ購入の仲介依頼。依頼状あり。東京音楽学校はヤマハ製のピアノを提案し、楽器店として共益商社を紹介している（5／17）。	依頼状、楽譜送付状案（6／1）、礼状（6／5）、謝礼領収書送付案（6／9）あり。謝礼15円。	「明治四十四年四月十八日 埼玉県秩父郡両神村長加藤留太郎氏ヨリ吉丸教授ニ小学校ノ作歌作曲ノ依頼アリ」というメモあり（依頼日はこのメモによる）。依頼校より校歌制定に関する調査書類あり（2／5）。	依頼状（平戸尋常高等小学校と連名）と、歌詞のみ。 付状（3／7）と楽譜のみ。	依頼状（平戸女兒尋常高等小学校と連名）と、歌詞のみ。	依頼状（平戸尋常高等小学校と連名）と、歌詞のみ。	東京音楽学校より下村英宛の作歌催促状（2／22）と、楽譜のみ。	『石川縣青年團之歌』。楽譜のみ（伴奏付）。	樂譜送付状案のみ（2／6）。学校名不明。	（陸軍記念日）。楽譜に「明治四十四年二月二日」と書き込み。楽譜送付状あり（2／2）。	仲介者柿原龍彦より、歌詞訂正などの都合により、まだ作曲に着手していないければ依頼を取り下げたい旨の書簡（12／8）と、東京音楽学校より、曲は出来ているが歌詞を訂正するなら曲も訂正するので知らせてほしい旨の回答案（12／26）のみ。	

明45 1 22	明45 4 20	明45	明45	明44	明44 6 13	明44	明44 6 16	明44 4 26	明44 4 30
長谷川伊之郎	学校	静岡県富士郡大宮町第二女子尋常高等小学校	岐阜中学校	北海道小樽区	茨城県立水戸高等学校	千葉県師範学校	福井県大野郡立女子実業学校	北海道札幌区幌高等学校	北海道厅立札幌高等学校
校歌	校歌	校歌	校歌	区歌	校歌	校歌	校歌	奉迎歌	校歌
有	有	有	有	有	有	有	無	有	有
郎 長谷川伊之	安元久雄		吉丸一昌	芳賀矢一		吉丸一昌		吉丸一昌	吉丸一昌
有	有	有	有	有	有	有	無	有	有
梁田 貞		楠美恩三郎	岡野貞一	島崎赤太郎	南能衛	楠美恩三郎		島崎赤太郎	岡野貞一
埼玉県入間郡富岡尋常小学校	樂譜送付。依頼者はアメリカ在住。	（天象唱歌）。樂譜のみ。 （小樽區歌）。伴奏付。樂譜送付状案（7/8）、礼状と歌詞修正の要請（7/14）、礼状および謝礼送付状（8/3）あり。謝礼は作詞と作曲に50円ずつ、計100百円。	樂譜のみ。「富尾木〔知佳〕教授ノ依頼ヲ受ク」と書込。3月16日依頼者に樂譜送付。	依頼状あり。直接の依頼者は浅間神社宮司安元久雄で、東京音楽学校富尾木知佳を介して依頼があった。依頼状の文面から安元の作詞と読みとれるが、その後の書簡では、改めて作詞を東京音楽学校に頼みたいとも述べている。	それぞれ二種類の歌詞「A、B」と旋律「a、b」があり、それらを組みあわせた四種類の楽譜〔Aa〕〔Ab〕〔Ab 伴奏付〕〔Bb〕が現存する。送付状あり（6/27）。	依頼状、樂譜送付状案あり（9/9）。謝礼15円。ほかに歌詞の字数と語調計算のメモ。	依頼状あり。資金不足のため、依頼取り下げ（6/21）。	（札幌區奉迎歌）。皇太子來訪に際して依頼されたもの。依頼状、樂譜送付状案（6/3）、謝礼領収書送付案（6/15）、礼状（6/8）、歌詞訂正依頼（7/7）あり。樂譜は伴奏付で、手稿譜とガリ版刷りのものと二種。謝礼50円。	伴奏付。依頼状、校歌制定要項、樂譜送付状あり（5/17）。

大2	大2	大2	大2／8／1	大1	大2／2／24	大1／12／28		大1	大1／10／15
小学校 剣吉尋常高等	学校 盛岡高等農林	学校 広島県立吳中	学校校友会 盛岡高等農林	門学校 新潟県医学専	第二高等学校 三好愛吉		雄 男爵 小澤武	岐阜県揖斐郡 北方尋常高等	校歌
校歌	校歌	校歌							有
有	有	有	有	有	無	無	有	無	有
高野辰之				本居豊穎			乘承 子爵 松平		大島爲足
有	有	有	有	有	無	無	有	無	有
草川宣雄	楠美恩三郎	前田久八	岡野貞一	校 東京音楽学			島崎赤太郎		楠美恩三郎
樂譜のみ。「大正二年十月」と書込み。	樂譜のみ。9月17日樂譜送付。楠美への謝礼額については、盛岡高等農林学校校友会(大正2年8月1日依頼)の備考欄を参照。	樂譜のみ。混声四部合唱。「大正二年十月三日前田久八作曲」と書込み。	『開校十周年記念歌』。依頼状あり。9月12日樂譜送付。依頼者より、楠美恩三郎に謝礼15円、岡野は10円と通知(10／9)。	『大行天皇奉悼歌』。樂譜のみ(文部省が頒布したもの)。「大正元年八月」と記載。	校歌歌詞委嘱先選定依頼。依頼状では、学生が森鷗外を希望しているものの森、上田萬年、幸田露伴、芳賀矢一、土井晩翠のうち誰が適任かを照会。それに対し東京音楽学校は、森鷗外を推薦する旨を回答(2／26)。	生徒用唱歌集の校閲依頼。島崎赤太郎が校閲。依頼状あり。	『日本の赤十字』。樂譜のみ。	樂譜送付状のみ(12／11)。	依頼状あり。

大3／11／2	大3	大3／9／4	大3	大2	大2	大2	大2／10／15	大2／10／22	大2／10／6
学校 京都府中郡峯 山尋常高等小	校歌 京都府中郡賀茂郡 東志和尋常高 等小学校	校歌 広島県賀茂郡 有智郷尋常高 等小学校	校歌 京都府綴喜郡 秋田県教育会	時習寮 第四高等学校	秦豊助	東京市 日蓮宗大学	保中学校 長崎県立佐世	小学校 笠石尋常高等	福島県岩瀬郡 笠石尋常高等
有	有	無	無	有	有	市歌		校歌	校歌 藤本春兒
	吉丸一昌				吉丸一昌			土井林吉	有 島崎赤太郎
無	有	無	無	有	有	無	有	有	有 島崎赤太郎
	島崎赤太郎			澤崎定之	島崎赤太郎			中田 章	
書込み。 『愛郷歌』。依頼状あり。依頼校が用意した歌詞に、適当な既成の東京音楽学校作曲作品を選定するよう希望。歌詞に「大正三年七月製」と			依頼状あり。	東京音楽学校より赤岩宛「作曲歌詞に關し回答の件」と記した書類のみ。	東京音楽学校より「舊臘御依頼」とあり、依頼は大正2年12月と考えられる。楽譜に「大正三年一月十六日作曲」と書込み。	東京音楽学校より依頼者宛に、三種類作つたので選択は任せる旨の通知(12／23)。	聖歌「立わたらる」「おのづから」。依頼状あり。学校儀式用の歌。日蓮上人作の歌に基いて作曲を依頼。	依頼状あり。土井林吉は土井晚翠の本名で、當時第一高等學校教授。	依頼状あり。依頼校校長の藤本が作詞し、校閥と作曲を東京音楽学校に依頼。歌詞を校閥した吉丸一昌は、全面的改作を主張した。

大4 ／ 10 ／ 12	大4 ／ 10 ／ 8	大4	大4	大4 ／ 9 ／ 15			大4	大4 ／ 7 ／ 22	大4	大4	大3 ／ 10 ／ 9	
中学校	学校	市立仙台商業	校附属小学校	宮城県師範学校	校	愛媛県新居郡玉津尋常小学	青森県三戸郡鳴守尋常高等	函館区立弥生尋常高等小学	大連高等女学	明治専門学校	館中学校	
校歌	校歌	校歌	校歌	校歌		校歌	校歌	校歌		寮歌	校歌	
有	有	有	有	無	有	有	有	無	有	有	有	
			尊福	男爵 千家			吉丸一昌				土井晩翠	
有	有	有	有	無	有	有	有	無	有	有	岡野貞一	
岡野貞一	船橋榮吉	楠美恩三郎	弘田龍太郎				中田 章			澤崎定之	（同窓會歌）。依頼状あり。	
依頼状に「御大典記念事業ノ一トシテ」とある。	依頼状あり。	樂譜のみ。「大正四年十月十四日」と書込み。	樂譜のみ。愛媛県新居郡玉津尋常小学校の校歌と考えられる。		樂譜（混声四部合唱、ただし下部は破損のためなし）のみ。依頼者、日付、作詞・作曲者ともに不明。	依頼状あり。東京音楽学校よりの依頼者宛通知に「貴校校歌作曲ハ本校卒業生弘田龍太郎氏ニ委嘱」とある（10／23）。	樂譜送付は10月8日。	依頼状に「御大典記念事業ノ一トシテ」とある。函館女学校の工藤富次郎による口添えの手紙あり（7／23）。	樂譜のみ。「大正四年二月廿七日山川博士私宅宛送付」と書込。（3／5）。	樂譜のみ。「御大典記念事業ノ一トシテ」とある。函館女学校の工藤富次郎による口添えの手紙あり（7／23）。	（3／5）。	

自大正五年五月 至大正十五年五月 作曲委託關係書類

依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	作詞者	楽譜	作曲者	備考
大5／5／4	福島県郡山町 郡山子守教場	校歌	有	下田歌子	有	中田 章	依頼状あり。
大5／5／4	北海道厅立根 室商業学校	校歌	有	高野辰之	大須賀績	岡野貞一	樂譜送付は6月5日。
大5／5／4	岡山医学専門 室	校歌	有	島崎赤太郎	大須賀績	中田 章	樂譜送付は6月5日。
大5／5／5	新潟県南蒲原 郡立三條商工	校歌	有	島崎赤太郎	大須賀績	岡野貞一	樂譜は伴奏付。校歌作詞打診は6月18日、樂譜送付は9月29日。歌詞に「六月十三日」と書込み。この依頼に関しては、前表の岡山医学専門学校（大正4年10月23日）の欄も参照。謝礼50円。
大6／2／5	立農蚕学校 徳島県麻植郡	校歌	有	中田 章	楠美恩三郎	中田 章	樂譜は伴奏付。樂譜送付は6月23日。
大5		校歌	有				依頼状あり。
大5／5／26	上海日本小学	校歌	有				依頼状あり。
大5	学校	校歌	有				依頼状あり。
大5	学校	校歌	有				依頼状あり。
大5		校歌	有				依頼状あり。
大5		校歌	有				依頼状あり。
大5		校歌	有				依頼状あり。
大4	東京高等蚕糸 学校	校歌	有	高野辰之	島崎赤太郎	島崎赤太郎	謝礼の領収について東京音楽学校よりの通知のみ（11／24）。
大4		校歌	有				依頼状に「御大典記念事業ノートシテ」とある。この依頼に関しては、次表の岡山医学専門学校（大正5年）の欄も参照。

大6／7／10		大6	大6／4／27		大6	大6／4／13	大6／4／26	大6	大5	大5
商業学校 神戸市立女子	福岡県立明善 中学校	職業学校 札幌区立女子	鐘淵紡績株式 会社住道支店	工場長	山隆俊 長男爵 横	石川県教育会 寮	(熊本県)習学 師範学校	奈良女子高等		
校歌	校歌	校歌			団歌	寮歌	校歌		市歌	
有	有	有		無	有	有	無		有	
土井晩翠		撰 岩佐英太郎								
有	有	有		無	無	有	無		有	
三郎 校 (楠美恩 東京音楽学)	楠美恩三郎	中田 章			岡野貞一	楠美恩三郎			楠美恩三郎	
依頼状あり。 謝礼20円。	樂譜のみ(甲・乙二種類)。楠美により樂譜に書込み(「注意、歌詞一番ヲ唱フニ大凡一分時ノ速度タルベシ 甲種ノ曲ハヤゝ品格アル苦ナリ」) 「熟練せざれば唱ふに苦しからんされど作曲者は乙種のものを喜んですゝむるものにあらず」「乙種 極めて簡易過たるもの」「注意、乙種ノ曲ハ歩調ヲトルタメノモノニテ甚簡易ノモノナリ」「されば行住坐臥進退の間に唱ふに適すべし 合唱用として然るべしと思ふ 易より難に入はるは常規なればともかくこの曲をはじめに唱ふべきかと思ふ」。	伴奏付。依頼状あり。謝礼15円。歌詞撰者は依頼校校長。	《唱歌》。作詞・作曲者紹介依頼に対し、大須賀績・中田章を紹介するという内容の通知のみ(5／18)。	《石川縣青年團歌》。依頼状あり。歌詞は三種類ある(一等～三等当選歌)。	《習學寮々歌》。依頼状あり。学校名は不明。仲介者吉岡侶甫宛の寮歌曲譜送付状あり(5／2)。歌詞は寮生から募集したもの。	2月21日付校歌作曲依頼に対し、「ヤム止ナキ事情」による作曲不可通知案のみ(4／25)。	19。謝礼30円。	上海居留民団より、上海の小学校校歌作歌作曲に対する礼状のみ(12／19)。	《静岡市歌》。樂譜のみ。「大正五年十月二十八日」と書込み。	

大8／2／24	大8	大8	大8	大7	大7／7／24	大7	大7	大7	大6			大6／10／4	大6
上桂範学校長井	静岡県女子師範学校	尋常小学校	金沢市菊川町	学校	山口県立萩中	淡路国洲本町	前橋中学校	水産講習所	高松小学校	神奈川県立農業学校	西岬村立東尋常高等小学校	千葉県安房郡	東京高等工業学校
その他	団歌	校歌	校歌	校歌			校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	
有	有	有	有	有	有	有	無	有	有	有	有	有	有
明治天皇		大須賀績							高野辰之	青木存義		大須賀績	
無	有	有	有	無	有	無	有	有	無	有	有	有	島崎赤太郎
中田章	島崎赤太郎	楠美恩三郎	楠美恩三郎	中田章		中田章	中田章	中田章		岡野貞一			『校友會歌』。9月28日楽譜送付。
御製作曲依頼。依頼状あり。二曲依頼。謝礼一曲20円、計40円。	『京都青年團歌』。樂譜のみ（伴奏付）。「八年四月一日」と書込み。	樂譜に「八年一月二十日出來」と書込み。	歌詞は「校歌案」。謝礼は校友会が払っている。	歌詞は「校歌案」。謝礼は校友会が払っている。	樂譜のみ。3月2日樂譜送付。「同月（3月）九日謝禮金拾五圓大須賀（續）教授ヲ經テ中田氏受領」と書込み。	樂譜のみ。「大正六年十二月十二日」、「大正六年十二月十七日植須佳年氏ニ交付」と書込み。	樂譜のみ。「空しく老いぬ」。歌詞のみ。依頼者、日付など不明。原稿用紙左半分に吉丸一昌作歌「心の花」。	業務の参考にするため最近の『東京音樂學校一覽』送付を希望する書類のみ（1／29）。	樂譜のみ。大正六年十二月十二日植須佳年氏ニ交付」と書込み。	樂譜のみ。依頼状あり。依頼者が作った曲を島崎赤太郎が添削した。村史、地図が添えられている。			

		大9／9／25	大9／7／6	大7	大9／4／6	大8／11／27	(再依頼)	大8／7／25	黃全興(台灣) 在住)
大阪市青年団	学校	桐生高等工業	徳島県三好郡 芝生尋常高等 小学校	東北帝國大学 工学専門部	年団 郡右左口村青	山梨県東八代 沖縄県島尻郡 東風平尋常高 等小学校	宗恭	秋田県平鹿郡 朝倉尋常高等 小学校長長沼	
団歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌				
有	有	有	有	有	有	無	有	無	
				土井晩翠			土井林吉		
有	無	有	有	無	無	無	有	無	
岡野貞一	弘田龍太郎	島崎赤太郎	岡野貞一				楠美恩三郎		
東京音楽学校より、学校職員や関係者により数曲できた中から、岡野貞一の曲を送付する旨の楽譜送付状案(日付不明)。	依頼状あり。校歌改作依頼。前年校歌の作詞作曲を東京音楽学校に依頼したが、当年四月より応用化学科を増設したため改作が必要になつた。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。歌詞に「高野(辰之)教授訂正」と書込み。	樂譜に「大正七年七月六日東北大學工學専門部監事新保德壽氏宛送付」と書込み。	依頼状あり。	依頼状あり。合同唱歌。依頼状あり。合同唱歌に適當な曲、あるいは歌詞の選定を依頼。それに対し、東京音楽学校が合同唱歌の用途などの情報を求めた(12／23)。	『松井勘兵衛』。一度依頼を取り下げ(9／23)、再依頼。土井林吉は、土井晩翠の本名。	中路國語練習會の歌)。依頼状のみ。台灣人たちが日本語を学ぶ会の歌。		

大9／12／3	釜山公立商業専修学校	校歌	有	土井林吉	中田 章	楠美恩三郎	依頼状あり。甲（儀式用）乙（行進用）二種の歌詞それぞれに作曲を依頼。謝札は150円用意。依頼状余白に「金百五十圓ヲ懸賞作曲募集ノ旨回答十二月十四日」と書込み。歌詞、楽譜とも甲乙二種現存。甲種は中田作曲（伴奏付。「十年二月二十三日出」と書込み）。乙種は楠美作曲（伴奏付。「十年二月二十三日送付」と書込み）。※依頼校校長伊香賀矢六は、明治40年に滋賀県立商業学校校長として校歌作曲を依頼。
大9	青森県三戸郡常高等小学校	校歌	有	高野辰之	中田 章	楠美恩三郎	依頼状あり。甲（儀式用）乙（行進用）二種の歌詞それぞれに作曲を依頼。謝札は150円用意。依頼状余白に「金百五十圓ヲ懸賞作曲募集ノ旨回答十二月十四日」と書込み。歌詞、楽譜とも甲乙二種現存。甲種は中田作曲（伴奏付。「十年二月二十三日出」と書込み）。乙種は楠美作曲（伴奏付。「十年二月二十三日送付」と書込み）。※依頼校校長伊香賀矢六は、明治40年に滋賀県立商業学校校長として校歌作曲を依頼。
大9	福井市北陸中学校	校歌	無	植松 安	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
大9	私立夕張工業学校	校歌	有	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
大9	大阪市青年連合団	校歌	有	中田 章	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
大9	岩手県東磐井郡大原尋常高等小学校	校歌	無	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
大9	佐賀県立鹿島中学校	校歌	有	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
大10／9／26	横浜高等工業学校	校歌	有	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
大10／5／27	京都高等蚕業学校	校歌	有	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
大10／6／1	岩手県東磐井郡大原尋常高等小学校	校歌	無	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
		楠美恩三郎	選歌	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
有	有	有	無	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
土井晩翠				岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
無	無		無	岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
		楠美恩三郎		岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
依頼状によると、作詞者は京都帝国大学の某文学士。	依頼状によると、作詞者は京都帝国大学の某文学士。	依頼状により。歌詞の添削と作曲を依頼。		岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）
依頼状によると、「中田（章）助教授に委嘱」と書込み。				岡野貞一	岡野貞一	中田 章	依頼状あり。（11／17）

		大13／3／6		大11／8／8	大11	大11／5／9		大10／11／30	大10／12／2
	山脇喜樹	栃木県知事	朝鮮総督府	学校	長野県松本中	幌第二中学校	北海道庁立札	名古屋市東海	長春商業学校
	団歌			校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	寮歌
有	有		有	無	有	有	有	有	有
穂積					土井晩翠				
有	有		有	有	有	無	有	有	有
島崎赤太郎	中田 章		岡野貞一	岡野貞一	中田 章	弘田龍太郎		中田 章	島崎赤太郎
（宇和島奉迎唱歌）。依頼状あり。楽譜は伴奏付。 されている。	（栃木縣青年團歌）。依頼状あり。楽譜は伴奏付。		（内地の歌）。依頼状に「謝金ハ約三百圓ノ見込」とある。楽譜は伴奏付。東京音楽学校より職員へ、「一般の朝鮮人が内地の実情を理解するため朝鮮総督府で懸賞募集をした「内地の歌」の当選歌詞に愉快に強く歌える曲をつけてほしい旨の通知案（日付、宛名なし）。この通知案余白に「楠美〔恩三郎〕、岡野、中田〔章〕、弘田〔龍太郎〕、梁田〔貞〕（島崎〔赤太郎〕、信時〔潔〕審査）」「岡野助教授作曲送付一六〇圓謝金」と書込み。歌詞余白に「二等當選歌詞に修正を加へたるもの」「本府採用歌詞」「京都市立商業實修學校教諭梶原壽一「抹消されている」と書込み。依頼者より東京音楽学校宛に、抽選にもれた歌詞も参考にするため、すべて送つてくれるよう希望する旨の電報あり（大10／10／27）。	樂譜は伴奏付。謝礼30円。礼状（7／25）に「作曲者〔謝礼〕25」と書込み。	樂譜は伴奏付。謝礼30円。礼状（7／25）に「作曲者〔謝礼〕25」と書込み。	依頼記録あり（名古屋市東區車通町一番地東海中學校長伊藤祐式作曲依頼 成ルベク十二月中 弘田助教授作曲 十一年二月二十八日送付）。余白に「作曲料30」と書込み。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。	依頼状に「作曲料50」と書込み。樂譜は伴奏付。依頼校よりの歌詞変更通知（12／22）に、依頼校校長森川勉が、東京師範學校一年のとき東京音楽學校校長村上直次郎に英語を教わったとある。なおその余白に「大正十一年二月廿一日 中田氏作曲 送付」と書込み。依頼校は南滿州鐵道株式会社が設立。	依頼状に「作曲料50」と書込み。樂譜は伴奏付。

大 13 / 4 / 14		大 13 / 3 / 18	大 13 / 1 / 29	大 13 / 1 / 28	大 13 / 1 / 28	大 13 / 1 / 2	大 13 / 1 / 28	大 13 / 1 / 28	大 13 / 1 / 28	大 11 / 11 / 21	財團法人帝國 森林会	その他
福井県立武生 高等女学校	蚕学校	愛知県新城農 学校	新潟県知事	横須賀高等女 学校	佐賀県教育会	佐賀県教育会	青森県北津軽 郡板柳尋常高 等小学校	高崎商業学校	寮總代	山口高等学校	山口高等学校	財團法人帝國 森林会
校歌	校歌			校歌		团歌	校歌	校歌	校歌	寮歌	寮歌	その他
有	有	有	有	有	有	有	有	有	無	有	有	有
	土井晩翠						大和田建樹			宮本忠孝		
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
中田 章	中田 章			信時 潔	楠美恩三郎	弘田龍太郎	岡野貞一	弘田龍太郎	信時 潔	田村虎藏		
依頼状あり。 依頼状には、 ことへの礼も述べられて いる。謝礼30円。	樂譜は変ロ長調とイ長調の二つの版があり、どちらも伴奏付。	國民精神作興之歌（我等は太陽民族）。依頼状あり。歌詞は懸賞募集によるもの。募集広告あり。レコード吹き込みを希望するので、信時潔への通知を依頼し、さらに校長宛に経費130円を送る旨の申し入れ（3/28）。樂譜は伴奏付。	（青年團歌）。依頼状あり（処女会歌と同時依頼）。樂譜は伴奏付。謝礼は処女会歌を含め100円。樂譜は伴奏付。樂譜に「13.2.12返」と書込み。佐賀県立佐賀高等女学校校長大塚薰よりの書簡封筒あり（中味なし）。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。皇太子成婚記念に制定。	樂譜のみ。「大正十四年十一月二十四日送付」と書込み。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。樂譜に「大正十二年一月二十四日送付」と書込み。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。樂譜に「大正十一年一月二十四日送付」と書込み。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。樂譜に「大正十一年一月二十四日送付」と書込み。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。樂譜に「大正十一年一月二十四日送付」と書込み。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。樂譜に「大正十一年一月二十四日送付」と書込み。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。樂譜に「大正十一年一月二十四日送付」と書込み。	（森林の歌）。歌詞と樂譜を印刷したもの二部のみ（一つは大正11年6月25日発行、もう一つは「乙種」とあり、大正11年9月25日発行）。監修は武井守正、選歌は本多靜六、武笠三とある。歌詞は二等一席今中圭三（兵庫県可多郡日野尋常高等小学校訓導）と二席古谷道賴（横浜市北方尋常小学校訓導）のものを修正して一つにまとめたもの。一等は該当者なし。

大14	大14／7／10				大12／12／7			大13／8／8			大12	大13／6／22	大13／5／10
校	石川県立農学校	農学校	福井県	石川県	商業学校	長野県立小諸	第七高等学校	校	鹿児島商業学	富山県立上市	秋田師範学校	弘前高等学校	中学校
校歌	校歌	奉迎歌	奉迎歌	校歌				校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
八波則吉		芳賀矢一	鴻巣盛廣			正風 男爵						土井晩翠	
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
信時潔	中田章	校撰	東京音楽学	校撰	東京音楽学	岡野貞一	信時潔	中田章	岡野貞一	岡野貞一	弘田龍太郎	中田章	岡野貞一、島崎赤太郎
但シ一步ヲ二數フ」と書込み。速度二就テ儀式用」=約80拍子」=約116	樂譜のみ。「儀式用」「大正十四年十二月十七日送付」「作曲者附言樂曲應援用」=約80稍緩徐ナル行進ノ時」=約76	依頼状あり。樂譜は伴奏付。依頼状余白に「七月十八日依頼十月五日樂曲送付」と書き込み。	『皇太子殿下奉迎式の歌』。印刷譜（伴奏付）のみ。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。	『薩摩義士』。樂譜は伴奏付。	依頼状あり。作詞は依頼校職員某による。樂譜は伴奏付。樂譜に「九月十六日送付」と書き込み。謝礼30円。	樂譜（伴奏付）のみ。	樂譜（伴奏付）のみ。	樂譜（伴奏付）のみ。	樂譜（伴奏付）のみ。	樂譜（伴奏付）のみ。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。	依頼状あり。樂譜は伴奏付。

依頼状あり。樂譜は二種類あり、そのうち一つは岡野作曲（伴奏付）。もう一つには赤字で「修正島崎教授」とあり、岡野作品を元に大幅な改作がなされたことがうかがえる（伴奏付）。

自大正十四年 至昭和三年 作歌作曲依頼書綴

依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	作詞者	楽譜	作曲者	備考
昭3／11／3	富山県立西礪波郡戸出尋常高等小学校	校歌	鴻巣盛廣	依頼校よりの歌詞訂正に関する通知のみ(11／7)。			
昭3／10／21	宮城県柴田郡船岡尋常高等小学校	校歌					
昭3／9／7	福島県立岩瀬農学校	校歌					
昭3／9／26	島根県立三刀屋中学校	校歌					
昭3／7／16	新潟県南魚沼郡六日町尋常高等学校	校歌					
	福岡県立宗像実業女学校						
	手塚義明	八波則吉	高田保馬	土井晩翠	土井晩翠		
	無	無	無	無	無		

依頼状二通あり(公的な書式のもの、および依頼校校長が東京音楽学校校長乗杉嘉壽に直接宛てたもの。日付はいずれも同じ)。御大典記念事業として制定。依頼者は作曲者に信時潔を指名。

依頼状あり。作詞者から依頼者への書簡(歌詞の解説)あり(9／24)。

依頼状あり。

依頼状あり。謝礼50円。

依頼状あり。

大15	岡山県	奉迎歌	無	

(<sup>△</sup>皇太子殿下奉迎歌)。依頼者より、送付された奉迎歌の伴奏譜中、第五章第四節の休符についての照会(4／28)に対し、東京音楽学校は、第15日付で奉迎歌の樂譜を受け取った旨と作曲の報酬額を照会する通知(5／3)。

大15／9／21	大15／1／1	昭2／11／16	昭2／1／29	昭2	昭2／11／18	校	昭3／2／2	岐阜県武義中学校	昭3／3／22	朝鮮総督府永興学校	昭3／3／9
等小学校 能登部尋常高	石川県鹿島郡 熊本県立商業 学校	尋常小学校 郡七和村高野	青森県北津軽 岡山県立津山	商業学校 奈良第一尋常 高等学校	浦和高等学校 長野県上伊那	郡伊北農商学	長野県上伊那	昭3／3／9	山梨高等工業 学校	女学校	相知実科高等 校歌
	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	寮歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌
無	無	有	無	有	有		有	有	有	無	有
		三浦圭三		水木		委員	伊北農商学 校々歌作成	佐佐木信綱	高野辰之		松尾
無	無	無	無	無	無		無	無	無	無	無
			岡野貞一								
依頼状のみ。余白の楽譜送付状下書き（10／5）に「作曲報酬金三拾圓」 ハ當方へ送金相成候」とある。	依頼状のみ。余白の回答下書き（10／5）に「本校講師梁田（貞）君ニ委 嘱」「報酬ハ通常金三拾圓以上」とある。	依頼状裏の回答下書き（11／20）に「通常報酬金三十圓ヲ要シ候間御承 知ノ上」とある。作詞者は弘前高等学校教授。	依頼状、礼状あり（3／2）。謝礼30円。	島崎赤太郎宛の依頼状によると謝礼予算100円。	依頼状あり。「校務主任」岡野貞一宛礼状あり（2／11）。	依頼状あり。	依頼状のみ。依頼者は作曲者として岡野貞一を指名。	依頼者より仲介者山中宛依頼状あり（1／17。年は不明）。			

等女学校	埼玉県立忍高											
校歌	郡歌	校歌	校歌			校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	奉迎歌
有	有	有	有			無	有	無	無	有	無	無
逸見宮吉	佐佐木信綱*		兒玉花外				藤村 作			藤村 作	土井晩翠	
有	有	有	無			無	無	無	無	無	無	無
	信時潔											
作詞者は依頼校校長。楽譜は校歌原曲草案（「足立作曲」とある）。												

『皇太子行啓奉迎歌』。依頼状のみ。伴奏付を希望。余白の回答下書きに「報酬ハ從來同様ノ場合ニハ金七十圓ニ有之」とある。

依頼状および、謝礼額照会の書簡のみ（2／18）。依頼状余白の回答下書き（2／17）に「報酬ハ金參拾圓」とある。

作詞者は、歌詞書き込みによると仙台高等学校教授。依頼校は謝礼額を30円程度に要望（11／17）。

依頼状あり。依頼状によると藤村は「東京文科大學教授」。藤村より、校歌原曲を作曲した依頼校教授服部宛に、曲を批評する手紙あり。依頼承諾に対する礼と、曲調に関する要望を述べた書簡のみ（9／11）。依頼状あり。歌詞に「東大藤村博士作歌」とある。

依頼状のみ。

「校歌（依頼状不明ノ分）」というタイトルページ。

『上野小學校の歌』（青森県）。歌詞のみ。

原曲の楽譜（「舊校歌」「男聲三部合唱編成願上候」と書き込み。中田章作曲）と、歌詞（「新校歌第二」「十一月三日」と書き込み）のみ。中田（秩父郡の歌）。歌詞のみ。「信時教授ニ委嘱」「九月二十八日 本校用」と書き込み。

大15／3／12 岡山県  
大15／2／13 石川県小松商業学校  
大14 北海道序立稚内中学校  
大14 大15／1／8 群馬県立高崎商業学校  
大14 大15／1／11 大分高等商業学校  
大14／1／22 秋田県立秋田工業学校校友会  
大14／1／22

												大日本連合女子青年団
	甲南高等学校	校柔道部	東京外国语学年団	愛媛県女子青年団	愛媛県聯合青年団	商業学校	静岡県立静岡学校	盛岡高等農林	岡山県立津山中学校	高岡高等商業学校	東京府向島高等女学校	校歌
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
		友枝昭雄				金井 浩				相馬御風	別所梅之助	幸田露伴
無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	岡野貞一											
歌詞とその訂正原稿のみ。												
歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。歌詞のみ。												
歌詞のみ。(一、ちひさき針の歩みをば／はかなきわざと思ふなよ／こつみこつみでうまざれば四季のころもの身にかなふ／たらまこと勤勉ぞ／まさなき人の寶なる二、かほそき指のはたらきを／かひなきわざと思ふなよ／つとめつとめてうまざれば／時をわかざる花もさく／たゞ誠實と勤勉ぞ／まさなき人の寶なる)												
樂譜(ピアノ伴奏付)のみ。 歌詞のみ。作詞者は東京外国语学校教授。												

享栄商業学校			姫路高等学校	福島県立安達中学校	山形県立谷地高等学校	茨城県立龍ヶ崎高等女学校			静岡県立巴高等女学校	埼玉県秩父郡尾田蒔小学校	女子職業学校	広島高等学校	学校	苦小牧高等女校歌
校歌			校歌	校歌	校歌	校歌			校歌	校歌	校歌			佐佐木信綱
有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有
堀 榮一			角田あらた	土井晩翠	土井晩翠					下村 英				
無	無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
			山田耕作											
歌詞のみ。作詞者は依頼校校長。「信時〔潔〕教授ニ依頼」と書込み。			歌詞のみ。 「東宮御成婚記念國民歌」。混声四部合唱譜のみ。「東京市民合唱團」 [Jan.1924]と書込み。		歌詞のみ。	歌詞のみ。	歌詞のみ。	歌詞のみ。	歌詞のみ。	歌詞のみ。	歌詞のみ。	歌詞のみ。	歌詞のみ。	歌詞のみ。

昭4 12 5	昭7 3*	昭5 11 5*	依頼年月日	依頼者	? 9 12	農林学校	秋田県立鷹巣	大分県立日田
日本勧業銀行	女子学校*	熊本市立高等	中野商店*	依頼者	校歌	学校	四日市高等女	山林学校
行歌		校歌*	社歌*	種別	校歌	福井市立福井	第三尋常高等	校歌
無		無	無	歌詞	有	小学校	福井市立福井	校歌
				作詞者	高野辰之		友田宣剛	有
無		無	無	楽譜	有			有
		片山穎太郎*	橋本國彦*	作曲者	岡野貞一			土井晩翠
依頼状のみ。		「作歌作曲依頼表」記載のみ。	「作歌作曲依頼表」記載のみ。	備	丸山環よりの依頼状のみ。 昭和3年制定。			無
自昭和五年至昭和八年作曲依頼関係								
歌詞のみ。								
「依頼年月日不明の分」というタイトルページ								
歌詞と依頼状、封筒のみ。封筒に「五月十三日」と書込み。依頼状余白の回答下書きに「謝禮ハ通常金三十圓ニ有之」とある。								
海多(あるいは海江田)喜次郎より曲の訂正を依頼する手紙のみ。「別紙「野の草」のやうなものではなくもつと爽快な明るい気持で歌へるものにして頂きたく御願ひます」とある。								
依頼状のみ。作詞を佐佐木信綱に依頼したことが読みとれる。余白の回答下書き(10/26)に「御依頼ノ作曲ハ特ニ御申越アリタルニ付岡野貞一教授ニ委嘱」とある。								
作詞者は陸軍教授正五位勲三等。用箋は福井市立日ノ出尋常高等小学校のもの。								

									昭4
昭5／5／7	昭5／4／30	昭5	昭5／2／4	昭5／2／28	昭5／2／19	昭5	昭4／9／7	東京植民貿易 語学校・東京 保善商業学校 ・東京保善工 業学校	
学校 倉実科高等女 神奈川県立鎌	校歌 埼玉県立川越 高等女学校	校歌 福岡県筑紫高 等女学校	校歌 岡山県津山実 科高等女学校	松下鹽光	愛知県（社会 教育主事）	大阪毎日新聞 社	慶尚北道水產 会	東京植民貿易 語学校・東京 保善商業学校 ・東京保善工 業学校	校歌
無	無	無	有	無	無	無	有		無
佐佐木信綱			石井楚江				根津鹿人 (ほか)		
無	無	無	無	無	無	無	無		無
							梁田 貞 (ほか)		
依頼状のみ。	依頼状あり。 依頼校校長の逸見宮吉はそれまでにも数校の校歌作詞を行 つてている。	東京音楽学校よりの電報案(「コウカケフオクル、ノリスギ」)のみ(3／ 3)。	依頼状あり。依頼者は福島県耶麻郡岩月村在住。自作の漢詩集の序文に 対する作曲依頼だったが、承諾せず(3／4)。	依頼状あり。東京音楽学校より作曲料に関する回答案(2／25)中に、「從來作曲料は小學校は金參拾五圓以上、中等學校は金五拾圓以上の事 に内規相成」とある。料金体系の初出。	《愛知縣聯合女子青年團歌》。依頼状あり。謝礼予算は100円。	東京音楽学校より依頼受諾の回答案のみ(2／6付)。詳細打ち合わせ のため、電話での日程調整を打診している。文面から依頼者が書面によ つてではなく、直接来校の上依頼したことが読みとれる。	根津、二等原田貞輔、三等原田靜。樂曲は一等梁田、二等村田ミイ。謝 礼200円。		

昭5／6／7	富山県立婦負農学校校友会									
昭5／6／17	和歌山高等商業学校	石川県江沼郡瀬越村	岡山県味野高	千葉県安房郡山本尋常高等等女学校	愛媛県立松山中学校	青森県学務部社会課	麟麒麦酒株式会社仙台工場	昭5／9／9	昭5／9／10	昭5／7／17
校歌								有	有	無
無										
相馬御風										
無										
成田爲三	橋本國彦							無	無	無
依頼状あり。依頼者よりの催促状（日付不明）に「昭和五年九月廿七日成田氏ニ通知ス」「昭和五年拾月貳日成田氏ヨリ曲譜到達ス」「昭和五年拾月參日送付済」と書込み。	依頼状あり。歌詞余白に「橋本君ニ依頼ノコト」と書込み。	依頼状あり。依頼者は学生による作曲を希望していたが、東京音楽学校は、作曲科がないため適当な人に委嘱する旨を回答（9／12）。	依頼状あり。依頼状（片山穎太郎、成田爲三が担当）。審査結果は一等松浦千代子、二等相馬克夫、三等小向博。	依頼状はあるが日付不明。	依頼状あり。改作の依頼だったが、作曲が困難なため東京音楽学校は新作を勧めている。	校歌校閲依頼。依頼状のみ。「廿三日送付済」と書込み。	『小學校校歌』。依頼状あり。小學校の校名は不明。	依頼状あり。歌詞は依頼校学生から募集した。その他本書994頁（レコード吹込承認依頼）、1000頁（四部合唱編曲依頼）、1020頁（レコード吹込依頼）を参照。	依頼状あり。歌詞は依頼校学生から募集した。その他本書994頁（レコード吹込承認依頼）、1000頁（四部合唱編曲依頼）、1020頁（レコード吹込依頼）を参照。	依頼状あり。御大典記念事業。謝礼50円要求に対して40円が限度と書かれている。

										昭 5
昭 5 / 10 / 3	東京高等師範学校附属小学	北海道立網走高等学校	文部省社会教育局	文部省社会教育局	千葉県立佐原高等学校	神奈川県	岡山県	農学校	愛知県岡崎師範学校	校歌
校歌	校歌			校歌	県歌	奉迎歌		校歌		無
有	無	無	無	無	有	有		有		無
佐佐木信綱	高野辰之			高野辰之*	石井克昌			土井林吉		
無	無	無	無	無	無	無		無		無
信時 潔*	片山穎太郎*		橋本國彥*	信時 潔*	船橋榮吉*	信時 潔*		岡野貞一	片山穎太郎*	
依頼状あり。依頼校は東京音楽学校名義での作曲を希望し、承諾された。	依頼状あり。依頼校教諭で東京音楽学校卒業生の新野仁助を通して依頼し、作詞者は高野を指名。謝礼120円。	8)に「十月八日 准 奉迎歌 十月十三日 准 青年の歌」と書込。	『日本青年の歌』。『令旨奉答歌』と同時依頼。依頼状あり。歌詞は懸賞募集によるもの。作曲者名は東京音楽学校名義。依頼に対する回答案(10/8)に「十月八日 准 奉迎歌 十月十三日 准 青年の歌」と書込み。	依頼状あり。歌詞は「我が縣の歌」懸賞募集一等当選作。	依頼状あり。陸軍特別大演習に天皇が行幸することとともになう依頼。謝礼100円。	『當學校へ委嘱されし著作物（作曲）の著作権につきて』。本項末に全文掲載。余白に、「島崎（赤太郎）君」の書き込みに統いて乘杉校長のサインあり。	依頼状あり。作曲者として岡野を指名。土井林吉は土井晚翠の本名。	拂相成様願度とあり、さらに「昭和五年拾月七日送付済」と書き込み。	東京音楽学校よりの通知(9/8)に「報酬は前例に依り金五拾圓御支拂相成様願度」とあり、さらに「昭和五年拾月七日送付済」と書き込み。	

												昭5
昭5 12 1	昭5 10 3	昭5 10 30	昭5	昭5 10 30	昭5 11 4	昭5 10 7	昭5	三重県桑名郡 桑名町 民聲	立命館大学	岡山市	講談社	大日本雄弁会
農学校	岩手県立花巻	製壇工場	麒麟麦酒会社	会名古屋市教育	奈良県立吉野	学校	町尋常高等小	新潟県高田高	秋田県	新報社	学生歌	市歌
校歌		工場歌		校歌		校歌						
無	有	有	無	有	無	有	無	無	無	無	無	有
土井晩翠			石田元季		石田元季					土井林吉		
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	岡野貞一	島崎赤太郎	
片山穎太郎*		橋本國彦*	信時潔		片山穎太郎*			片山穎太郎		片山穎太郎		
依頼状あり。				依頼を承諾しない旨の回答のみ(11/7)。				（名古屋市行進歌）。依頼状あり。なお、仲介者須田昌平からの依頼状は10月8日付。依頼者は東京音楽学校名義での作曲を希望。	（縣民歌）。依頼状あり。歌詞修正と作曲を依頼。歌詞修正は高野辰之が担当。礼状あり(11/5)。教育勅語発表四十年記念。	依頼状あり。東京美術学校校長正木直彦を通じて依頼。作詞者は、土井晩翠のこと。	依頼状あり。依頼者が作曲者として岡野を指名。	（天皇讃迎歌）。歌詞のみ。余白に「昭和五年拾月廿參日完結」の印および「島崎講師作曲送付済」と書込み。

昭 6 / 3 / 28	昭 6 / 2 / 10	昭 6 / 1 / 19	昭 6 / 2 / 23	昭 6 / 1 / 15	昭 6 / 12 / 23	昭 5 / 1 / 16	昭 6 / 11 / 23	昭 5	昭 5
校 実科高等女文学	滋賀県木の本 寺中学校	石川県立大聖 敬三郎	宇美町 福岡県糟屋郡 高津	学校 埼玉県立工業	学校 滋賀県立新莊 大津東尋常小	学校 山形県筑紫中 高等学校	学校 福岡県下閉伊 郡普代村	長崎県立五島 高等女学校	(青森県) 聖光社研究部
校歌	校歌			校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌
有	無	無	有	有	有	無	無	有	無
巖谷小波				佐野保太郎	巖谷小波	高野辰之	生田徳太郎	豊田亨	
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
片山穎太郎*	片山穎太郎*			橋本國彥	岡野貞一*	船橋榮吉*	片山穎太郎*	長谷川良夫	橋本國彥
依頼状あり。	依頼状あり。			依頼状あり。作詞者は文部省図書監修官。 『農家四季歌』。依頼状あり。個人ではなく何らかの団体名義で申し込 むように、として承諾しない旨を回答(1/27)。		依頼状あり。依頼校が作詞者として高野を指名。	依頼状あり。依頼者は依頼校校長。歌詞は八波則吉(第五高等学校教 授)が添削した。	依頼状あり。作詞者は依頼校校長。歌詞は八波則吉(第五高等学校教 授)による。(甲種師範科3年生)。依頼者が学生の作曲に難色を示した ため、担任が校閲の上送付ということで決着。	作曲承諾の回答あり(12/15)。作詞者は依頼校校長。 29)。依頼状あり(日付不明)。宗教団体の歌を作曲依頼。依頼承諾せず(11/

昭6／7／19	昭6／7／18	昭6／6／24	昭6	昭6	昭6／2／13	昭6	昭6／4／21	昭6／2／16	昭6／1／20	昭6／4／4	東京慈恵会医院
中学校	富山県立礪波	横浜専門学校	香川県高松第一中学校	群馬県大間々	三重県連合女子青年団	高等女学校	埼玉県立本庄	寺京都市東本願	学校京城公立商業	中学校兵庫県立洲本	高等学校山形県立米澤
校歌	校歌	校歌	校歌	团歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌
無	有	有	有	有	有	有	無	無	有	無	有
	土井晩翠	堀澤周案	中村孝也	中田俊造	高野辰之				青木正	高野辰之	昭憲皇后
無	無	無	無	有	無	無	無	無	無	無	無
片山穎太郎*	岡野貞一*	船橋榮吉*	橋本國彦*	梁田貞、岡野貞一*	信時潔	信時潔	片山穎太郎*	岡野貞一	信時潔*	信時潔*	船橋榮吉*
依頼状あり。謝礼50円。歌詞は相馬御風が校訂。	依頼状あり。	依頼状あり。	依頼状は6月24日付だが、文面からそれ以前に直接依頼されたとみられる。依頼承諾の通知あり（6／27）。	歌詞のみ。	（三重県女子青年團歌）。作詞者より、曲を作り直すように依頼する手紙（3／30、4／4）、礼状（5／21）あり。田邊尚雄振り付けの舞に関する資料あり（『處女の友』三重縣版 四月號）。当該曲の楽譜も掲載。	（同朋の歌）。楽譜送付状（2／27）、礼状電報（3／4）、東京音楽学校よりその後の様子問い合わせ（4／28。余白に「昭和六年五月拾八日完結」の印）あり。	依頼状あり。礼状あり（5／1）。作詞者は第一高等学校教授で依頼校卒業生。歌詞校閲は地元出身の文学博士藤井乙男。	依頼状あり。礼状あり（5／1）。作詞者は第一高等学校教授で依頼校卒業生。歌詞校閲は地元出身の文学博士藤井乙男。	依頼状あり。	依頼状あり。	（御歌）。歌詞は、慈恵会にそれぞれ明治44年と大正7年に下賜された歌二首。依頼状あり（二曲依頼）。ただし依頼承諾の回答は3月20日付なので、実際の依頼はそれ以前と思われる。

										昭6／5／20	
昭6／11／13	昭6／10／17	昭6	昭6／7／1	昭6／9／16	昭6／9／4	昭5	昭6／1／17	熊本県	奉迎歌	有	
埼玉県女子師範学校	兵庫県明石市等小学校	富山県射水郡海老江尋常高	台灣總督府台北第二師範学校	山口県立徳山高等女学校	三重県立鈴鹿	川崎市宮前尋常小学校	広島県立福山高等女学校	稻葉小三郎	熊本県学務部	有	
校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	無	信時潔*	有	
有	有	有	無	有	無	無	無	無	信時潔	無	
尾上柴舟	高野辰之	相馬御風	高野辰之	木枝増一		某	稻葉小三郎	東京音楽学校より、二つある歌詞がどちらも校歌には不向きであるとの見解を付し、歌詞の改作をすすめる旨を通知（11／10）。依頼校より、作詞者に打診し新しいものが出来次第、作曲を頼む旨の回答（11／13。「打切」の書き込み）。	依頼状あり。天皇臨席による秋の陸軍特別大演習のために依頼。謝礼予算100円。楽譜は印刷譜。作曲者名は東京音楽学校名義。礼状あり（9／23）。	依頼状あり。東京音楽学校より、歌詞が長すぎて作曲できなため返却する旨回答（1／22。「打切」の書込）。作詞者は滋賀県立今津中学校教諭。	依頼状あり。東京音楽学校より、二つある歌詞がどちらも校歌には不向きであるとの見解を付し、歌詞の改作をすすめる旨を通知（11／10）。依頼校より、作詞者に打診し新しいものが出来次第、作曲を頼む旨の回答（11／13。「打切」の書き込み）。
無	無	有	無	無	無	無	無	無	依頼状あり。天皇臨席による秋の陸軍特別大演習のために依頼。謝礼予算100円。楽譜は印刷譜。作曲者名は東京音楽学校名義。礼状あり（9／23）。	依頼状あり。天皇臨席による秋の陸軍特別大演習のために依頼。謝礼予算100円。楽譜は印刷譜。作曲者名は東京音楽学校名義。礼状あり（9／23）。	
信時潔	船橋榮吉	岡野貞一	岡野貞一*	信時潔	片山穎太郎						
依頼状あり。	依頼状あり。依頼校が高野と船橋を指名。謝礼100円。	作詞作曲完成後、依頼校が歌詞修正に伴い楽譜の淨書を依頼（11／18付）。その謝礼は1円50銭（11／24）。礼状あり（12／5）。依頼状あり（7／1）。謝礼予算は作詞作曲両方で200円。礼状あり（10／20）。	作詞者は、奈良女子高等師範学校教授。東京音楽学校木内主事宛依頼状あり。木内はすでに退官していたため庶務に回送、依頼承諾（9／18）。謝礼50円。	直接来校の上依頼。校長が欧米出張中につき、庶務課が代行して承諾の旨回答（9／7）。謝礼50円。							

昭 7 / 2 / 20	昭 6 / 9 / 7	昭 6 / 11 / 26	昭 6 / 2 / 1	昭 7 / 2 / 12	昭 7 / 2 / 3	昭 6 / 11 / 19	昭 6 / 12 / 16	昭 6 / 11 / 17	昭 6 / 11 / 5	昭 6 / 11 / 21	昭 6 / 11 / 16	福島県郡山教 育部会	
校 見沢高等女子学 校	北海道厅立岩 神宮皇學館		鹿児島県立伊 作高等女学校	報知新聞社	宇都宮市商業 学校	市中学校	北海道厅立余 校	全国神職会	朝鮮黃海道海 州公立高等普 通学校	奈良県郡山高 等女学校	京都府立京都 第三中学校		
有	有	無	有	有	有	無	有		校歌	校歌	校歌		有
高田保馬	安藤正次		佐々木信香	佐佐木信綱	相馬御風	土井晚翠	全国神職会			相馬御風			土井晩翠
無	無	無	無	無	無	無	有		無	無	無		無
橋本國彦*	船橋榮吉		船橋榮吉*	岡野貞一*	岡野貞一*	片山穎太郎	信時 潔*		岡野貞一*	岡野貞一	信時 潔		橋本國彦
依頼状あり。				依頼状あり。 （古賀連隊長）。依頼状あり。			依頼状あり。 （神社参拜の歌）。依頼状あり。依頼者は東京音楽学校名義での作曲を希望。 謝礼予算100円。			依頼状あり。	依頼状あり。	依頼状あり。 依頼校は作曲者として信時を指名。謝礼50円。	依頼状あり。 依頼者は東京音楽学校名義にするように希望。 その他の本書1026頁（筝曲譜に編曲依頼）を参照。

『市民歌』。依頼状あり。

昭7／1／17 土井晩翠

土井晩翠

信時潔

昭6／11／16	昭7	昭7／3／4	昭7	
奈良県立吉野高等学校	陸軍省及海軍省	範学校三重県女子師常小学校	川崎市幸町尋常小学校	
校歌		校歌	校歌	
有	有	有	有	有
	佐佐木信綱	佐佐木信綱	佐佐木信綱	
無	有	無	無	無
橋本國彦	船橋榮吉	岡野貞一*	岡野貞一*	
依頼状あり。近藤忠義が歌詞を改作。最初は片山穎太郎が作曲する予定であったが、歌詞の訂正や近藤の病気などで遅延し、最終的には橋本國彦が作曲。	『皇軍の歌』。主に直接交渉していたのは、海軍省教育局海軍中佐三坂直廉。東京音楽学校はレコード吹込みも承認。作曲者名は東京音楽学校名義。	依頼状あり。謝礼50円を予定。	10) 2月20日に依頼校校長遠藤明が直接来校の上、依頼。礼状あり（3／10）。	タイトルは、現存歌詞や他の書類では「國旗の歌」だが、土井の手紙の中ではすべて「旭日の旗の歌」。現存歌詞は第一稿（昭和6年6月11日付報知新聞宮城県版記事の印刷複製）及び第二稿（印刷版）。第一稿には「憂國の志士遠田郡小牛田町村上勝衛氏は先に國旗祝祭日設定請願運動を起し衆議院の採擇となつた事は既報の通りだがついに詩人土井晩翠氏を動かし非常な同情と共にこの程同氏より「國旗の歌」の歌詞を贈られた。村上氏は感激のあまり直ちに上京世界的作曲家近衛秀麿氏に託してこれが作曲を急いで居る」とある。しかし土井よりの乘杉校長宛依頼状には、土井の発案で村上が近衛に作曲を依頼したものの「夏休中にはきっとやるとの甘諾を得たのですが、今日に到る迄再三再四の催促も無効」のため、東京音楽学校に作曲を依頼したい旨が書かれている。学校が、近衛への依頼を正式に取り消さないうちは依頼を引き受けかねる旨を伝えた（1／8）。に対し、土井が「御校への作曲の依頼は小生の名儀で、小学生の一切の責任」として重ねて依頼した（1／25。乗杉校長宛）ため、50円程の謝礼で作曲を引き受けた（1／27）。学校はその後も近衛への依頼取り消しについて照会し続け、さらに「近衛氏に於て隔意なき様話なき場合當方に於て作曲せるものと發表することは如何が乎と存ぜられ候」（1／29）としている。土井より、村上が近衛への依頼を取り消したことを見知らせる（2／22。乗杉校長宛。追伸で、以前に土井が作詞し近衛に作曲を依頼した仙台の常盤木女学校校歌もまだ完成に至っていないことを伝えている）。学校はようやく作曲に着手した（2／25）。学校は楽譜送付状（3／4）で信時潔に作曲させた旨を伝えて近衛の許可を得るまでは公表を見合わせるよう再度要請し、土井もこれを了承した（3月5日付礼状）。

昭7／3／29	京都府立河守	校歌	荒木良雄	無	岡野貞一*	依頼状あり。作詞者は姫路高等学校教授。
昭7／3／5	奈良県女子師範学校	寮歌	近藤忠義	無	橋本國彦	依頼状、礼状（5／31）、寮歌作曲資料（校歌楽譜・歌詞、生徒による寮についての作文）あり。
昭7／4／27	岩手県東磐井郡郡島村千葉省一	校歌	千葉芳外	無	信時潔	（東稻小唄）。依頼状あり。依頼状によると依頼者は、歌詞の校閲を相馬御風と白鳥省吾に依頼中。レコード無料吹込みも希望している。
昭7／5／3	京都高等工芸学校	校歌	近藤忠義	無	橋本國彦	依頼状あり。礼状（5／31）、寮歌作曲資料（校歌楽譜・歌詞、生徒による寮
昭7／5／3	農業学校	校歌	千葉芳外	無	信時潔	についての作文）あり。
昭7／5／3	秋田県立金足葉省一	校歌	近藤忠義	無	橋本國彦	（東稻小唄）。依頼状あり。依頼状によると依頼者は、歌詞の校閲を相馬御風と白鳥省吾に依頼中。レコード無料吹込みも希望している。
昭7／6／3	長野県立小県中学校	校歌	佐賀市女子師範学校国語科職員	無	信時潔*	依頼状あり（6／8）。後の昭和9年に、レコード吹込み承認願を出して
昭7／6／3	奈良県立畝傍	校歌	佐賀市女子師範学校国語科職員	無	信時潔*	いる（本書1001頁参照）。
昭7／5／10	和歌山高等商業学校	校歌	土井晩翠	無	信時潔*	依頼校教諭で東京音楽学校卒業生の大川きみを通じて、校歌の歌詞および曲の校閲を依頼。依頼状あり。岡野貞一が校閲を担当。校歌作曲は大川とみられる。東京音楽学校は、校歌の原曲はよくできており使用に堪えるという岡野の評を伝えている（5／9）。
昭8	宮城県名取郡帰心会	校歌	岡野貞一*	無	信時潔*	（教育童歌）。依頼状あり。東京音楽学校より、謝礼30円が可能か、といふ問い合わせあり（5／11。「中絶」と書込み）。
		校歌レコード吹込承認依頼。依頼承諾。（6／14）。その他本書986頁（校歌作曲依頼）、1000頁（四部合唱編曲依頼）、1020頁（レコード吹込み依頼）を参照。	依頼状あり。依頼校が作曲者として岡野を指名。	無	信時潔*	（教育童歌）。依頼状あり。東京音楽学校より、謝礼30円が可能か、といふ問い合わせあり（5／11。「中絶」と書込み）。

昭7 9 14	昭7	昭7 8 24	昭7 7 30	昭7 7 21	昭7 6	昭7 5 18	昭7 6 16	昭7 1 11
社	東京日日新聞	愛媛県立八幡浜高等学校	長崎県南松浦郡三井楽尋常高等小学校	山梨県立韮崎中学校	北部保養院	農林学校	大阪府帝国高等女学校	埼玉県立秩父高等女学校
有	有	有	有	有	無	有	有	有
梯道雄	佐伯秀雄	豊田亨	高野辰之	内務省選定	高野辰之	土井晩翠	栗山直扶	高野辰之
無	無	無	無	無	無	無	無	無
船橋榮吉	橋本國彦*	成田爲三*	岡野貞一*	岡野貞一*	岡野貞一*	岡野貞一*	信時潔	岡野貞一
（大東京市歌）。依頼状あり。作曲者として船橋を指名。同時に東京音楽学校の合唱團にレコード吹込みも依頼。歌詞は懸賞募集によるもの。謝礼200円。	作曲に際しての「作詞者の意見」あり。歌詞は高野辰之が添削。	依頼状あり。作詞者は長崎県立五島高等女学校校長。	依頼状あり。作詞も依頼。依頼状あり。謝礼70円。	依頼状あり。謝礼30円。	東京音楽学校よりの歌詞送付状（7/5）から、社会教育局片岡健助を通じて依頼されたことが読みとれる。	依頼状あり。土井が依頼者を紹介する旨を書き込んだ名刺あり。依頼校から、謝礼30円で受けた旨の申し入れ（7/9）。	依頼状あり。聯合青年団と同時に依頼。謝礼は聯合青年団とあわせて100円。	依頼状あり。福島県聯合女子青年団と同時に依頼。謝礼は女子青年団とあわせて100円。

										昭7／8／22
昭7／12／3	昭7／11／25	昭7／12／7	昭7／9／19	昭7／11／7	昭7／11／4	昭7／10／6	昭7	昭7	昭7	山口県仙崎町
学校 高知市高等小	寮 高知市高等小	農学校 福井県立坂井	範学校 宮崎県女子師	本町支部 鹿又村青年団	高等小学校 宮城県桃生郡	静岡県立谷村 山梨県磐田郡	師範学校 東京女子高等	業学校 埼玉県浦和商	青年訓練所 伊藤俊雄	
	寮歌	校歌	校歌			校歌			校歌	
	無	有	有	有		有	有	有	有	有
		友田宣剛	藤村作	佐藤覺治	尾崎楠馬	野口雨情			巖谷小波	
		無	無	無	有	無	無	無	無	無
			岡野貞一*		栗田國彦	信時潔*	橋本國彦*	岡野貞一*		
(12／6)。	依頼状あり。	依頼状あり。 （皇軍の歌）を12月4日に放送したい旨の放送許可願。東京音楽学校より、すでに事後で遺憾であり、次回からは適切な手続きをするよう要請	依頼状あり。作詞者（陸軍士官学校所属で福井出身）を通じて依頼。	依頼状あり。坂校歌の歌詞・楽譜あり。謝礼は100円を予定。	（本町支部歌）。依頼状あり。依頼者は無報酬で作曲を依頼してきたが、東京音楽学校は、生徒に適任者はなく他所に依頼すればやはり謝礼が必要、ということを伝えて断った（11／14）。	依頼状あり。依頼校は葦崎中学校校歌と同様「最低値段」（30円）での作曲を希望していたが、東京音楽学校は作詞作曲で通常75円なので最低でも35円と回答し、その値段で決着。	（行進歌）。歌詞のみ。「作歌作曲依頼表」記載の年月日は「昭和七年十月七日」。	埼玉師範学校高橋教授を通して依頼されたことが読みとれる。東京音楽学校より依頼承諾の回答（9／30）に「昭和七年拾月五日完結」の印あり。謝礼60円。	（青訓歌）。依頼状あり。	

至昭和九年 作曲依頼關係書類

										依頼年月日	依頼者	種別	
										和歌山市役所*	文部省*	市歌*	備考
										樺太泊居尋常高等小学校*	校*	校歌*	奉祝歌*
昭 8 / 1 / 31	昭 7 / 12 / 1	陸軍省新聞班	福岡県小倉高等女学校	兵庫県加東郡小野小学校*	報知新聞社*	実業教育五十周年記念会*	校*	福井県鯖江郡女子附属小学	樺太泊居尋常高等小学校*	校*	校歌*	市歌*	「作歌作曲依頼表」記載のみ。
無	有												「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼額は「百圓外（六百圓）」とある。
		八波則吉											依頼表記載の年月日は昭和9年1月20日。
無	無												「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼額は「百圓外（六百圓）」とある。
		橋本國彦*		安部*	下總覺三*	信時潔*		下總覺三*	岡野貞一*	信時潔*			「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼額は「百圓外（六百圓）」とある。
皇軍の歌第二版点検依頼。依頼状および、点検の結果誤記が見つかり、訂正を求める旨の回答（2/2）あり。		依頼状あり。作詞者は第五高等学校教授。			「大阪復興の歌」。「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼10円。依頼表記載の年月日は昭和9年12月4日。	「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼10円。依頼表記載の年月日は昭和9年12月4日。	「實業教育の歌」。「作歌作曲依頼表」記載のみ。						「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼額は「百圓外（六百圓）」とある。

		昭8／4／10	昭8／2／27	昭8／4／5	昭8	昭8／2／23	昭8／2／15	満州国文教部 学務司長
校*	富山県東礪波郡庄下村小学	県立高知第二高等学校、高知高女学校	新潟県佐渡郡相川中学校	市日吉尋常小学校	福岡県久留米市	宮城県若柳高等学校	長野県上水内郡栄尋常高等小学校	
校歌		校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	
有		有	有	有	有	有	有	有
		葛原滋	相馬御風	八波則吉	土井晩翠	土井晩翠	淺井冽	
無		有	無	無	無	無	無	有
岡野貞一*		信時潔	岡野貞一*	岡野貞一*	島崎赤太郎	橋本國彥*	岡野貞一	
歌詞のみ。余白に「昭和八年五月拾八日完結」の印と、「小學校」「富山縣庄下村文野中學校」と書込み。		依頼状あり。作曲者として信時を指名。一度別の歌詞で依頼されたが、依頼校の意向で改作。謝礼50円。	依頼状あり。		（先儒頌徳歌）。歌詞と礼状（4／9）のみ。歌詞余白に「昭和八年四月八日」の印と「中山久四郎宛送付」「（島崎赤太郎作曲）」と書込み。	依頼状あり。依頼校は町立。	依頼状あり。	満州国国歌校閲依頼。現存する楽譜は副本。東京音楽学校は、一国の国民ともなれば慎重に審議する必要があるため、急ぐ場合は原作者の園山民平より原稿が直接届くよう手配願うと伝えた（2／1）。依頼者が、国歌の原曲が完成したので早速校閲願いたいが回答を待っていると三月一日の建国記念日に間に合わないのでとりあえず原曲のまま出版・レコード吹込みをする、とした（2／21）のに対し、学校はそれを了承したが、同時に原曲は長すぎて歌うには不適と指摘している（3／2。「完結」の印あり）。

昭 8 / 7 / 6	昭 8 / 8 / 15	昭 8 / 8 / 5	昭 8 / 7 / 3	昭 8 / 7 / 3	昭 8 / 7 / 3	昭 8	昭 8 / 5 / 19	昭 8 / 5 / 7
範学校 愛知県女子師 女学校	県立富山高等 範学校、富山 県立富山高等 学校	大阪府天王寺 師範学校内 友声会	福井県 中学校	富山県立高岡 中学校	京都帝国大学 校	青森市立青森 実科高等女学校 校	兵庫県朝来郡 生野尋常高等 小学校	栗山直扶 校歌
校歌			奉迎歌	校歌		校歌		有
有	有		有	有	有	有	三浦圭三	栗山直扶
			募集	相馬御風				橋本國彦*
無	無		無	無	無	無	無	無
信時 潔		橋本國彦*	信時 潔	岡野貞一*	橋本國彦*	信時 潔	信時 潔	橋本國彦*
依頼状あり。 作曲者として信時を指名。謝礼100円。	（國旗掲揚の歌）。依頼状に「松島ますみヨリ依頼」と書込み。謝礼40円。	講師派遣依頼。依頼状あり。講師として澤崎定之を指名。8月8日付で派遣承認（講習会は8月23日から四日間）。澤崎より東京音楽学校宛に、齊藤に手伝いを依頼した旨の報告（8/20）。依頼者より東京音楽学校宛に、澤崎が26・27日に出席不能になつたため代理人派遣を要請（8/23）。それに対し、暑中で人手がなく代理を派遣できない旨を回答（8/25）。	依頼状あり。陸軍大演習開催記念に依頼。8月21日完結。後に、この曲のレコード吹込み許諾を依頼（8/23、承認は8/31）。謝礼催促状（11/13）あり。謝礼100円。	（學生歌）。歌詞は学生から募集したもの。東京音楽学校より歌詞を訂正したい旨の通知（5/4）。直接来校の上依頼されたことが読みとれる歌詞余白に「昭和八年六月廿九日完結」の印。	依頼日は東京音楽学校の書類による。作詞者は弘前高等学校教授。謝礼50円。	依頼状あり。作詞者は宮中御歌所参候。		

昭8／11／8	昭8	昭8／9／22	昭8／10／1	昭8／9／21	昭8／9／8	昭8／9／16	昭8	昭8／8／14	昭8／7／22	昭8／7／8	和歌山高等商業学校
蘭商業学校	北海道立朝鮮大邱公立普通学校	長崎市教育会	校新京高等女学校	愛知県津島高等女学校	朝鮮木浦公立高等学校	千葉県女子師範学校	坂部分校	長野県下伊那郡福島小学校	茨城県立江戸崎農学校	秋田県	和歌山高等商業学校
校歌	校歌	市歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌		
有	無	有	有	有	有	無	無	有			無
土井晩翠		撰(藤村公募)	野口雨情	野口米次郎	春日政治			土井晩翠			
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無		無
岡野貞一*	信時潔	橋本國彥*	岡野貞一*	信時潔	片山穎太郎*	信時潔*			岡野貞一*		橋本國彥
依頼状あり。謝礼100円。	礼状(11／13)と、東京音楽学校から信時宛依頼状(11／2)のみ。信時宛依頼状に「昭和八年十一月九日完結」の印。	(長崎市歌)。依頼状あり。後に、この曲のレコード吹込みを依頼(12／25)。東京音楽学校より、レコード吹込みの謝礼は独唱者、ピアノ伴奏者に100円ずつ送金するよう通知。(昭9／7／9)。礼状とレコード贈呈状あり(昭9／8／10)。謝礼200円。	依頼状あり。作曲者として信時を指名。	依頼状あり。作曲者として信時を指名。	依頼状と承諾の通知(9／18)のみ。	依頼状と承諾の通知(9／18)のみ。	依頼状(日付なし)と承諾の通知(9／11)のみ。	依頼状によると、結城農学校から情報を得て依頼。謝礼40円。	県民歌放送許可願。依頼状あり。承認は7月24日。	校歌編曲依頼(四部合唱譜)。依頼状あり。「昭和八年七月二十六日完結」の印あり。その他、本書986頁(校歌作曲依頼)、994頁(レコード吹込み承認依頼)、1020頁(レコード吹込み依頼)を参照。	

昭9／2／1	昭9	昭9／2／5	昭8／12／20	昭9	昭8／12／27	昭9／1／12	昭8／11／18	昭8／10／12	石川県鹿島郡 七尾男児尋常 高等小学校	校歌	相馬御風	長谷川良夫
等小学校 郡御成尋常高	神奈川県鎌倉 専門学校	東京女子薬学 学校	京都高等工芸	報知新聞社	仙台市教育会	小学校	岩手県九戸郡 軽米尋常高等	北見物産協会	財団法人 大日本消防協会			
校歌	校歌			奉祝歌	会歌	校歌						
有	有			有	有	有	無	有			有	
佐佐木信綱	佐佐木信綱			公募	小松郁雄			上林仁哉				
無	無			無	無	無	無	無			無	
岡野貞一*	橋本國彦*		信時 潔	岡野貞一	片山顕太郎*		長谷川良夫*	橋本國彦*	信時 潔			
依頼状あり。謝礼30円。	依頼状あり（日付不明）。東京音楽学校名義での作曲を希望。依頼承諾の通知（2／1）に「完結」「昭和九年貳月壹日送付」の印。謝礼80円。		校歌レコード吹込み承認依頼。昭和七年に、東京音楽学校が校歌を作曲している。依頼状によると、校歌はコロムビアで吹込予定で、さらに、盤面に作詞作曲者名を入れる際作詞は依頼校とするが、作曲者名は信時潔と東京音楽学校のどちらにするべきかと照会している。東京音楽学校よりの吹込み承認の通知（2／8付）で、當利目的には使用不許可、作曲者名は信時とするなどを伝えている。その他本書94頁（校歌作曲依頼）を参照。	歌詞のみ。作詞者は五ツ橋高等学校訓導。「完結」「昭和九年壹月廿參日送付」の印あり。「作歌作曲依頼表」による謝礼50円。 直接来校の上、依頼。依頼日はその日付による。依頼状あり（日付なし。「昭和九年貳月九日」の印に統き「決済」の書込み）。皇太子生誕記念に依頼。依頼者は東京音楽学校名義での作曲を希望。謝礼150円。	歌詞は懸賞当選のもので、作詞者は石川県金沢市在住。後にレコード吹込み許諾を依頼（依頼は昭9／3／14、承認3／15）。謝礼150円。11月15日に直接来校の上依頼したとの記録あり。 （北見宣傳小唄）。依頼状あり（レコード製作もあわせて依頼）。校歌・市歌など儀式用の歌ではないため承認せず（1／17）。	（消防歌）。依頼状あり。依頼者は東京音楽学校名義での作曲を希望。歌詞は懸賞当選のもので、作詞者は石川県金沢市在住。後にレコード吹込み許諾を依頼（依頼は昭9／3／14、承認3／15）。謝礼150円。11月15日に直接来校の上依頼したとの記録あり。 （北見宣傳小唄）。依頼状あり（レコード製作もあわせて依頼）。校歌・市歌など儀式用の歌ではないため承認せず（1／17）。	依頼状あり。謝礼30円。	依頼状あり。東京音楽学校より長谷川宛依頼状あり（10／31）。依頼状に「昭和八年十二月四日完結」の印。謝礼35円。	依頼状あり。東京音楽学校より長谷川宛依頼状あり（10／31）。依頼状に「昭和八年十二月四日完結」の印。謝礼35円。			

昭9  
広島県創作壇

無

「非常時日本」。作曲依頼に対し、官庁や学校など公的機関の依頼ではないため承諾しない旨の通知（1/29）。

昭8  
大阪府立市岡高等学校同窓会  
昭8  
六の花会

無

体育運動歌『榮えゆく』レコード吹込み許可願。依頼状、礼状あり。依頼状によると、市岡高校歌および文部省選歌・東京音楽学校作曲『榮えゆく』をレコードに吹込み、卒業生のみに実費で頒布を希望。東京音楽学校は、営利目的に使用しないという条件で吹込みを許可し、あわせて歌詞の使用許可を文部省からとるよう通知した（10/30）。依頼者は許可に対する礼状の中で、文部省からなかなか公式許可がおりないため、許可願の文面について照会（11/3）。それに対して東京音楽学校は書式例を提示し、許可がおりたら報告するように伝えている（11/4）。

「十津川郷の歌」。依頼状と、承諾の通知（11/27）のみ。作詞者名は依頼状より。

昭8  
上野地尋常高等小学校（奈良県吉野郡十津川村）訓導  
馬場繁直

無

馬場繁直

昭9  
国幣中社志  
波彦神社・塩竈神社

有

片山顕太郎

昭9  
三重日日新聞  
社勢州毎日  
新報社

有

依頼状あり。作詞者は佐佐木信綱、芝田徹心撰。依頼者は東京音楽学校名義での作曲を希望。謝礼150円。

昭9  
石川県立津幡農蚕学校  
宮城県女子専門学校

有

鴻巣盛廣  
依頼状あり。作詞者は第四高等学校教授。謝礼50円。

昭9  
4  
4  
4

無

依頼状あり。作曲者として信時を指名。謝礼50円。

昭9 6 19	昭9 7 3	昭9 4 25	昭9 4 25	昭9 4 26	昭9 5 24	昭9	昭9 4 7	昭9 3 21	昭9 3 28
学校 福岡県鞍手中	農道塾 郡豊秋村昭和	熊本県上盆城 熊本県青年団	国神村 埼玉県秩父郡	常小学校 東京市阪本尋	岐阜県立多治 見高等女学校	座田司 鎌倉宮宮司	福井県立工業 学校	川神社 別格官幣社湊	岐阜県本巣中 学校
	塾歌	團歌	校歌	校歌	校歌		校歌		校歌
有	無	有	有	有	有	有	無	有	有
鞍手中学校				中村孝也 土井晩翠	武島羽衣			公募	藤村作
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
橋本國彦*		片山穎太郎 岡野貞一*	岡野貞一*	橋本國彦*	橋本國彦*	信時潔*	橋本國彦*	信時潔*	橋本國彦*
（運動歌）。依頼状あり。歌詞は八波則吉が修正。参考用に校歌の楽譜あり（作詞藤村作、作曲小倉師範学校教諭）。謝礼は50円だが、「作歌作曲依頼表」では90円となつてある。	依頼状と、承諾しない旨の通知（7/6）、参考用の「昭和農道塾の菜」のみ。	埼玉県秩父郡国神村小学校校歌と同時依頼。依頼状あり。埼玉県立川越高等女学校逸見宮吉（国神村出身）を介して依頼。作曲者として岡野貞一と片山穎太郎を指名。謝礼30円。	国神村青年団歌と同時依頼。依頼状あり。埼玉県立川越高等女学校逸見宮吉（国神村出身）を介して依頼。作曲者として岡野貞一と片山穎太郎を指名。謝礼30円。	依頼内容を記した記録（依頼日の日付はここから）と校歌趣意書のみ。謝礼は作曲者名を東京音楽学校名義とすることを条件に60円。	依頼状あり。東京音楽学校名義での作曲を希望。謝礼150円。歌詞に「昭和九年五月壹日完結」の印あり。「作歌作曲依頼表」によると謝礼30円。和九年六月拾九日送付」の印。	依頼状と承諾の通知のみ（4/9）。天皇行幸記念に依頼。歌詞は佐佐木信綱撰。謝礼100円。その他本書1029頁（機械科新設による歌詞変更に伴う曲譜訂正依頼）を参照。	（大塔宮の歌）。歌詞のみ。依頼者名は歌詞への書き込みによる。「昭和九年五月壹日完結」の印あり。「作歌作曲依頼表」によると謝礼30円。和九年六月拾九日送付」の印。	（大楠公ヲ追慕シ奉ル歌）。3月19日に来校の上、依頼。依頼状あり。昭和10年の楠木正成没後六百年記念にむけて依頼。東京音楽学校名義での作曲を希望。歌詞余白に数字譜のメモがわざかにある。謝礼100円。その他本書1008頁（レコード吹込み許諾依頼）を参照。	依頼状あり。謝礼60円。

昭9／7／18	昭9／7／10	昭9／1／25	昭9	昭9／5／11	昭9／6／10	昭9／6／5	昭9／6／13	山口県厚狭郡 高千帆尋常高 等小学校	校歌	依頼状あり。謝礼30円。
尋常小学校 名古屋市千早 長崎県伊良林 小学校同窓会	セキ	女学校 満州撫順高等 校校長 齊藤	樺太豊原中学 光羲 上田	小学校 塩谷尋常高等 石川県江沼郡 等学校	鹿児島商業高	校	実践高等女子学	校	校歌	（告別の歌）（送別の歌）。依頼状あり。それぞれ同名の曲の楽譜（澤田孝一作曲。送別の歌は単旋律、告別の歌は女声三部）があり、これらは参考用と思われる。作曲者名は東京音楽学校名義で、告別の歌は三部、送別の歌は二部合唱を希望。謝礼は1曲100円、計200円。
校歌	会歌	校歌			校歌				有	
有	有	無	無	有	有	有	有		有	
千早小職員	橋本孝男		芳徳 伯爵 二荒	鴻巣盛廣	土井晩翠	下田歌子				
無	無	無	無	無	無	無	橋本國彦*		無	
岡野貞一*			橋本國彦*	岡野貞一*	岡野貞一*	橋本國彦*			岡野貞一*	
依頼状あり。後に、資金不足を理由に依頼取り下げ（7／16）。	依頼状あり。舟橋より乗松校長宛依頼状（4／4）、東京音楽学校よりの回答（4／6）あり。歌詞は第八高等学校の坂井、石井両教授が校閲。謝礼30円。	依頼者は東京音楽学校卒業生。依頼状によると、依頼校名は「當地小学校」とのみ記載。依頼状、承諾の通知（1／30）、それに対する礼状（2／22）のみ。	（樺太健兒の歌）。二荒伯を通じて依頼（5／2）。東京音楽学校の作曲を希望。東京音楽学校より橋本宛依頼状あり（5／19）。謝礼120円。		依頼状あり。謝礼30円。					

昭9／6／23	昭9／7／23	昭9／5／28	昭9／7／10	昭9／7／21	昭9／8／1	昭9／5／21	昭9／7／27	昭9／6／25	宮崎県南那珂郡第二福島尋常小学校	校歌
群馬県	群馬県高崎実践女学校	正寛	茨城県下館高校校長	奈良県立吉野	神戸女子薬学校	三重県女子師範学校、三重県立鈴鹿高等女学校	長野市松原謙敬	長野市松原謙敬	宮崎県南那珂郡第二福島尋常小学校	校歌
奉迎歌	校歌			校歌		校歌				有
有	有		無	有	無	有	有	無		有
公募	中村孝也			五十嵐力		佐佐木信綱	鴻巣盛廣			
無	無		無	無	無	無	無	無		無
信時潔	橋本國彦*			橋本國彦*		信時潔	岡野貞一*			岡野貞一*
礼100円。	依頼状あり。東京音楽学校より信時宛依頼状（8／13。「昭和九年八月廿貳日送付」の印あり）と承諾する旨の信時の回答（8／14）あり。謝礼40円。	依頼状あり。依頼校教諭中島さん（東京音楽学校卒業生）を介して依頼。謝礼40円。	（ <u>皇太子殿下御降誕奉祝歌</u> ）校閲依頼。乗杉校長宛依頼状あり。依頼者次女朋子作曲による曲の校閲依頼で、岡野貞一に委嘱して改作・伴奏付けがされた。歌詞は、長女敏子が報知新聞の公募に応募して佳作入選したもの。東京音楽学校より楽譜送付状（7／28）、礼状（8／10）あり。	依頼状によると、5月16日に直接来校の上依頼し、歌詞ができた後改めて7月10日に依頼している。作詞者は早大文学部教授。楽譜送付状案あり（8／31）。謝礼100円。	（校友會歌）。依頼状と、承諾の通知（7／24付）のみ。	7月29日に来校の上、依頼。依頼状あり。二校が共同で一つの校歌を依頼した。作曲者として信時を指名。東京音楽学校より信時宛依頼状あり（8／13）。「昭和九年八月廿貳日送付」の印あり。謝礼50円。	依頼状あり。皇太子生誕記念事業として制定。東京音楽学校より歌詞と謝礼送付に対する礼状あり（8／8）。謝礼30円。	依頼状あり。歌詞の校閲は八波則吉。謝礼30円。	（日本の國歌）。依頼承諾せず。依頼状と、その回答のみ（7／31）。	

昭 9 / 9 / 17	昭 8 / 11 / 28	昭 9 / 11 / 8	昭 9 / 11 / 1	昭 9 / 9 / 25	昭 9 / 9 / 29	昭 9 / 9 / 27	昭 9 / 8 / 26	富永鑑太郎	
校 第二尋常小学 埼玉県浦和市	千葉県君津郡 木更津尋常高 等小学校	婦女新聞社社 長 福島四郎	樺太眞岡郡廣 地尋常高等小 学校	福井県立敦賀 高等女子学校	東京府立第七 高等学校	富山県東礪波 郡東山見尋常 高等小学校			
校歌	校歌			校歌	校歌	校歌			
有	有	無	有	有	有	有	有	有	土井晚翠
下山 懲	水町京子			中澤信治	中村孝也	佐佐木信綱			
無	無	無	無	無	無	無	無	無	岡野貞一*
下總覺三	下總覺三*			下總覺三*	信時 潔	信時 潔			
付依頼状あり。承諾の通知(9/18)に「完結」「昭和九年拾月拾貳日送付」の印。謝礼50円。	作詞も依頼。依頼状あり。依頼校教諭渡部榮義を通じて依頼した(10/26)。東京音楽学校名義での作曲を希望していながら、予算不足のため音楽学校側が却下。また、当初藤村作が作詞を担当したが依頼校から再三の改作要請があつたため、水町京子が引き継いだ。水町版の歌詞に「昭和九年十一月七日送付」「完結」の印。謝礼は作詞作曲各30円、計60円。	郷里の小学校校歌 改作依頼。依頼状のみ。原曲は依頼者の郷里にある小学校の校歌を依頼者自身が作曲したもの。学校名などの詳細は不明。余白に「昭和九年十一月拾五日」の印に続いて「安部幸明ニ傳報」と書込み。	依頼状あり。作詞者は豊原高等女子学校教諭。依頼承諾の通知(11/8)に「昭和九年十一月廿六日完結」の印。	依頼状あり。作曲者として信時を指名。	依頼状あり。作曲者として信時を指名。謝礼50円。	依頼状あり。女声三部、伴奏付きを希望。作曲者として信時を指名。謝礼50円。	校歌改作依頼(儀式・行進用)。依頼状(東山見村村長、依頼校校長の連名)、現校歌の楽譜あり。依頼承諾の通知(8/30)に謝礼は「一曲につき30円」とある。その後依頼校より、歌詞を改作してから改めて作曲を依頼するため今回の依頼は当分見合わせる旨の通知(9/7)。	（乃木教會會歌）。依頼状あり。依頼者は元乃木家執事。乃木教會（大社教士浦乃木教會所）設立記念に、作詞者の紹介で依頼。教會設立趣意書あり。謝礼30円。	

依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	作詞者	楽譜	作曲者	備考	依頼状と歌詞のみ。依頼状に「完結」「昭和九年十二月拾參日送付」の印。謝礼30円。
昭10／12／28*	朝鮮忠清南道礼山農業学校*	校歌*	校歌*	奉迎歌	無	無	無	大谷派光明会歌〈病める同朋を思ひて〉。依頼状あり。歌詞は、大谷智子が長島愛生園を訪問した時の心情をつづったもの。東京音楽学校名義での作曲を希望。依頼承諾の通知（12／7）に「昭和九年十一月廿四日送付」の印。
昭10／6／25*	広島県吳市立高等女学校*	文部省*	宗務所*	大谷派本願寺	昭10	昭10／3／7*	立憲民政党青	鹿児島県川辺市秋月小学校
昭9	昭9／6／6	報知新聞社	校歌	有	無	有	大谷智子	東京音楽学校名義での作曲を希望。依頼承諾の通知（12／7）に「昭和九年十一月廿四日送付」の印。
昭9	昭9／12／24	真宗大谷派宗務總長	有	無	無	下總覺三*	下總覺三*	東京音楽学校名義での作曲を希望。依頼承諾の通知（12／7）に「昭和九年十一月廿四日送付」の印。
昭9	橋本國彥*	公募	下總覺三*	下總覺三*	下總覺三*	下總覺三*	岡野貞一*	東北振興歌》。依頼状と歌詞のみ。謝礼100円。
								依頼者より歌詞送付状（10／3）と歌詞のみ。送付状に「完結」「昭和九年拾月廿九日送付」の印。謝礼50円。
								依頼状と承諾の通知（6／9）のみ。
								依頼状と歌詞のみ。謝礼60円。
								依頼状と歌詞のみ。謝礼300円。

昭和十年 作曲依頼關係書類

昭 10 / 2 / 15	昭 9 / 4 / 16	昭 10 / 2 / 18	昭 10 / 2 / 25	昭 10 / 2 / 12	昭 10 / 2 / 27	昭 10 / 1 / 29	昭 10
校 北蒲尋常小学	東京市蒲田区 別格官幣社 川神社宮司	校 尋常高等小学	東京市大森高 等女学校	邸 侯爵徳川賴貞 高見兼吉*	実業学校 島根県立平田 上條村上條尋 常高等小学校	新潟県刈羽郡 上條村上條尋 常高等小学校	愛媛県立西條 中学校
校歌		校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌
無		有	無	無	有	有	有
高野辰之		河合壽三郎			高橋龍雄	堀 久四郎	高野辰之
無		無	無	無	無	無	無
岡野貞一*		岡野貞一*	岡野貞一*	下總覺三*	信時 潔*	岡野貞一*	下總覺三*
依頼状あり。作詞者として高野辰之を指名。依頼校より作曲に対する要望はない旨の通知(3/7)に、「完結」「昭和拾年参月拾六日送付」の印。謝礼は作詞および作曲あわせて100円。	（大楠公ヲ追慕シ奉ル唱歌）レコード吹込み許諾依頼。依頼状あり（当該曲は、昭和9年4月に東京音楽学校が依頼により作曲。本書1003頁参考照）。許諾の通知(5/1)には、當利目的ではないのが条件であること、レコード完成の際には3枚送付すること、が指示されている。昭和10年3月8日完結。	依頼状あり。作詞者は依頼校校長。東京音楽学校よりの謝礼額了承の通知(3/5)に、「完結」「昭和拾年参月拾四日送付」の印。謝礼30円。	依頼状兼歌詞送付状のみ。「完結」「昭和拾年参月貳日送付」の印あり。「作歌作曲依頼表」によると謝礼50円。	依頼状あり。作詞者は慶應義塾大学教授。楽譜送付状案あり(2/26)。謝礼50円。	依頼状あり。作詞者は元新潟県立柏崎高女教諭。依頼校は、最初作曲者に成田爲三を指名したが、成田は病気のため辞退。依頼承諾の通知(2/4)に、「完結」「昭和拾年貳月拾參日送付」の印。謝礼30円。	依頼状あり。作詞者は元新潟県立柏崎高女教諭。依頼校は、最初作曲者に成田爲三を指名したが、成田は病気のため辞退。依頼承諾の通知(2/4)に、「完結」「昭和拾年貳月八日」の印。謝礼50円。	東京音楽学校浅野千鶴子を通じて依頼。依頼校よりの歌詞送付状(1/11)に、「昭和拾年貳月拾八日完結」の印。謝礼50円。

										昭10/2/20
昭10 会社	中越製布株式	高知県立高知 城東中学校	東京市品川高 等女学校	本間齋 農蚕学校 語・音楽担任	昭10/4/27 兵庫県立佐用 学校	昭10/3/23 天津日本商業 学校	昭10/4/7 山形県鶴岡市 朝陽第一尋常 小学校	昭10/3/26 石川県立飯田 校	日本女子大学	山口県警察部
工場歌	校歌	校歌			校歌	校歌	校歌	校歌		
有	有	有			有	有	有	有	有	有
傳田治朗	土井晩翠	與謝野晶子			岡崎教諭	鴻巣盛廣	土井晩翠		薦田松三 (山口県)、 木下直吉 (鹿児島市)	
無	無	無			無	無	無	無	無	無
下總覺三*	細川碧*	下總覺三*			岡野貞一*	細川碧*	信時潔	下總覺三*		下總覺三*
歌詞のみ。「作歌作曲依頼表」による謝礼50円。	依頼状あり。依頼校は作曲者として信時潔か下總を希望。電話するので受取りに来るよう、との通知(4/24)に「完結」「昭和拾年四月廿七日發令」の印。謝礼50円。高知県女子師範学校の惣田三四治を通して依頼。依頼状あり。齊唱および男声二部合唱での作曲を希望。謝礼50円。	文部省選定《神宮奉頌歌》の旋律を別の詩にあてはめて歌わせたら著作権侵害になるのかどうか照会。それに対し、もちろん侵害にあたり、一部でも無断使用は許されないと回答(4/30)。	東京音楽学校卒業生織田不二枝を通じて依頼。依頼状と歌詞のみ。歌詞に「完結」「昭和拾年四月廿四日送付」の印。謝礼60円。依頼状あり。承諾の通知(4/9)に「昭和拾年四月廿日完結」の印。謝礼50円。	依頼状あり。依頼承諾の通知(4/13)に「昭和拾年四月廿五日完結」の印。謝礼100円。	依頼状あり。依頼承諾に対する礼状(4/17)に「完結」「昭和拾年四月廿九日」の印。また、曲の完成後、依頼校の希望で作曲者が直接歌唱指導している(4/19)。謝礼50円。	依頼状あり。ただし、事前の打診に対しても東京音楽学校は3月15日付で回答している。依頼校は作曲者として信時潔を指名。依頼承諾に対する礼状(4/17)に「完結」「昭和拾年四月廿九日」の印。また、曲の完成後、依頼校の希望で作曲者が直接歌唱指導している(4/19)。謝礼50円。	依頼状あり。依頼承諾に対する礼状(4/17)に「完結」「昭和拾年四月廿九日」の印。また、曲の完成後、依頼校の希望で作曲者が直接歌唱指導している(4/19)。謝礼50円。	依頼状あり。依頼承諾に対する礼状(4/17)に「完結」「昭和拾年四月廿九日」の印。また、曲の完成後、依頼校の希望で作曲者が直接歌唱指導している(4/19)。謝礼50円。	依頼状あり。依頼承諾に対する礼状(4/17)に「完結」「昭和拾年四月廿九日」の印。また、曲の完成後、依頼校の希望で作曲者が直接歌唱指導している(4/19)。謝礼50円。	依頼状あり。依頼承諾に対する礼状(4/17)に「完結」「昭和拾年四月廿九日」の印。また、曲の完成後、依頼校の希望で作曲者が直接歌唱指導している(4/19)。謝礼50円。

昭 10 ／ 10 ／ 21	昭 10 ／ 9 ／ 23	昭 10 ／ 9 ／ 4	昭 10 ／ 7 ／ 17	昭 10 ／ 7 ／ 7	昭 10 ／ 7 ／ 6	昭 10 ／ 8 ／ 17	昭 10 ／ 8 ／ 17	昭 10 ／ 4 ／ 27	昭 10
学校弓道部 大分高等商業	学校 長崎高等商業	愛媛県宇和島 商業学校	群馬県立前橋 商業学校	土井晩翠	宮崎県 六尋常小学校	福島市福島第 寺尋常高等小	名古屋市立笠 学校	川崎市旭町小 学校	校歌
有	無	有	無	有	奉迎歌	校歌	校歌	校歌	無
末永惣太郎		土井晩翠	傳田治朗	照井隆太郎	公募	土井晩翠	石田元季		
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	下總覺三*	細川碧*	細川碧*	下總覺三*	下總覺三*	細川碧	下總覺三*	細川碧	下總覺三*
（弓道部優勝歌）。依頼状あり。作詞者は弓道部部長で依頼校教諭。歌詞を藤村作が校閲。謝礼が最低30円のところ20円での依頼であったため承諾せず（11／11）。	校歌管弦楽伴奏譜作製依頼。依頼状あり。10月19日に東京音楽学校が依頼校で演奏会を開催する予定があり、その際、依頼校の希望でプログラムに校歌を加えることになつた。管弦楽伴奏譜の有無を東京音楽学校が照会したところ、依頼校には正式なものがなかつたため、改めて東京音楽学校に編曲を依頼した。謝礼は編曲料50円、写譜・淨書料50円、計100円。	依頼状あり。校歌作曲およびプラスバンド用編曲を依頼。歌詞にプラスバンド編成表も添付。依頼承諾の通知（7／9）に「完結」「昭和拾年八月廿参日」の印。「作歌作曲依頼表」によると謝礼100円。	依頼状あり。作詞者は第二高等学校ボート部O.B. 松島で水難死した部員に捧げたもの。依頼承諾の通知（7／9）に「完結」「昭和拾年八月廿参日」の印。「作歌作曲依頼表」によると謝礼50円。	依頼状あり。後ろに依頼校が、文部省認可に必要として東京音楽学校に細川の学歴を照会（11／11）。回答は11／13。東京音楽学校よりの歌詞受領状（8／23）に「完結」「昭和拾年九月拾四日送付」の印。謝礼30円。	依頼状あり。東京音楽学校より歌詞のふりがなに関する通知（8／27）。回答は8／31。依頼承諾の通知（8／9）に「完結」「昭和拾年八月廿参日」の印。「作歌作曲依頼表」によると謝礼100円。	依頼状あり。歌詞にプラスバンド編成表も添付。依頼承諾の通知（9／6）に「完結」「昭和拾年拾月拾四日送付」の印。謝礼は作・編曲両方で100円。	依頼状あり。歌詞にプラスバンド編成表も添付。依頼承諾の通知（7／19）に「完結」「昭和拾年九月拾四日送付」の印。謝礼100円。	依頼状あり。歌詞にプラスバンド編成表も添付。依頼承諾の通知（7／19）に「完結」「昭和拾年九月拾四日送付」の印。謝礼100円。	依頼状あり。歌詞にプラスバンド編成表も添付。依頼承諾の通知（7／19）に「完結」「昭和拾年九月拾四日送付」の印。謝礼100円。

作曲期限についての依頼校からの通知（5／29）と、それに対する回答（5／30）のみ。回答に「完結」「昭和拾年六月八日送付」の印。「作歌依頼表」によると謝礼50円。

昭10／11／23 山梨県南巨摩郡三里村新倉

会歌

無

新義州公立高等女学校

校歌

有

昭10／1／30 東京府立第九高等学校

校歌

有

昭10／12／29 多摩少年院

院歌

無

昭10／11／29 正木つや子\*

尾上柴舟

無

昭10／12／18 無

細川碧\*

無

昭和十一年 作曲依頼關係書類

					依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	作詞者	楽譜	作曲者	備考
学校	昭10／12／2 東京府立農芸	昭10／6／11 科女学校	校* 香川県師範学	会* 大日本消防協	昭11／5／25* 年団*	京都市女子青	団歌*	無	無	無	下總覺三*	
校歌	校歌	校歌*	校歌*				川路柳虹*					
有	無	無	無	無	昭11／2*	依頼者	團歌*	無	正木つや子*	無	無	
尾上柴舟	下田歌子								無	無	無	
無	無	無	無	無	昭11／2*	依頼者	下總覺三*	無	細川碧*	無	無	
下總覺三*			岡野貞一*	信時潔*	依頼者	「作歌作曲依頼表」記載のみ。						
11月30日に来校の上、依頼。依頼状あり。依頼承諾の通知（12／3）に「完結」「昭和拾壹年壹月八日送付」の印。謝礼50円。	依頼状とその回答（6／13）のみ。			消防の歌（防げ炎を）。「作歌作曲依頼表」記載のみ。作詞作曲者は東京音楽学校名義、謝礼250円。		「作歌作曲依頼表」記載のみ。						

作詞および作曲依頼状あり。承諾せず（11／26）。

依頼状あり。東京音楽学校より歌詞受領状（11／30）に「完結」、「作歌作曲依頼表」によると謝礼50円。昭和拾壹年十二月拾壹日」の印。「作歌作曲依頼表」によると謝礼50円。昭和拾

依頼状あり。樂譜送付状案（12／26）に、「完結」「昭和拾年十二月廿六日」の印。謝礼50円。

依頼状と承諾の通知（11／30）のみ。通知に「完結」「昭和拾年十一月廿壹日送付」の印。「作歌作曲依頼表」によると謝礼100円。

昭 11 / 1 / 24	昭 11 / 1 / 28	昭 10 / 12 / 18	昭 11 / 1 / 20	昭 11 / 1 / 15		昭 10 / 12 / 20	昭 10 / 10 / 29	昭 10 / 12 / 3
等小学校 矢田郷尋常高 石川県鹿島郡	大分県日田郡 鎌手尋常高等 小学校	朝鮮總督府鉄 道局	校 神戸高等女学 兵庫県立第二 尋常小学	神戸市立多聞 実践学校	朝鮮吉州農業 京都府女子師 範学校附属小 学校	校歌	校歌	校歌
有	有	有	有	有	有	有	有	有
中村孝也		公募	佐佐木信綱	中村孝也	原島好文	高野辰之	武田全	無
無	無	無	無	無	無	無	無	無
細川碧*		下總覺三*	細川碧*	細川碧*	岡野貞一	下總覺三		
依頼状あり。 依頼状あり。 依頼状あり。 依頼状あり。 依頼状あり。 依頼状あり。 依頼状あり。 依頼状あり。	歌詞は八波則吉が校閲。 東京音楽学校は依頼承諾の通知 (1/31)で謝礼額を最低30円と提示したが、依頼校は予算は15円が限 度であると回答(2/4)。それを受けて東京音楽学校は、例として近 隣の師範学校教授今吉氏のような人に依頼するよう提案した(2/6)。	『朝鮮鐵道歌』。 修正と作曲をあわせて40円。「作歌作曲依頼表」によると歌詞添削と作 曲者は東京音楽学校。依頼者が来校予定を伝える電報(2/3)に「昭 和壹年貳月拾參日完結」(完結)昭和拾壹年貳月拾九日」の印。	依頼状あり。それに先立つて依頼校教諭福光スミエを通して依頼(1/ 9)。三部合唱、伴奏付を希望。参考用に旧校歌の歌詞付楽譜あり。歌 詞に「昭和拾壹年貳月拾貳日送付」の印。謝礼50円。	依頼状あり。東京音楽学校より謝礼額了承の通知(1/27)に「昭和拾 壹年貳月拾貳日送付」の印。謝礼50円。	依頼状あり。歌詞は尾上八郎が補作。依頼者の楽譜印刷依頼に対して、 東京音楽学校は共益商社を紹介。謝礼50円。	作詞も依頼。依頼状あり。作詞者は東京市本郷区誠之小学校訓導、作詞 家の謝礼額は作詞作曲50円ずつ。依頼承諾の通知(12/9)に「昭和拾壹年壹月廿貳 日完結」の印。	作詞、伴奏も依頼。依頼状あり。依頼校が作詞作曲者を指名。謝礼額は 作詞作曲50円ずつ。依頼承諾の通知(12/9)に「昭和拾壹年壹月廿貳 日完結」の印。	作詞も依頼。依頼状あり。作詞者は東京市本郷区誠之小学校訓導、作詞 家の謝礼額は作詞作曲50円ずつ。歌詞に「昭和拾壹年壹月廿九日完結」 の印。作詞作曲者の履歴と著作権、および印刷について東京音楽学校よ りの回答中、著作権は金銭の授受によって依頼校に移行するものではな いため、當利目的や放送に使う場合は許可をとり、また、楽譜印刷に関 しては共益商社書店に問い合わせることが必要であると述べられている (昭11/2/10)。

昭 11 / 6 / 12	昭 11 / 5 / 20	昭 11 / 4 / 11	昭 11	昭 11 / 2 / 18	鹿児島県	昭 10 / 11 / 14	熊本県女子中等学校	昭 11 / 1 / 31	札幌市苗穂青年団(札幌市苗穂町苗穂小学校内)	昭 11 / 2 / 27	名古屋市正木尋常小学校
町 松原謙敬	長野市西長野	等女学校	札幌市北海高	学校	甲府市立工芸	米沢高等工業	朝鮮仁川公立	校歌	校歌	团歌	校歌
無	有	有	無	無	有	有	有	有	有	有	有
松原謙敬	大谷智子	三井甲之				姫野愛子、 浅川求	公募			菅野忠喜	
無	無	無	無	無	細川碧*	陸軍戸山学 校軍樂隊	信時潔*			無	無
		下總覺三*	下總覺三	下總覺三	依頼状あり。謝礼100円。歌詞に「昭和拾壹年參月拾參日」の印。	依頼歌レコード吹込依頼。依頼状あり。奉迎歌は御親閑用と一般用の二種類あり、楽譜も両方現存(伴奏付印刷譜)。当初東京音楽学校は、学校として吹き込むこと自体は問題ないが、演奏者名としてそれを公表することは前例がないので検討を要する、としていた(11/19)。しかし後に、指揮は木下保、合唱と伴奏は「東京音楽学校生徒」としてよい、と許可を与えていた(12/16)。謝礼100円。	『御親閑記念熊本縣女學生歌』。依頼状あり。依頼代表者は熊本県立第一高等女学校校長。依頼承諾に対する礼状(2/6)に「完結」「昭和拾壹年貳月廿八日送付」の印。謝礼100円。	2月27日に来校の上、依頼。依頼状あり。作曲者として信時を指名。依頼校よりの歌詞訂正に関する電報(3/6)に「昭和拾壹年參月拾日送付」の印と、「右信時講師ニ通知ス」と書込み。謝礼50円。	苗穂青年団歌(眞を讀へ)。依頼状、承諾の通知(3/2)、歌詞のみ。作詞者は同団顧問(前団長)。	信時潔	
(6/15)	日本国歌(阿加佐多)。依頼状あり。個人からの依頼のため承諾せず	依頼状あり。学校に下賜された和歌に対して作曲を依頼。謝礼50円。 「作歌作曲依頼表」には、昭和11年5月27日とある。	依頼状あり。甲府中学校教諭小池壽郎を通して打診(日付不明だが、文面によると正式依頼より前と思われる)。依頼承諾の通知(4/13)に「完結」「昭和拾壹年四月拾七日送付」の印。謝礼50円。								

昭 11 / 7 / 18	昭 11 / 7 / 22	昭 11 / 7 / 22	昭 11 / 8 / 1	昭 11 / 4 / 20	昭 11 / 7 / 23	昭 11	昭 11	昭 11 / 4 / 29	昭 11 / 6 / 4
高等女学校 宮城県立白石	愛知県西尾高 等女学校	朝鮮清州公立 農業学校	佐賀県	岡崎市	一宮市	兵庫県淡路島 鮎原村 松浦	兵庫県教育会	富山県出町技 芸女学校	川崎市宮前小 学校
校歌	校歌	校歌		市歌	市歌			校歌	校歌
有	有	有	有	無	有	有	有	有	有
小倉 博	風巻景次郎		松尾松治郎		尾上八郎	松浦重男	與謝野晶子	原島好文	市川竹麿
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
細川 碧*	岡野貞一*	下總覺三*	下總覺三*		信時 潔			細川 碧*	細川 碧*
依頼状あり。作詞者は第二高等学校講師。楽譜送付状（9/15）、礼状あり（9/18）。謝礼50円。	作詞も依頼。依頼状あり。二部合唱、伴奏付を希望。謝礼は作詞作曲に50円ずつ。参考用に当時の愛知県全図、校旗の絵図（カラーリー）、校章バッジ、西尾蚕糸学校校歌（歌詞と数字譜）、西尾中学校校歌（歌詞と伴奏付印刷譜）あり。歌詞余白に「昭和拾壹年九月十五日發送」の印。	依頼状あり。依頼承諾に対する礼及び謝礼額承諾の通知（8/1）に「昭和拾壹年九月拾壹日發送」の印。謝礼50円。	依頼状。依頼状あり。東京音楽学校名義での作曲を希望。歌詞は公募による。作詞者は東松浦郡有浦村小学校首席訓導。吉田絞二朗校閲。レコード吹込みも依頼（8/17）。依頼者より謝礼額などを伝える通知（8/6）に「昭和拾壹年九月拾壹日發送」の印。謝礼150円。	小島喜久壽（東京音楽学校卒業生）を通して依頼。依頼状あり。	依頼状あり。7月18日に直接来校の上依頼。作曲者として信時を指名。8月30日に完成楽譜を渡した、という学校による記録あり。謝礼100円。	（津山鶴山節）。依頼状あり（日付不明）。民謡風の曲を作れる人がいな いという理由で承諾せず（8/15）。	（兵庫縣婦人之歌）。一度作曲して送付した（6/15）が、依頼校より大幅な改作要求（7/8）があり、結局歌詞が作曲困難という理由で承諾せず（7/10）。	依頼状あり。謝礼は作詞作曲に50円ずつ。依頼校より作詞者の身元照会（10/1）とそれに対する回答（10/2）あり。「作歌作曲依頼表」には、昭和11年6月19日とある。	依頼状あり。承諾の通知（6/4）に「昭和拾壹年六月拾九日完結」の印。作詞者は郷社稻毛神社宮司。

昭 11 / 2 / 19	昭 11 / 2 / 12	昭 11 / 8 / 31	昭 11 / 10 / 12	昭 11 / 9 / 25	昭 11 / 10 / 6	昭 11 / 10 / 3	昭 11 / 9 / 15	昭 11 / 9 / 3	東京市戸塚第 一尋常小学校	校歌	風巻景次郎*	信時 潔*	作詞も依頼。依頼状あり。謝礼は作詞作曲に50円ずつ。依頼承諾の通知（9/10）に「昭和拾壹年拾月貳日發送」の印。
小学校 勝間尋常高等 香川県三豊郡	静岡県沼津女子商業学校	小学校 大向尋常高等 青森県三戸郡	常高等小学校 山口県豊浦尋 歌志内尋常高 等小学校	北海道空知郡 樺太公立逢坂 尋常高等小学 校	樺太公立逢坂 尋常高等小学 校	新潟県三条市 三條尋常高等 小学校	内務省						
校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌							
有	無	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	有	
堀澤周安		風巻景次郎*	生田蝶介	松浦 荣	中澤信治		川路柳虹						
無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	
		信時 潔	細川 碧	細川 碧	信時 潔	岡野貞一*	下總覺三*						
県立三豊高等女学校教諭矢口春雄（東京音楽学校卒業生）を通して依頼。依頼状あり。	作詞も依頼。依頼状と承諾の通知（2/13）のみ。	作詞も依頼。依頼状あり。依頼者は作詞者に高野辰之を指名したが、すでに退官していた。作曲者として信時を指名。謝礼は作詞作曲に30円ずつ、計60円。「作歌作曲依頼表」には昭和11年10月20日とある。	依頼状あり。事前に長府高等女学校教諭田邊久恵を通じて依頼（10/7）。承諾の通知（10/14）に「完結 昭和拾壹年拾月廿參日」の印。謝礼50円。作詞者は依頼校出身者。	依頼状により。特別大演習で天皇の北海道行幸の記念として、事前に東京文理大学宮川氏を通して依頼。作詞者は静岡県教育課長で、依頼校出身者。依頼承諾の通知案（9/28）に「完結 昭和拾壹年拾月九日」の印。謝礼40円。	依頼状あり。作詞者は樺太庁視学。作曲者として信時を指名。依頼承諾の通知（10/12）に「昭和拾壹年拾月拾六日完結」の印。謝礼50円。	依頼状あり。依頼校よりの、歌詞の読み方に関する回答（10/6）に「昭和拾壹年拾月八日發送」の印。謝礼30円。	依頼状あり。依頼校よりの、歌詞の読み方に関する回答（10/6）に「昭和拾壹年拾月貳日發送」の印。謝礼30円。	（生きよ、國民一結核豫防の歌）。作詞も依頼。依頼状あり。東京音楽学校より川路宛依頼状（9/15）、その回答あり（9/16）。「作歌作曲依頼表」によると作詞作曲者名は東京音楽学校名義。歌詞余白に「昭和拾壹年拾月貳日發送」の印。謝礼30円。					

昭 11 / 12 / 11	昭 11 / 11 / 20	昭 11 / 11 / 12	岐阜県立岐阜
工業学校	大阪市金蘭会	高等女学校	校歌
広島県立福山	校歌	校歌	有
有	有	有	佐佐木信綱
上村貞章	金蘭会高等	女学校	無
無	無	下總覺二*	下總覺二
岡野貞一*			
依頼状あり。その後邦楽科が演奏会のために依頼校を訪問（12/5）。この件についての書類もあり。依頼承諾の通知（12/9）に「昭和拾壹年十二月拾壹日完結」の印。謝礼50円。	依頼状あり。「作歌作曲依頼表」によると作曲者名は東京音楽学校名義。依頼校よりの歌詞送付状（11/26）に「完結昭和拾壹年十二月拾壹日」の印。謝礼200円。	依頼状あり。依頼校よりの依頼承諾の礼および謝礼額承諾の通知（12/16）に「昭和拾壹年十二月廿四日完結」の印。謝礼50円。	

作曲依頼關係〔昭和十一年～昭和十三年〕

	昭 13 / 8 / 12*					依頼年月日	依頼者	種別	
葉梨村*	静岡県志太郡	日独文化協会*	磯部尋常高等	会社*	南満瓦斯株式	静岡市*	埼玉県農蚕学 校*	校歌	
村歌*			校歌*	社歌*	行進歌*	市歌、 行進歌*	校歌		
無	無	無	無	無	無	無	無	歌詞	
									作詞者
無	無	無	無	無	無	無	岡野貞一*	樂譜	
							岡野貞一*		作曲者
									備
									考
橋本國彦*					信時 潔*	岡野貞一*			
「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼100円。	『ヒットラーユーゲント』。『作歌作曲依頼表』記載のみ。	『作歌作曲依頼表』記載のみ。	『作歌作曲依頼表』記載のみ。	『作歌作曲依頼表』記載のみ。謝礼300円。	『作歌作曲依頼表』記載のみ。				

									昭 11 / 12 / 10
昭 12	昭 11 / 11 / 12	昭 12 / 1 / 12	昭 12 / 1 / 30	昭 12 / 1 / 21	昭 12	昭 12 / 1 / 21	昭 12	鹿兒島県枕崎 高等女学校	校歌
文部省社会教 育局	函館高等水産 学校	福岡高等商業 学校	静岡県志太郡 焼津南尋常小 学校	山口県小野田 実業専修学校	名古屋市松栄 尋常小学校	朝鮮金海公立 農業学校			有
	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌		渡邊盛衛
有	有	有	有	有	有	有	無		無
文部省撰	土井晩翠	柳原舜祐禱	土井晩翠	山崎敏夫					細川 碧
有	無	無	無	無	無	無	無		東京音楽学校 校長より中華民国駐劄特命全權大使有田八郎宛の、K・ブ リングスハイムの上海招聘に伴う依頼状案（昭11/3/14）。
下總覺二*	細川 碧*	下總覺三*	下總覺三*	下總覺三*	下總覺三*	下總覺三*	下總覺三*		貳年壹月拾五日完結の印。謝礼50円。
（2/26） 『作歌作曲依頼表』記載の年月日は昭和12年3月13日。	依頼状あり。「作歌作曲依頼表」による。作曲者名は東京音楽学校名 義。樂譜送付状あり（2/5）。謝礼100円。 依頼状あり。「作歌作曲依頼表」による。樂譜送付状あり（2/17）。謝礼150円。 （青年學校歌）。現存する樂譜は伴奏付で、「東京音楽學校作曲」となつ ていい。出来上がった歌の著作権は文部省側で保管するとの通知	依頼状あり。依頼状は他の二校と共用のもの（学校名は不明）。依頼承 諾の禮および謝礼額通知（2/4）に「昭和拾貳年貳月拾貳日完結」の印。 30円。 依頼承諾の通知（1/25）に「完結 昭和拾貳年貳月參日」の印。謝礼 50円。	依頼状あり。依頼状によると、事前に東京高等師範学校附属小学校小林 つや（東京音楽学校卒業生）を通じて依頼。依頼承諾の通知（1/23） に「完結 昭和拾貳年壹月廿六日」の印。	帝国書院の守屋美智雄を通じて依頼。依頼承諾に対する礼状（1/16） とそれに対する回答（1/19）のみ。	事前に渡邊盛衛を通じて依頼（12/1）。依頼状あり。一度は依頼を完 結したが、その後、女学生には歌いにくいとして、依頼校から改作を依 頼された。東京音楽学校より細川宛改作依頼状（昭12/3/15）、参考 に最初に作った校歌の楽譜、楽譜送付状（6/23）。この中で、東京音楽 学校より、作曲者名を細川の名義にする旨の指示がある。礼状（6/ 26）あり。依頼校よりの謝礼額承諾の通知（昭11/12/19）に「昭和拾 貳年壹月拾五日完結」の印。謝礼50円。				

										昭12／2／22
昭12／5／22	昭12／4／23	昭12	昭12／4／10	昭12／4／2	昭12／2／1	昭12／2／1	昭12	昭12	財団法人福岡県飯塚商業学校歌	八波則吉
愛知県	学校	福島県立若松商業学校	愛知県津島中学校	岐阜県大垣市高等小学校	東京市今戸高等学校	山口県立宇部中学校	岩手県立一関高等学校	校歌	県飯塚商業学	校歌
奉迎歌		校歌	校歌		校歌		校歌	校歌		有
有	無	無	無	無	有	有	有	有		有
愛知県撰			武島羽衣		風巻景次郎			土井晩翠		八波則吉
有	無	無	無	無	無	無	無	無		無
下總覺二*		細川碧*	下總覺三*		下總覺三*		細川碧	信時潔		岡野貞一*
(7／8)あり。謝礼150円。	（皇太后陛下奉迎歌）。樂譜は伴奏付。依頼状あり。依頼者と承諾された。樂譜送付状（5／28）、礼状	依頼内容を記録した書類（日付不明）と依頼承諾の通知（4／15）のみ。依頼は昭和10年3月にしていたが、歌詞の完成が遅れたため、2年後に改めて依頼したもの。「作歌作曲依頼表」によると謝礼50円。	依頼状と承諾の通知（4／12）のみ。依頼は昭和10年3月にしていたが、歌詞の完成が遅れたため、個人に依頼するよう伝えて断つた（4／28）。校歌選定審査依頼。依頼状あり。東京音楽学校は、学校の事業としては引き受けられないため、個人に依頼するよう伝えて断つた（4／28）。	（小學校教員の歌）。依頼状と承諾の通知（4／5）のみ。	作詞も依頼。依頼状、礼状あり（3／16）。謝礼100円。「作歌作曲依頼表」記載の年月日は昭和12年3月8日。	依頼校は作曲者として信時を指名。依頼承諾の通知（4／6）に「昭和拾貳年四月拾貳日完結」の印。謝礼50円。	依頼状あり。依頼校は当初添削に高野辰之を指名したがすでに退官していたため、風巻景次郎が添削。後にレコード吹込みも依頼。作曲礼状兼吹込依頼状あり（7／9）。それに対して東京音楽学校が吹き込む場合の謝礼は100円と回答（7／14）。東京音楽学校よりの歌詞修正承諾の通知（3／15）に「昭和拾貳年六月廿參日完結」の印。謝礼130円。	依頼校は作曲者として信時を指名。依頼承諾の通知（4／6）に「昭和拾貳年四月拾貳日完結」の印。謝礼50円。	依頼状あり。依頼校は当初添削に高野辰之を指名したがすでに退官して	依頼状あり。依頼校は当初添削に高野辰之を指名したがすでに退官して

昭12／4／20 滋賀県伊香郡 七郷尋常高等 小学校	校歌	昭12／6／9 陸軍造兵廠小 倉工廠	昭12／6／30 福島市福島第 二尋常小学校	校歌	昭12／7／17 石川県女子師 範学校 今井	蓄音器商社日本	昭12／7／20 丸亀市 藤田	松雄	有	有	有	有	有
日本歯科大学 学生自治会	校校友会	大阪外国语学 校	岩田達雄	京都市 岡田	徳太郎	藤田	蓄音器商社日本	二尋常小學校	土井晩翠	小倉中学校 小倉師範学 校共撰	岡野貞一	岡野貞一*	岡野貞一*
有	有	有	無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無
土井晩翠	吉岡俊次			岡田英一	藤田徳太郎				岡野貞一	自作校歌の校閲依頼。依頼状あり。依頼者は某小学校の依頼で校歌を作曲したが、小学校側が「東京音楽学校校閲」として公表したい意向のため校閲を依頼した。東京音楽学校は「校閲のみ」というのは前例がない、通常教官個人の名義で行っているため承諾できないと回答(7/20)。	（工廠の歌）。依頼状あり。編曲も依頼。依頼者は謝礼としてプロンズの遊馬像と謝金少々を申し入れたが、東京音楽学校は、作曲編曲両方の場合もう少し必要、と回答(6/11)。その結果、依頼取り下げ(6/16)。	依頼状あり。依頼校より、文部省検定用に岡野の履歴を照会(7/16)。それに対する東京音楽学校よりの回答あり(7/19)。依頼承諾の通知(7/6)に「昭和拾貳年七月拾四日完結」の印。謝礼30円。	印。謝礼30円。
無	無	有	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
下總覺三*	橋本國彦*	岩田達雄											
（學生歌）。歌詞のみ。「完結 昭和拾貳年九月拾參日」の印あり。「作 歌作曲依頼表」によると謝礼100円。	（満州國祝日唱歌）校閲依頼。依頼状あり。「東京音楽学校校閲」とし て公表を希望したが、東京音楽学校は承諾せず(9/13)。 （校友會應援歌）。依頼状あり。作詞者は露語部2年生。樂譜送付状案 あり(9/13)。謝礼100円。	（愛國歌）。依頼状あり。個人的なため、承諾せず(9/3)。岡田と右 記藤田徳太郎の両者に対する回答案)。 3。藤田と左記岡田英一の両者に対する回答案)。	（進軍歌）。依頼状あり(日付不明)。個人的なため、承諾せず(9/7) 文部省制定『青年學校の歌』レコード吹込依頼。依頼状、承諾の通知 (7/24)のみ。	（満州國祝日唱歌）校閲依頼。依頼状あり。「東京音楽学校校閲」とし て公表を希望したが、東京音楽学校は承諾せず(9/13)。	（愛國歌）。依頼状あり。個人的なため、承諾せず(9/3)。岡田と右 記藤田徳太郎の両者に対する回答案)。	（校友會應援歌）。依頼状あり。作詞者は露語部2年生。樂譜送付状案 あり(9/13)。謝礼100円。	（學生歌）。歌詞のみ。「完結 昭和拾貳年九月拾參日」の印あり。「作 歌作曲依頼表」によると謝礼100円。						

昭 12 / 11 / 30	昭 12 / 11 / 12		昭 12 / 11 / 14		昭 12 / 11 / 12	昭 12 / 11 / 2	昭 12 / 9 / 29	昭 12 / 9 / 11
局 神戸中央郵便	場 神奈川県鎌倉 郡戸塚町日立 製作所戸塚工		土井林吉	臣 会々長近藤孝	愛媛県新居郡 多喜濱村 内黒嶋神社々 司大日本局神	上田市	和歌山高等商 業学校	満州国郵政總 局
局歌	工場歌					市歌		
有	無	無	有		無	無		有 白井進
			土井林吉			公募		
無	無	無	無		無	無		無 下總覺三*
						下總覺三		
依頼状あり。					『武運貴祈願歌』。依頼状あり。承諾せず（11/13）。			『郵政行進歌』。依頼状あり。レコード吹込みも希望。歌詞は公募による。謝礼100円。「作歌作曲依頼表」記載の年月日は昭和12年10月1日。
				（日獨伊三國防共協定）。依頼状あり。生徒に試作させた中から選曲し、下總覺三が編曲したものを作成（11/27）。土井林吉は土井晚翠の本名。 兵庫県学務部長より軍歌吟詩集『雄の叫び』を贈呈する旨の通知のみ（昭12/11/13）。				校歌レコード吹込み許可依頼。依頼状あり。昭和5年に橋本國彥が作曲した校歌の吹込み依頼。依頼承諾の通知あり（9/30）。その他本書986頁（校歌作曲依頼）、994頁（レコード吹込承認依頼）、1000頁（四部合唱編曲依頼）を参照。
				依頼状あり。歌詞は島崎藤村撰。謝礼100円。「作歌作曲依頼表」記載の年月日は昭和12年12月10日。				

昭 13 / 4 / 10	昭 12 / 7 / 3	昭 12 / 12 / 27	昭 12 / 12 / 7	昭 12 / 12 / 7	昭 12 / 12 / 12	昭 12	昭 12 / 12 / 7
常 小 学 校	善 隣 高 等 商 業 校	宮 崎 県 南 那 珂 郡 本 城 尋 常 高 等 小 学 校	所	通 信 官 吏 練 習	土 井 晚 翠	機 部 尋 常 高 等 小 学 校	三 重 県 志 摩 郡 小 倉 部 隊
校 歌	校 歌	校 歌				校 歌	
有	無	無		有	有	有	無
堀 澤 周 安	土 井 晚 翠	增 竹 平 吉		公 募	土 井 晚 翠	田 邊 白 兔	
無	無	無		無	無	無	無
橋 本 國 彦 *		細 川 碧 *		下 總 覺 二 *			下 總 覺 三 *
依 頼 状 あり。 作 詞 者 は 香 川 県 善 通 寺 高 等 女 学 校 校 長。 謝 礼 100 円。	依 頼 状 、承 諾 の 通 知 ( 7 / 9 ) 、依 頼 校 よ り の 作 曲 催 促 状 ( 昭 13 / 1 / 15 ) 、そ れ に 対 す る 東 京 音 楽 学 校 よ り の 回 答 ( 1 / 18 ) あ り。 謝 礼 100 円。	依 頼 状 、承 諾 の 通 知 ( 昭 13 / 1 / 11 ) 。作 詞 者 は 依 頼 校 校 長。 八 波 則 吉 が 歌 詞 を 校 聞。 依 頼 校 よ り の 礼 状 ( 5 / 23 ) に 、送 付 さ れ た 一 曲 中 第 一 曲 目 を 採 用 し、 謝 礼 を 送 付 し た 。 と あ る ( こ の 時 す で に 増 竹 は 転 任 し て、 後 任 の 校 長 とな っ て い た )。 謝 礼 30 円。	《南京陥落》。依頼状によると、生徒の作曲でも可、としている。東京音楽学校は依頼を承諾したが、作詞が大阪毎日と東京日々新聞の委嘱であることから、生徒の作曲について新聞社の意向を確認するよう回答している(12/13)。	《學生歌》。依頼状によると、生徒の作曲でも可、としている。東京音楽学校名義にする場合、作曲者を交えて会議にかけなければならぬため、謝礼は150円とし(12/9)、それに対し依頼者は作曲者名義を希望(12/15)。謝礼100円。依頼者より、東京音楽学校が「第一類四六」の詩を選んだことを了承する通知(12/20)に、「昭和拾參年壹月八日送付」の印。	歌詞の添削は増子懷永。増子を通じて依頼した。楽譜送付状(12/24)と歌詞のみ。	17 日。 8 のみ。 謝 礼 50 円。 「作 歌 作 曲 依 頼 表 」記 載 の 年 月 日 は 昭 和 12 年 11 月 12 / 12 / 11 月 。	

昭 13 7 2	昭 13 6 23	昭 13 7 4		昭 13 7 2	昭 13 4 13	昭 13
団 伊豆田村青年 高知県幡多郡	与文中学 校 (吳市平沢町)	武田京三	宇都宮市陸軍 病院戸祭分院 内科六の小間 室四号	小木曾定雄	ホノルル市カ カアコ・アラ パイ共立日本 語学校	東京第三陸軍 病院中寮八号 舎一班 杉本 英次郎
団歌	校歌	校歌			校歌	
有	有	有		有	有	有
	青井	武田京二		小木曾定雄		杉本英次郎
無	無	無		無	無	無
岡野貞一	岡野貞一				下總覺三*	
依頼状あり。 (8/3付) あり。	依頼状による こと。事前に知人を介して依頼済。 （7/29）。謝礼50円。 あり。	（鳥居本尋常高等小學校校歌）。依頼状あり。 依頼者は彦根高等商業学校教諭。東京音楽学校は、この歌詞が個人として作ったものであり学校からの依頼ではないため承諾できないこと、さらに小學校校歌の場合謝礼は30円以上になることを伝えている（7/7）。	（名残惜しき保定）。依頼状あり。承諾せず（7/7）。	依頼状で、事前に出した3月30日付の依頼状について照会している。依頼承諾の通知案（6/13）に、「昭和拾參年六月拾七日完結」の印あり。 謝礼120円。	（勇戦機關銃の歌）。依頼状あり（日付不明）。承諾せず（5/23）。	

昭 13 / 10 / 9	昭 13 / 6 / 21	昭 13	昭 13 / 10 / 10	昭 13	昭 13 / 9 / 7	昭 13 / 5 / 9
範 校 長 長崎県女子師 学校	人 会 本 部 大社教神道婦 会	國 彦 愛媛県 栗田	科 部 信濃教育会植	福 岡 県直方高 等女学校長 小林大右衛門	廣 島 県濟美実 科高等女学校	台灣總督府文 教局
校 歌	会 歌				校 歌	
有	無	無	有		有	無
鈴木敏也	風卷景次郎		高野辰之		上村貞章	公募
無	無	有	無		無	無
信時 潔	細川 碧*	栗田國彦	信時 潔*		岡野貞一*	公募
1月 14日。	千家尊有を通して作詞作曲を依頼。千家より依頼状あり。謝礼200円。 （10/21付）	長崎県立大村高等女学校と共用。依頼校教諭の浦田ひさ代（東京音楽学校卒業生）を通じて依頼。依頼校より公式依頼状あり（10/26）。作曲者として信時を指名し、一部または三部合唱を希望。作詞者は広島文理教授。謝礼100円。「作歌作曲依頼表」記載の年月日は昭和13年4月。	（象山佐久間先生）。依頼状あり。直接来校の上依頼されたのは10月8日。「作歌作曲依頼表」では、依頼者名が「長野縣植科郡教育會」となっている。謝礼50円。「作歌作曲依頼表」記載の年月日は昭和13年10月14日。	東京音楽学校作曲の曲に関する質問。質問状（日付不明）では、東京音楽学校作曲、体育運動歌第二「高鳴る血潮」の途中に歌詞とリズムが合わないと思われる個所があるが、そこだけ拍子を置き換えて歌つてよいか、とある。それに対して作曲者の信時潔は、「可能ではあるがそのような場合普通は『歌いまして處理する』ものであるから、拍子を変える必要はない」と回答（10/8）。	（済美高等小學校校歌）。依頼状あり。小学校の校歌として依頼し、実科女学校と済美青年学校と共にすることになっていた。作詞者は広島県立福山工業学校教諭。依頼校よりの歌詞送付状（9/22）に、「昭和拾參年拾月壹日 完結」の印。「作歌作曲依頼表」によると謝礼50円。謝礼300円。舞踊振付も依頼された（8/6）。	《臺灣行進曲》。依頼状あり。公募等当選歌に對して曲を公募し、その審査を東京音楽学校が行つた（「作歌作曲依頼表」による）。審査担当は下總覺三と細川碧。一等當選曲のみに東京音楽学校が改訂を加え、伴奏をつけた（「作歌作曲依頼表」には作曲者名が橋本國彦と木下保とあるが、これは改訂者）。樂譜送付状（7/19）、札状（7/26）あり。

昭13 12 5	宮城県教育会
有	
公募	
無	

〔作曲依頼関係書類 昭和十四年～昭和十五年〕

依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	作詞者	楽譜	作曲者	備考
昭14 9 23*	文部大臣官房 秘書課*						
昭14 9 6*	宮城県塙釜第 三尋常小学校*	会*	近江神宮奉贊				
昭15 1 10*	新潟県刈羽郡 中鯖石村鯖石尋常高等小学	尼崎市*	学園*	奉天平安鍋山外務省東亜局*	結核予防会*	校歌*	
	校歌*	市歌*	園歌*	校歌			
無	無	無	無	無	無	無	無
						選歌*	
無	無	無	無	無	無	橋本國彦*	
					細川碧*	東京音楽学校(信時潔)*	『文部省員體操伴奏曲』。『作歌作曲依頼表』記載のみ。謝礼500円。
							『奉贊歌』。『作歌作曲依頼表』記載のみ。
							「作歌作曲依頼表」記載のみ。
							「結核豫防の歌」。『作歌作曲依頼表』記載のみ。
							『石塚莊日本小學校校歌』。『作歌作曲依頼表』記載のみ。
							「作歌作曲依頼表」記載のみ。
							「作歌作曲依頼表」記載のみ。
							「作歌作曲依頼表」記載のみ。

『宮城縣民歌』。依頼状あり。さらに、管弦楽と吹奏楽用伴奏譜を教育  
会副会長阿刀田令造（第二高等学校校長）が12月20日に来校して依頼。  
それに対して東京音楽学校は、特別に作曲者を東京音楽学校名義にして  
作曲するので、教育会より改めて正式依頼状を出すよう回答している  
(12/21)。なお、この依頼に関する後続資料は本書1025頁参照。

昭14／3／9	宮城県若柳高等女学校	昭14／1／4	台灣台中州教化聯合會	昭14／1／26	富山県立水見高等学校	昭14／1／11	山形県立宮内常高等小学校	昭14／1／10	愛知県海部郡立田村北部尋常高等小学校	宮城県教育会	樺太公立真岡商業学校*	学校*	室蘭高等工業学校*	学校*	京城高等商業學校*	学校*	日本高等獸医学校*	静岡市安東尋常高等小学校*	昭14／12／7*
																		校歌*	「作歌作曲依頼表」記載のみ。
無	有	無	有	有	無	有	佐佐木信綱				校歌*	校歌*	校歌*	校歌*	校歌*	校歌*	校歌*	校歌*	無
学校	若柳高等女	石井重雄																岡野貞一*	
無	無	無	無	無	無	無											校*	東京音楽学校	
	下總覺三*	橋本國彥*	細川碧*	岡野貞一*														岡野貞一*	
20円を限度としたため依頼を承諾しない旨の通知（3／14）のみ。	（創立十周年祝歌）。歌詞は山田孝雄が校閲。依頼状と、依頼校が謝礼	（臺中州歌）。依頼状、樂譜送付状あり（3／1）。歌詞は公募によるもので、作詞者は台中州豊原郡大雅公学校教諭とみられる。「作歌作曲依頼表」によると作曲者名は東京音楽学校名義で、謝礼70円。	依頼状あり。依頼校は作曲者として橋本を指名。謝礼額は依頼状によるもと50円、「作歌作曲依頼表」では40円。樂譜送付状あり（2／7）。	依頼状あり。高折宮次を通して依頼。樂譜送付状（1／30）、礼状あり（2／3）。謝礼30円。	13／12／24)、樂譜送付状（昭14／1／21）あり。謝礼200円。	「宮城縣民歌」（昭13／12／5依頼）の後続資料。二度目の依頼状（昭13／12／24)、樂譜送付状（昭14／1／21）あり。謝礼200円。	「作歌作曲依頼表」記載のみ。	「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼100円。	「作歌作曲依頼表」記載のみ。謝礼200円。	「作歌作曲依頼表」記載のみ。									

昭 14 / 10 / 27	朝鮮総督府学 務局	学校 宮城県黒川農	学校 大邱公立商業	学校 海州西公立中	学校 千葉県夷隅郡 御宿実科高等	画局長	昭 14 / 4 / 20	傷兵保護院計	学校 大同工業専門	昭 14 / 4 / 15	等女学校 奈良県郡山高	昭 14 / 3 / 31	京城進明高等 女学校	校歌 有
無		校歌	校歌	校歌	白鳥省吾	風巻景次郎	香淳皇后	土井晚翠	相馬御風	有	李王娘妃方 子女王		東京音楽学 校*	
無		無	有	有	無	無	無	無	無	無	無		東京音楽学 校*	
岡野貞一*		岡野貞一	細川碧*	林喬木	下總覺三*	宮城道雄*	依頼状あり。樂譜送付状（5／15）には、漢字が多く作曲が難しかったとある。	東京音楽学校は、常に苦労したため謝礼を通常50円のところ100円希望する旨伝えている（昭15／1／12）。本書92頁（校歌作曲依頼）も参照。	東京音楽学校名義にすると100円、としている。「作歌作曲依頼表」によると50円。				樂譜送付状（4／11）の中で、作曲者名を個人名義にすると謝礼50円、	
総督府編纂の初等唱歌三、四年生用新作20曲の審査依頼。依頼状、審査結果送付状あり（11／8）。	メモ「作曲原稿多田操氏に送付」（昭15？3／23）。	依頼状、樂譜送付状あり（7／18）。依頼状によると依頼校が謝礼50円を提示しているが、「作歌作曲依頼表」では40円。	作詞も依頼。依頼状と承諾の通知（9／14）のみ。	（4／28）。	（4／28）。	（4／28）。	（4／28）。	（4／28）。	（4／28）。	（4／28）。	（4／28）。	（4／28）。	（4／28）。	

昭15／5／18	昭15／5／16	昭15／1／18	昭15／4／17	昭15／3／7	昭15／3／7	昭14／12／23	昭15／2／9	昭15／3／22
等小学校 郡中郷尋常高 青森県南津軽	福井県南條郡 宅良小学校 愛知県拳母高	等女学校 部隊旅団	東京府大泉師 範学校	小学校	福島県郡河沼 郡岡尋常高等	敦賀市	旅順高等学校	校歌
校歌	校歌	校歌		校歌	校歌			川邊光順
有	無	無	有	有	有	有	有	有
土井晩翠		風巻景次郎		五味保義	相馬御風	一力 強	無	無
無	無	無	無	無	無	無	東京音楽学 校*	東京音楽学 校
信時 潔		橋本國彦	平井保喜*		細川 碧	依頼状、樂譜送付状（昭15／3／9）、依頼校より細川の履歴を照会す る旨の通知（3／15）、その回答（3／16）あり。	依頼状、樂譜送付状（4／15）、札状（4／22）あり。東京音楽学校は、 作曲者名が個人名義なら謝礼100円、東京音楽学校名義なら200円と伝えて いる（3／25）。謝礼200円。	依頼状、樂譜送付状（4／15）、札状（4／22）あり。東京音楽学校は、 作曲者名が個人名義なら謝礼100円、東京音楽学校名義なら200円と伝えて いる（3／25）。謝礼200円。
依頼状あり。依頼校が作曲者として信時を指名。	作詞も依頼。福井師範学校岩崎徳夫を通して依頼された。依頼状とその 回答（5／20）のみ。岩崎が依頼状となるべく一流の作家を、と希望し たのに対し、東京音楽学校は、校歌は歌いやすさが第一であるから人選 は一任してほしいこと、作詞作曲料は200円であること、改めて依頼校か らの正式の依頼状を必要であることを伝えている。	作詞および演奏者派遣（3人）も依頼。依頼状、樂譜送付状（5／7） あり。謝礼150円。	《旅團歌》。依頼状、樂譜送付状（5／1）あり。	依頼状あり。依頼校は作曲者名を東京音楽学校名義にするよう希望。東 京音楽学校はその場合謝礼100円と回答（3／8）。	仙台よりの電報「解決した感謝す 本多」（昭15／2／21）。	依頼状、樂譜送付状（昭15／3／9）、依頼校より細川の履歴を照会す る旨の通知（3／15）、その回答（3／16）あり。	依頼状、樂譜送付状（4／15）、札状（4／22）あり。東京音楽学校は、 作曲者名が個人名義なら謝礼100円、東京音楽学校名義なら200円と伝えて いる（3／25）。謝礼200円。	依頼状、樂譜送付状（4／15）、札状（4／22）あり。東京音楽学校は、 作曲者名が個人名義なら謝礼100円、東京音楽学校名義なら200円と伝えて いる（3／25）。謝礼200円。

昭15／4

北支派遣稻川  
部隊

下總覽三\*

	昭15／7／15	昭15	昭15	昭15	昭15	昭15	昭15／4／30		
小学校	東京市駕籠町 高等学校	静岡県小笠郡 掛川第一尋常	教學局	埼玉県立児玉 高等女学校	朝鮮忠清北海 清州第二公立	財團法人社会 教育協会	福島県信夫郡 鳥川尋常高等 小学校		
校歌	校歌			校歌	校歌		校歌		
無	無	有	有	有	有	無	有		有
	馨壽夫	橋本公宣			田邊幟	公募	土井晚翠		
無	無	無	無	無	無	無	無		無
	校* 東京音楽学	橋本國彥	細川碧	信時潔					
樂譜送付状のみ 在の巣鴨付近)。	(現)	（興亞學生勤労報國隊の歌）。歌詞、依頼者より作曲者として橋本を指名する旨の通知（6／3）、その回答（6／7）のみ。歌詞は公募によるもので、作詞者は中央大学学生。よると謝礼50円。	依頼校は当初乘杉校長に作詞を依頼したが、承諾されなかつた（1／26）。その後依頼校が歌詞を用意し、改めて歌詞の添削と作曲を依頼した（2／1）。樂譜送付状あり（5／27）。謝礼50円。	東京音楽学校より信時宛依頼状（4／13）、樂譜送付状（5／17）あり。依頼校が作曲者として信時を指名。作詞者は依頼校教諭。謝礼50円。	（紀元二千六百年女子青年奉賛歌）。依頼承諾の通知（5／24）、正式依頼状（6／1）のみ。	依頼状、樂譜送付状（5／24）あり。紀元2600年を記念して制定。謝礼30円。	依頼状、樂譜送付状（5／24）あり。紀元2600年を記念して制定。謝礼30円。吹込み料が200円である旨とレコード吹込み者案を通知（5／28）。吹込み完了は6月1日。	明、作曲完成樂譜送付状（5／22）あり。東京音楽学校からの料金内訳表（4／26）によると、作曲50円、編曲30円、吹込120円（うちソリスト20円、指揮者20円、オーケストラ30円、合唱団40円）。その他各レコード会社の吹込み料などの料金表もあり。東京音楽学校は作曲ならびに演奏料が200円である旨とレコード吹込み者案を通知（5／28）。吹込み完了は6月1日。	（兵團歌）。作曲、編曲、レコード吹込み依頼。依頼状（四月、日付不明）、作曲完成樂譜送付状（5／22）あり。東京音楽学校からの料金内訳表（4／26）によると、作曲50円、編曲30円、吹込120円（うちソリスト20円、指揮者20円、オーケストラ30円、合唱団40円）。その他各レコード会社の吹込み料などの料金表もあり。東京音楽学校は作曲ならびに演奏料が200円である旨とレコード吹込み者案を通知（5／28）。吹込み完了は6月1日。

昭 15 9 28	昭 15 10 5	昭 15 9 1	昭 15 7 13	昭 15 9 21	昭 15 9 6	昭 15 8 2	昭 15 7 17	昭 15 7 5
和歌山市	宮城県鳴瀬尋常高等学校	郡大巻尋常高	新潟県南魚沼尋常小学校	樺太真岡第三学校	福井県立工業小学校	伊達尋常高等小学校	北海道有珠郡蒙彊厚和特別小学校	石巻市湊尋常高等小学校
市歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	東京府立第五中学校
有	有	有	有	無	有	有	有	有
和歌山市撰	土井晩翠	小和田毅夫	青木益太郎		土井晩翠		山口百陽	白鳥省吾
無	無	無	無	無	無	無	無	無
澤崎定之	校* 東京音楽学	清水脩	細川碧		校* 東京音楽学		細川碧*	下總覺三
依頼状、樂譜送付状（9/28）あり。依頼者は作曲者として澤崎を指名。「作歌作曲依頼表」によると謝礼60円。	依頼状、樂譜送付状（11/1）あり。依頼校は、作曲者名を東京音楽学校名義にするよう希望。東京音楽学校より、小学校は最低謝礼30円、東京音楽学校名義の場合は倍額以上と通知（10/7）。「作歌作曲依頼表」によると謝礼60円。	依頼状、樂譜送付状（9/13）あり。謝礼50円。作詞者は六日町中学校校長。	依頼状、樂譜送付状（9/26）あり。作詞者は樺太厅真岡高等女学校校長。	機械科新設に伴い、歌詞が変更されたことによる曲譜訂正依頼。歌詞は佐佐木信綱が添削。依頼状、樂譜送付状（9/26）、礼状（10/3）あり。その他本書1003頁（校歌作曲依頼）参照。	依頼状、樂譜送付状（10/3）あり。依頼校は作曲者名を東京音楽学校名義にするよう希望。謝礼100円。	依頼状、樂譜送付状（9/12）、樂譜送付状（9/12）あり。東京音楽学校より依頼校宛に、謝礼は石冢莊日本人小学校と同額の50円と通知（8/12）。依頼校より依頼承諾に対する礼状には、昨年石冢莊日本人小学校が依頼して非常に好評だったので、こちらでも依頼することにした」とある（日付不明）。「作歌作曲依頼表」によると謝礼30円。	依頼状、樂譜送付状（9/2）あり。	東京音楽学

『五中健兒の歌』。依頼状あり。依頼校は作曲者名を東京音楽学校名義にするように希望。樂譜送付状（9/2）、礼状（9/3）あり。「作歌作曲依頼表」によると謝礼200円。

				處理年月日	
				依頼者	
業学校	福島県菊多実	中学校	大分県立国東	小学校	福島県信夫郡 杉妻尋常高等
校歌	寮歌			校歌	種別
無	無			無	歌詞
					作詞者
無	無			無	樂譜
平井保喜	山田和男	校	東京音楽学	作曲者	
	謝礼50円。				備考

昭和十六年中作歌作曲依頼表

〔昭和16年度について現存する資料は、B4版一枚に和文タイプでまとめられた「昭和十六年中作歌作曲依頼表」のみである。参考用に旧校歌歌詞、東京音楽学校より風巻宛依頼状（9/14）、樂譜送付状（10/8）あり。〕

昭15/2/17	昭16/2/3	昭16/2/4	昭16/2/4	依頼者	
業学校	福島県菊多実	中学校	大分県立国東	小学校	福島県信夫郡 杉妻尋常高等
校歌	寮歌			校歌	種別
無	無			無	歌詞
					作詞者
無	無			無	樂譜
平井保喜	山田和男	校	東京音楽学	作曲者	
	謝礼50円。				備考
昭15/7/2	昭15/9/12	昭15/9/20	昭15/9/20	依頼者	
学校	樺太敷香郡内 路尋常高等小	天津日本中学	青森県致遠尋常 小学校	東京高等蚕糸	校歌
校歌		校歌	校歌	校歌	校歌
有		有	有	有	有
風卷景次郎	土井晚翠			風卷景次郎	土井晚翠
無	無			無	無
岡野貞一	東京音楽学	信時 潔			東京音楽学
					依頼状、樂譜送付状（10/2）、礼状（10/付）、礼状（10/7）あり。依頼校が作曲者として信時を指名。「作歌作曲依頼表」によると名義にするよう希望。謝礼100円。
					依頼状、樂譜送付状（10/2）、礼状（10/16）あり。依頼校は作曲者名を東京音楽学校名義にするよう希望。謝礼50円。
					依頼状（9/14）、樂譜送付状（10/8）あり。

依頼状、樂譜送付状（10/25）あり。依頼校は作曲者名を東京音楽学校名義にするよう希望。謝礼100円。

作詞も依頼。樂譜送付状あり（10/24）。

	昭 16 / 7 / 3	昭 16 / 7 / 3		昭 16 / 6 / 2	昭 16 / 7 / 3	昭 16 / 6 / 3	昭 16 / 6 / 13	昭 16 / 4 / 2	昭 16 / 3 / 14	昭 16 / 2 / 17		
内眞 学校長 大河	山梨県立蚕業 学校	高田町国民学 校	福島県柏崎高 等実業学校長	新潟県青年学 校教員養成所	治長五十嵐正	山形県立三次 中学校	広島県立三次 浜松高等工業 学校	福知山中学校	□田陸軍飛行 学校長	野部隊長(熊星)	北支派遣原田 市農學校	大分市立四日 校
	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	行進歌	校歌	連隊歌	校歌	
	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	
					風巻景次郎							
	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	無	
高田信一	(山田和男)	校	東京音楽学 校	中田一次	(岡野貞一)	校	東京音楽学 校	高田信一	校	東京音楽学 校	下總覺三(山田和男)	東京音楽学校 謝礼120円。
	謝礼50円。		謝礼100円。	謝礼50円。		謝礼100円。	謝礼100円。	謝礼200円。	謝礼50円。	謝礼50円。	謝礼50円。	謝礼50円。

昭 16 12 5	昭 16 11 28	昭 16 11 17	昭 16 10 24	昭 16 10 10	昭 16 10 10			
国民学校 北海道奈井江	国民学校 日立市中小路	学校長 小樽市立商業	国民学校長 福島県川西村	愛知県知事 相川勝六	女学校 朝鮮進明高等	団 郡門田村青年	福島県北会津 学校 郡門田村国民	福島県北会津 郡門田村国民
校歌	校歌	校歌	校歌		校歌	校歌	校歌	校歌
無	無	無	無	無	無	無	無	無
無	無	無	無	無	無	無	無	無
(岡野貞一)	校 東京音楽学 (中田一次)	校 東京音楽学 (細川碧)	校 東京音楽学 (細川碧)	中田一次	信時潔 校 (細川碧)	東京音楽学 東京音楽学 謝礼100円。処理年月日欄に「十二月一日(再調)」	信時潔 校 (細川碧)	信時潔 謝礼50円。
	謝礼50円。		謝礼50円。		謝礼30円。	謝礼200円。 『翼賛愛知歌』。謝礼100円。		謝礼50円。

昭和十七年六月 作曲依頼関係書綴

					依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	作詞者	備考
昭18 内中学校	鹿児島県立川 専門部	昭18 6 12 新潟医科大学 臨時附属医学	昭18 6 11 張家口第二日 本国民学校	昭18 4 28 大政翼賛会岐 阜県支部	昭18 9 4 王子精工株式 会社	依頼状のみ。依頼者は作曲者として信時潔を指名。				
有 当選歌(公募二等)	有	有	有	有	無					
無	橋本國彦		校 東京音楽学	古山省三						
（中馬中佐頌歌）。樂譜送付状あり（9/20）。依頼校は東京音楽学校名義での作曲を希望。歌詞選者は佐佐木信綱。	（醫學専門部々歌）。依頼状、樂譜送付状（9/3）あり。東京音楽学校は謝礼額を100円から120円と提示。	（都竹兵曹長を讀ふる歌）。依頼状、樂譜送付状（7/26）、東京音楽学校より謝礼200円以上である旨の通知（8/19）あり。歌詞は公募による。選者は福田夕咲と吉村比呂志。	作詞も依頼。蒙彊神社首席神職和田義郎が直接來校の上依頼（6/1）。依頼状、樂譜送付状（6/30）あり。その後依頼校から出来上がった校歌に対する検定依頼があった（9/1）が、東京音楽学校は「本校に於て取扱ふべき筋合」のものではないとして、直接文部大臣宛に提出するよう回答した（9/17）。謝礼200円。							

昭16 11 27 福島県長塚村 国民学校	大分県知事 灘尾弘吉	《宇佐神宮奉贊歌》。謝礼200円。
校歌		
無	無	
校 東京音楽学 (山田和男)	東京音楽学 (下總覺三)	謝礼50円。

昭  
18昭  
18  
6  
30昭  
18  
5  
2昭  
18  
4  
22  
中支那派遣原  
七九三七部隊昭  
18  
3  
22  
台灣總督府殖  
產局農務課昭  
18  
1  
19  
瀬上町國民学  
高等女学校昭  
18  
1  
19  
福島県信夫郡  
静岡県立静岡昭  
18  
1  
19  
福知山高等女  
学校昭  
18  
1  
19  
福島県棚倉実  
科高等女学校昭  
18  
1  
22  
隊長  
林靜雄  
仏印派遣討第  
一〇三〇七部昭  
18  
3  
11  
校歌昭  
18  
1  
11  
校歌

有

部隊員某

無

31) 《南方第四陸軍病院歌》。依頼状、樂譜送付状（3／31）、礼状（5／31）あり。謝礼50円。

歌詞、依頼者よりの歌詞送付状（7／17）、東京音楽学校よりの通知（8／5。書きかけ）のみ。

依頼状、承諾の通知（8／12）、依頼校より依頼取り下げの通知（9／1）あり。

依頼状、承諾の通知（6／15）のみ。

依頼状、（親馬仔馬）。依頼状、個人的依頼のため承諾しない旨の通知（5／30）のみ。

童謡（親馬仔馬）。依頼状、個人的依頼のため承諾しない旨の通知（5／30）のみ。

歌詞、作曲依頼の記録（5／4）のみ。

歌詞、作曲依頼の記録（5／4）のみ。

依頼状、樂譜送付状（5／4）あり。依頼校は東京音楽学校名義での作曲を希望。謝礼100円。

依頼状、樂譜送付状（4／19）あり。謝礼100円。武島又次郎は武島羽衣

仲介者天野蝶よりの聲壽夫宛依頼状（3／30）、樂譜送付状（4／20）あり。

依頼状、樂譜送付状（4／19）あり。謝礼100円。武島又次郎は武島羽衣の本名。

1035 第4節 調査研究、事業など

		昭 17 9 12		昭 17 12 1		昭 17 9 23		昭 18 1 18		昭 17 12 27		昭 18 10 22		昭 18 1 25	
科文芸部	東京市立芝商業学校第二本	部隊 富錦第六一三	滿州国三江省 女学校	朝鮮全羅南道 順天郡順天邑	順天公立高等	青森県下北郡 大湊海軍建設	部 会	日本讀仏歌協	製地織物株式	日本金欄表裝	校	福島県相馬郡 鹿島町国民学	民学校	東京市谷中国	
		部隊歌		校歌						社歌		校歌		校歌	
有		有		有		有		有		有		有		有	
作山 榮		高田 保		八波則吉				江崎小秋		東京音楽学校		土井晚翠		半田源之進	
無		無		無		無		無		校撰		無		無	
							信時 潔								
依頼状、樂譜送付状（2/15）あり。	10月16日に来校の上、依頼。依頼状、樂譜送付状（10/31）、謝礼領収書写（12/3）あり。謝礼100円。	依頼状、樂譜送付状（2/15）あり。	依頼状、樂譜送付状（1/25）あり。東京音楽学校は作曲者名を作曲者個人名義にする場合200円以上、東京音楽学校名義にする場合は300円以上、と通知（1/4）。	依頼状、樂譜送付状（1/23）あり。依頼者は、作曲者名を東京音楽学校名義にするよう希望。その後レコード吹込み、ラジオ放送も希望（2/5）。	依頼状、樂譜送付状（11/23）あり。依頼者は、作曲者名を東京音楽学校名義にするよう希望。その後レコード吹込み、ラジオ放送も希望（2/5）。	依頼状、樂譜送付状（11/23）あり。依頼者は、作曲者名を東京音楽学校名義にするよう希望。その後レコード吹込み、ラジオ放送も希望（2/5）。									
依頼状、樂譜送付状（11/5）あり。依頼状によると文藝春秋社の斡旋で高田が作詞。 『芝商應援歌』。依頼状（年月日不明）と歌詞のみ。依頼状によると事前に電話で依頼している。	依頼校教諭岩崎キヨ子よりの依頼状（11/20）、依頼状、樂譜送付状（12/24）あり。東京音楽学校は謝礼額を100円以上と提示（12/5）。作詞者は第五高等学校教授。														

昭 17 9 18	昭 17 8 2	昭 17 9 21	昭 17 7 5	昭 17 8 6	昭 17 8 14	昭 17 10 12	昭 17 9 7		
学校	福島県石川中 宮 京都 大爺恒夫	虎之助 大津町 平安神	島根県出雲市 浅尾	西第九八二五 部隊	北海道北見市 氣仙沼町 中央国民学校	宮城県本吉郡 郡新和村小友 国民学校	青森県中津軽 郡青森県登米郡 宝江国民学校		
校歌				校歌		校歌	校歌		
有	無	有	有	有	有	有	有		
風卷景次郎		淺尾虎之助			土井晩翠	岩村芳麿	白鳥省吾		
無	無	無	有	無	無	無	無		
細川碧			高田信一						
依頼状、樂譜送付状（11／5）あり。事前に依頼校校長が来校して依頼（8／9）。それに対し東京音楽学校は、学校長以下皆満州に出張中ので改めて依頼してほしいこと、作曲者名を東京音楽学校名義にする場合は、謝礼は50円であることを回答（8／11）。東京音楽学校が謝礼額を50円以上と提示（9／12）。	依頼状、樂譜送付状（11／4）あり。東京音楽学校が謝礼額を50円以上と提示（10／15）。	依頼状、樂譜送付状（11／4）あり。東京音楽学校が謝礼額を50円以上と提示（9／12）。	依頼状、樂譜送付状（11／5）あり。事前に依頼校校長が来校して依頼（8／9）。それに対し東京音楽学校は、学校長以下皆満州に出張中ので改めて依頼してほしいこと、作曲者名を東京音楽学校名義にする場合は、謝礼は50円であることを回答（8／11）。東京音楽学校が謝礼額を50円以上と提示（9／12）。	依頼状、樂譜送付状（10／29）あり。依頼状による（氣仙沼町民歌）。依頼状、樂譜送付状（10／29）あり。依頼状によると、作詞者の意向で東京音楽学校に依頼。東京音楽学校より、学校全体が満州に出張中のため回答に時間を要すること、また作曲者名を東京音楽学校名義にする場合の謝礼は50円以上であることを回答（8／14）。	依頼状、樂譜送付状（10／9）あり。石森延男（文部省図書監修官）が歌詞を検閲。東京音楽学校より、学校全体が満州に出張中のため回答に時間を要すること、また作曲者名を東京音楽学校名義にする場合の謝礼は50円以上であることを回答（8／13）。	部隊歌〈佛印工兵隊ノ歌〉。石川吉郎を通じて依頼。依頼状、樂譜送付状（9／3）あり。依頼承諾の通知（8／3付）に「高田信一ニ依頼」と書込み。石川が作曲の礼に謝礼持参で来校し、その際レコード吹込みに関して東京音楽学校がユニヴァーサル吹込所を紹介した（9／14）。樂譜のみ「昭和十九年以降作曲綴込」にあり（本書1044頁参照）。	（出雲大社奉納歌）。依頼状あり。東京音楽学校は当初、個人的依頼ではあるものの今回は特別に承諾すると回答（9／23）したが、その後審査の結果、作曲困難な歌詞であること（21番まである）を理由に依頼を断っている。（10／23）。	（平安神宮奉頌歌）。依頼状のみ。東大教授の宮地博士ほかに作詞を依頼した、と述べている。	（平安神宮奉頌歌）。依頼状あり（後半が破損して紛失しているため日付不明だが、封筒の日付より9月18日と思われる）。依頼承諾の通知に、謝礼額は作詞・作曲各100円ずつある（9／24）。東京音楽学校より、締切について細川宛の通知（10／20）、樂譜送付状（11／4）あり。

昭 17 / 6 / 12	昭 17 / 12 / 21				昭 19 / 5 / 25	昭 17 / 4 / 17	昭 17	昭 17 / 7 / 10	昭 17 / 7 / 20	昭 17 / 7 / 27
機 関	北京陸軍特務 会社	東北配電株式 会社	茨城県潮来高 等女学校	局 京都中央放送	三馬弘進護謨 工業株式会社	中島飛行機株 式会社武藏野 製作所寮友会	長崎高等商業 学校	日本ニッケル 株式会社	共栄女子商業 学校	平田篤胤研究 会代表 折原 要
	社歌	校歌			会歌			社歌	校歌	
無	有	無	有	有	有	有	有	無	無	有
	従業員某		上田忠男	土井晚翠	土井晚翠			土井晚翠		土井晚翠
	無	無	無	有	無	無	無	無	無	無
北京市音楽堂竣工記念懸賞歌詞審査委員依嘱。 と書込)、審査委員の名簿、歌詞募集要項、審査規定案のみ。	依頼状、樂譜送付状(昭18/1/11)あり。東京音楽学校は、謝礼は200円以上、作曲者名を東京音楽学校名義にする場合は300円以上と通知(12/23)。歌詞は従業員から募集したもので、土井晚翠撰・添削。	依頼校より、もろもろの事情で歌詞を届けられなかつたが2月上旬には直接届ける旨の通知のみ(1/31)。	『海行く僕ら』の歌詞のみ。余白に「信時潔先生」と書き込みあり。その他の依頼書類は本書1038ページ参照。	『工場歌』。依頼状と歌詞のみ。樂譜のみ『昭和十九年以降作曲緩込』にあり(本書1045頁参照)。	依頼状(土井の推薦で依頼)、樂譜送付状(5/21)あり。4月14日に来校して依頼。作曲者名を東京音楽学校名義にすること、曲は齊唱にすることを希望。東京音楽学校は謝礼額を100円以上と提示(4/21)。	『學園歌』。樂譜送付状(7/17)と歌詞のみ。歌詞は二種類あり(入選作は依頼校教授河野吉男、選外佳作は依頼校生徒松岡幸介)、どちらが作曲されたかは不明。	依頼状、送付状(7/21)あり。7月9日に来校して依頼。依頼者は謝礼予算を200円とし、東京音楽学校名義での作曲を希望。	作詞も依頼。依頼状、及び東京音楽学校より、公式の依頼状が必要であること、謝礼額は作詞作曲とも作者名を個人名義にすると各50円、東京音楽学校名義にすると各100円であるとの通知(7/23付)のみ。	程度で、東京音楽学校名義での作曲を希望。	『平田篤胤先生頌歌』。依頼状、樂譜送付状(9/4)あり。平田篤胤の記念碑建立(百年祭)にちなんで、土井の推薦で依頼。依頼者は、埼玉県立越ヶ谷高等女学校校長。7月23日に来校して依頼。謝礼予算は70円程度で、東京音楽学校名義での作曲を希望。

昭和十八年八月 昭和二十年二月 作歌曲依頼書綴											
昭20／6／8	濟南第一日本国民学校	藤市	静岡県内政部教育課	赤尾	依頼年月日	昭20／9／1	依頼者	長崎県立北松浦農学校	局	昭20／9／1	依頼年月日
校歌	有	石井鋼次郎	無	赤尾藤市	種別	校歌	校歌	校歌	校歌	種別	依頼者
有	有	有	有	有	歌詞	有	有	有	有	歌詞	依頼年月日
市谷信義	田中俊介	竹田祐吉	橋本國彦	信時潔	作詞者	信時潔	作曲者	信時潔	信時潔	作曲者	備考
無	無	無	依頼状、東京音楽学校が謝礼額を200円以上と提示した通知（2／11。細川〔碧〕へ依頼ノコト」と書込）あり。依頼校より謝礼額承諾の通知（3／4）は、「昭和十七年六月作曲依頼書綴」にあり（本書1037頁参照）。依頼状で作曲者として橋本を指名し、東京音楽学校はそれを承諾（2／1）。樂譜送付状（2／26）には、謝金300円を直接校長宛に送付するよう指示がある。	依頼状（2／26）は、「昭和十七年六月作曲依頼書綴」にあり（本書1037頁参照）。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	
依頼状、依頼校校長を紹介する文部省教学局長近藤壽治の名刺あり。東京音楽学校は謝礼額を300円以上と提示（昭20／1／15）。作詞者は依頼校校長。	依頼状で作曲者として橋本を指名し、東京音楽学校はそれを承諾（2／1）。樂譜送付状（2／26）には、謝金300円を直接校長宛に送付するよう指示がある。	依頼状（2／26）は、「昭和十七年六月作曲依頼書綴」にあり（本書1037頁参照）。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。	依頼状と歌詞のみ。作詞者は濟南日本中学校校長。

昭19 9 12	昭19 9 16	昭19 10 27	昭19 10 15	昭19 6 19	昭17 11 3		昭19 10 29	昭19 12 11
鹿児島県川内市立工業学校	練所満州中隊	茨城県内原訓等女学校	福岡県八女高	佐賀青年師範学校	朝鮮全州公立女子商業実践学校	福井県大飯郡内浦村神野国民学校	日本鉱山株式会社	青森県八戸市鮫国民学校
校歌				校歌	校歌	校歌	その他	校歌
有	無	無	無	無	有	有	有	有
安田尚義	隊員某						土井晩翠	土井晩翠
無	無	無	無	無	無	無	無	無
				細川碧			橋本國彦	
依頼状、樂譜送付状（9/28）あり。東京音楽学校は、作曲者名を東京音楽学校名義にする旨の依頼状および、東京音楽学校より、現在弘田とは全く関係がなく「如何とも御回答致兼候」（10/31）。 （中隊歌）。依頼状あり。東京音楽学校が謝礼額を200円と提示（10/7）。	弘田龍太郎の作曲による校歌を、弘田に二部・三部合唱への編曲を希望する旨の依頼状および、東京音楽学校より、現在弘田とは全く関係がなく「如何とも御回答致兼候」（10/31）。	作詞も依頼。仲介者藤澤紫朗（佐賀中学校）よりの依頼状では作詞作曲各100円を希望。それに対して東京音楽学校は、謝礼額を慣例により各150円と提示（10/19）。依頼校より謝金計300円了承の旨を通知（10/31付）。	依頼状あり。東京音楽学校は、作曲者名が東京音楽学校名義の場合には謝礼200円、個人名義の場合は100円と提示（6/27）。それに対し依頼校より、謝礼は合計300円送付し、伴奏付希望、と回答（7/6）。さらにそれに對して東京音楽学校は、謝礼は東京音楽学校名義200円が慣例であること、作曲者を細川碧とした旨を通知（7/12）。東京音楽学校より、謝礼300円送られたが100円は不要に付返却する旨を通知（11/10）。	依頼状あり。東京音楽学校は、作曲者名が東京音楽学校名義の場合は謝礼200円、個人名義の場合は100円と提示（6/27）。それに対し依頼校より、謝礼は合計300円送付し、伴奏付希望、と回答（7/6）。さらにそれに對して東京音楽学校は、謝礼は東京音楽学校名義200円が慣例であること、作曲者を細川碧とした旨を通知（7/12）。東京音楽学校より、謝礼300円送られたが100円は不要に付返却する旨を通知（11/10）。	依頼状あり。東京音楽学校より、歌詞の字数がそろつていなかったため校歌には不適当であり、歌詞を再考するよう回答（11/13）。現存する歌詞が最終稿かどうかは不明。	依頼状あり。東京音楽学校より、歌詞の字数がそろつていなかったため校歌には不適当であり、歌詞を再考するよう回答（11/13）。現存する歌詞が最終稿かどうかは不明。	上と提示（12/14）。	依頼状あり。土井の推薦によって依頼。東京音楽学校が謝礼額を200円以上と提示（12/14）。

昭 19 / 5 / 31	昭 19 / 5 / 10	昭 19 / 7 / 12	昭 19 / 6 / 6	昭 19 / 5 / 1	昭 19 / 8 / 21	昭 19 / 9 / 2	昭 18 / 1 / 20	昭 19 / 8 / 29
国民学校 郡高杉村中津軽	校 青森県中津軽	造所 満州国北安街	東京第一陸軍 造兵廠仙台製	福島県植田高 等女学校	札幌市立工業 学校	台北女性専門 学校	岡 久雄 北海道厅立十 勝農業学校	民学校 埼玉県北葛飾 郡三輪野江国
校歌	校歌		校歌	校歌	校歌		校歌	校歌
有	有	有	有	有	無	有	有	有
岩村芳麿	田中俊資	土井晩翠		土井晩翠				土井晩翠
無	無	無	無	無	無	無	無	無
	橋本國彦		信時 潔					
依頼状、 樂譜送付状 (7/1) あり。謝礼100円。	依頼状、 樂譜送付状 (7/5) あり。依頼者は作曲者として橋本を指名。東京音楽学校より、指名のとおり橋本に依頼し、謝礼は100円以上である旨を通知 (5/18)。作詞者は在満教務部視学官。	依頼状では、作曲者として信時を指名している。歌詞監修は土井晩翠。樂譜送付状あり (8/7)。東京音楽学校より、作曲者を信時にする件を承諾、謝礼は200円以上である旨を通知 (7/14)。	依頼状、樂譜送付状 (8/7) あり。東京音楽学校は、作曲者名を東京音楽学校名義にする場合謝礼額を100円と提示 (5/8)。	依頼状、樂譜送付状 (8/7) あり。東京音楽学校が謝礼額について、作曲者名を個人名義にする場合は100円以上、東京音楽学校名義の場合は150円以上と提示 (1/25)。なお、歌詞のみ「昭和十七年六月作曲依頼關係書綴」にあり。	依頼状、樂譜送付状 (2/16) あり。東京音楽学校が謝礼額について、作曲者名を個人名義にする場合は100円以上、東京音楽学校名義の場合は150円以上と提示 (1/25)。なお、歌詞のみ「昭和十八年九月作曲依頼關係書綴」にあり。	依頼年月日は来校して依頼した時のもの。依頼校校長の名刺を貼り付けた依頼記録に朱書きで「下總覺三へ」とある。樂譜送付状あり (9/27)。歌詞に「下總先生へ依命御依頼申上候 (匂)」と書き込み。謝礼100円。		

								昭19／5／29
								海軍艦政本部
								総務部第四課
昭19／3／14	昭19／3／24	昭19／4／5	昭19／5／14	昭19／5／20	昭19／5／19	昭19／5／29	西川好次郎	社歌
(区) 官立無線電信 講習所 (東京都目黒)	校 福島県大沼郡 藤川村国民学 城県柴田郡	第一海軍火薬 廠總務部(宮 崎県大野郡)	青森師範学校	隊 州第二五九部 満州国四平満	療養所 傷痍軍人宮城			
所歌	校歌		校歌		所歌			
有	有	無	有	有	有	有		有
校 東京音楽学	大木惇夫	土井晩翠	東京音楽学		土井晩翠			
無	有	有	有	有	無			無
校 東京音楽学	校 東京音楽学		校 東京音楽学					
回答(6／1)。 催を依頼(5／25)。東京音楽学校は依頼を承諾し、謝金は合計300円と	（若き命）作詞も依頼。依頼状、樂譜送付状（6／4）あり。依頼承諾の通知（3／31）に、作曲者名を東京音楽学校名義にする場合謝礼額100円以上、作曲者個人名義にする場合50円以上と提示。樂譜のみ「昭和十九年以降 作曲綴込」にあり（本書1044頁参照）。 （管絃樂吹奏樂伴奏歌唱指導をも含めて三百圓）との回答（3／22）。依頼者よりさらに管絃樂及び吹奏樂への編曲と、練習会開	依頼状、樂譜送付状（6／4）あり。依頼状、樂譜送付状（4／22）あり。東京音楽学校より、依頼了承の旨と「謝金は學校名儀の場合作詞作曲共二百圓の内規」「（管絃樂吹奏樂伴奏歌唱指導をも含めて三百圓）」との回答（6／1）。	（部隊中隊歌）。依頼状、樂譜送付状（6／12）あり。東京音楽学校は謝礼額を200円以上と提示（5／17）。参考用に旧校歌の歌詞（土井晩翠作詞あり）。依頼校より謝礼額了承の通知（5／23）。樂譜のみ「昭和十九年以降 作曲綴込」にあり（本書1045頁参照）。	（部隊中隊歌）。依頼状、樂譜送付状（6／12）あり。東京音楽学校は謝礼額を50円以上と提示（5／31。「下總三」と書込）。樂譜のみ「昭和十九年以降 作曲綴込」にあり（本書1044頁参照）。	依頼状、樂譜送付状（6／29付）あり。東京音楽学校は謝礼額を100円以上と提示（5／23。「平井（保喜）」と書込み）。樂譜送付状あり（6／29）。彦へと書込み）。	（大連船渠鐵工（株）社歌）。大連船渠鐵工は艦政本部の管理工場。東京音楽学校名義での作曲を希望。東京音楽学校は、作曲者名を東京音楽学校名義にする場合謝礼額200円以上と提示（6／1）。東京音楽学校が大連船渠鐵工よりの正式な依頼状提出を要請（6／7）。「作曲ハ橋本（國連）へ」と書込み）。	（大連船渠鐵工（株）社歌）。大連船渠鐵工は艦政本部の管理工場。東京音楽学校名義での作曲を希望。東京音楽学校は、作曲者名を東京音楽学校名義にする場合謝礼額200円以上と提示（6／1）。東京音楽学校が大連船渠鐵工よりの正式な依頼状提出を要請（6／7）。「作曲ハ橋本（國連）へ」と書込み）。	（大連船渠鐵工（株）社歌）。大連船渠鐵工は艦政本部の管理工場。東京音楽学校名義での作曲を希望。東京音楽学校は、作曲者名を東京音楽学校名義にする場合謝礼額200円以上と提示（6／1）。東京音楽学校が大連船渠鐵工よりの正式な依頼状提出を要請（6／7）。「作曲ハ橋本（國連）へ」と書込み）。

昭19／5／13 陸軍航空通信学校（茨城県東茨城郡吉田村）

依頼状あり。作曲者名は東京音楽学校名義。東京音楽学校は「作曲期限ハ約一ヶ月トシ學校名儀ニ依ル作曲トシ百圓以上ノ慣例ニ有之」と回答（5／23）。

昭18／12／1	昭18	昭18／12／17	昭19／1／8	昭19／2／11	昭19／3／24	村
会社富士工場 凸版印刷株式	名古屋市八幡 国民学校	財團法人 会教育協会 (東京市小石川区)	宮城県登米郡 豊里村国民学校	上海第五日本 国民学校	宇都宮陸軍飛行学校	陸軍航空通信学校（茨城県東茨城郡吉田村）
工場歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌
有	有	有	有	無	有	有
	村手陶英		土井晩翠		土井晩翠	
無	無	無	無	無	有	無
校 東京音楽学	校 東京音楽学	校 東京音楽学	信時潔	校 東京音楽学		
依頼状、樂譜送付状（12／10）あり。記録に「本校名義 謝金200圓期限なるべく早く」とある。	東京音楽学校より、依頼承諾の旨と謝金額が作曲者名個人名義なら70円、東京音楽学校名義で100円と通知（11／1）。依頼校は東京音楽学校名義を希望（11／27）。謝金100円の領収通知（12／1）、樂譜送付状（12／10付）あり。	依頼曲は、同協会附屬東京家庭学園の校歌。依頼状、樂譜送付状（昭19／1／6）あり。直接來校の上依頼（12／6）の際に東京音楽学校名義での作曲、謝金200円と決定。	依頼状（土井の指示により依頼の旨）、樂譜送付状（2／5）あり。東京音楽学校は承諾し、「謝金は本校名義にて金百圓以上の慣例に有之」と回答（1／17）。依頼校は伴奏付を希望し（1／25）、承諾された（1／28）。	依頼状あり。依頼承諾の通知（3／29）に「中田一次」と書込み。樂譜送付状あり（4／17）。樂譜のみ「昭和十九年以降 作曲綴込」にあり（本書1044頁参照）。	依頼状も依頼。依頼状によると、作曲者として信時を指名し、歌詞も信時を通じての依頼を希望。東京音楽学校より、信時に連絡済なので直接交渉するよう回答（日付不明）。信時より東京音楽学校吉田辰雄宛依頼承諾の葉書（3／29）。	依頼状（土井の指示により依頼の旨）、樂譜送付状（2／5）あり。東京音楽学校は承諾し、「謝金は本校名義にて金百圓以上の慣例に有之」と回答（1／17）。依頼校は伴奏付を希望し（1／25）、承諾された（1／28）。

昭18／8／25	愛知県横須賀高等女学校	会津山村道場	長野師範学校	昭18／9／22	宮城県多賀城村史蹟名勝保存会	遠軽町遠軽中学校	北海道紋別郡	昭18／6／28	昭18／12／13	昭18	横須賀市池上国民学校	校歌
校歌			校歌			校歌		校歌			校歌	東京音楽学
有	有	無	有	有	有	有	有	有	無		有	東京音楽学
武島羽衣	土井晩翠	風巻景次郎	山田孝雄		土井晩翠						校	東京音楽学
無	無	無	無	無	無	無	校	東京音楽学			校	東京音楽学
		平井保喜										
(9／7)、武島宛楽譜送付状(10／2)あり。武島宛依頼承諾の通知	武島を通じて依頼。武島よりの依頼状あり。武島宛依頼承諾の通知	（道場歌）。依頼状に「曩ニ御依頼致置候道場歌」とある。東京音楽学校より依頼承諾の旨と「謝金ハ五十圓以上ノ價例ニ有之」との回答(9／29)。楽譜送付状(12／7)、謝礼督促状(昭18／1／27)あり。	作詞も依頼。葉書(9／15)にて面会予約し、来校依頼(9／23)。正式依頼状(10／1)にて東京音楽学校名義での作詞作曲を依頼。その際依頼校沿革、学校周辺の説明、さらに横須賀市歌、汐入国民学校校歌の歌詞が資料として添えられた。東京音楽学校より、来校の折には謝金100円と回答したが、「作詞者ニ於テ未知ノ土地ノ作詞ノ困難サ」により作詞作曲あわせて150円が可能ならば承諾すると回答(10／12)。依頼校より謝金額承諾(日付不明)。楽譜送付状(10／26)、礼状(10／29)、東京音楽学校より歌詞大意あり。(12／24)。	忠魂に誓ふ歌。依頼者の都合による依頼取下げの通知のみ(12／22)。	作詞も依頼。葉書(9／15)にて面会予約し、来校依頼(9／23)。正式依頼状(10／1)にて東京音楽学校名義での作詞作曲を依頼。その際依頼校沿革、学校周辺の説明、さらに横須賀市歌、汐入国民学校校歌の歌詞が資料として添えられた。東京音楽学校より、来校の折には謝金100円と回答したが、「作詞者ニ於テ未知ノ土地ノ作詞ノ困難サ」により作詞作曲あわせて150円が可能ならば承諾すると回答(10／12)。依頼校より謝金額承諾(日付不明)。楽譜送付状(10／26)、礼状(10／29)、東京音楽学校より歌詞大意あり。(12／24)。	忠魂に誓ふ歌。依頼者の都合による依頼取下げの通知のみ(12／22)。	作詞も依頼。葉書(9／15)にて面会予約し、来校依頼(9／23)。正式依頼状(10／1)にて東京音楽学校名義での作詞作曲を依頼。その際依頼校沿革、学校周辺の説明、さらに横須賀市歌、汐入国民学校校歌の歌詞が資料として添えられた。東京音楽学校より、来校の折には謝金100円と回答したが、「作詞者ニ於テ未知ノ土地ノ作詞ノ困難サ」により作詞作曲あわせて150円が可能ならば承諾すると回答(10／12)。依頼校より謝金額承諾(日付不明)。楽譜送付状(10／26)、礼状(10／29)、東京音楽学校より歌詞大意あり。(12／24)。					

昭18／7／10	福島県須賀川高等女学校	校歌	有 中村孝也
昭19	日本厚生協会長野地方幹事		無 信時潔
			佐都村音楽会への協力に対する礼状（5／17）。東京音楽学校は酒井弘、長谷川良夫を派遣。
			依頼状（作曲者として信時を指名）。東京音楽学校より依頼承諾の旨と「謝金は作曲者個人名義にて金壱百圓、本校名義にて金貳百圓の慣例に有之」と通知（7／20）。依頼校より「名義ハ何レニテモ御指示ニ従ヒ申ス可ク候」（8／20）。信時より東京音楽学校庶務課宛葉書に、「數週間前同校（依頼校）長長尾輝景氏より直接小生へ委頼あり既に樂譜を送付、八月七日同氏より受領の旨申越され候」とあり（8／23）。

昭和十九年以降 作曲綴込  
〔楽譜控をとじたもの。すべて歌詞・伴奏付〕

		依頼者	種別
		作詞者	作曲者
			備考
宇都宮陸軍飛行学校	校歌	土井晚翠	東京音楽学校
西第九八二五部隊		橋本國彥	高田信一
福島県大沼郡藤川村国民学校	校歌		別紙歌詞添付。作曲者名の下に「昭和十九年三月十四日」。五線紙一頁ごとに「中田一次」と印刷されているが、すべて消されている。依頼関係書類は「昭和十八年八月 昭和二十年二月 作歌曲依頼書綴」にあり（本書1042頁参照）。
滿州国四平 滿州		大木惇夫	（佛印工兵隊ノ歌）。末尾に「2602.8.20」。別紙歌詞あり。依頼関係書類は「昭和十八年六月作曲依頼關係書綴」にあり（本書1036頁参照）。依頼者名は依頼関係書類より。
第二五九部隊		東京音楽学校	依頼関係書類は「昭和十八年八月 昭和二十年二月 作歌曲依頼書綴」にあり（本書1041頁参照）。
第一海軍火薬廠総務部		土井晚翠	（中隊歌）。依頼関係書類は「昭和十八年八月 昭和二十年二月 作歌曲依頼書綴」にあり（本書1041頁参照）。依頼者名と作詞者名は依頼関係書類より。

昭和二十三年度（自二十三年四月  
至二十四年三月）作歌作曲依頼書綴

									青森師範学校	校歌
昭24／2／4	昭24／2／27	昭24／2／9	昭24／2／1	昭24／1／30	依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	東京音楽学校	東京音楽学校
室蘭市立北辰中学校	海上保安庁海交会	都立台東新制高等学校	富山市立東部中学校	東京都南多摩郡日野中学校	校歌	校歌	校歌	作詞者	土井晩翠	東京音楽学校
校歌		校歌	校歌	校歌	有	有	有	作曲者	(細川碧)	東京音楽学校
有	有	有	高田瑞穂	高田瑞穂	無	無	無	樂譜		東京音楽学校
風巻景次郎			片山顥太郎	池内友次郎	下總覺三	日野町中島松枝より金谷武司宛依頼状（封筒はGHQにより開封された痕跡あり）、樂譜送付状（3／16）、作曲料領収書写（3／24）あり。謝礼6000円。	縦り裏表紙に貼付メモ（「作曲料 齊唱ピアノ伴奏付 ¥5000以上 合唱一種について5割増 ブラスバンド等の編曲 5割増」）	備考		依頼関係書類は「昭和十八年八月 昭和二十年二月 作歌曲依頼書綴」にあり（本書1041頁参照）。
無	無	無	長谷川良夫	長谷川良夫	（巡視船行進曲）依頼状、謝礼領収書写（3／2。作曲料600円、添削料1000円）あり。謝礼7000円。	依頼校は、昭和23年4月1日に浅草高等女学校と隅田女子商業学校が統合されたもの。曲は混声四部合唱付き。依頼状、東京音楽学校より謝礼額提示の通知（3／1。作詞作曲料12000円の他に混声四部編曲料2500円）、作詞作曲料領収書写（日付不明）、編曲料領収書写（3／7）、編曲料領収書写（3／19）あり。謝礼14500円。	（三馬ゴム工場工場歌）。依頼関係書類は「昭和十七年六月作曲依頼関係書綴」にあり（本書1037頁参照）。依頼者名は依頼関係書類より。			
長谷川良夫					作詞者（當時北大教授）を通じて依頼。風巻よりの依頼状（1／30）では作曲者に長谷川を指名し、混声四部合唱（ピアノ伴奏付を希望。依頼校より公式依頼状、樂譜送付状（2／8。謝礼額は室蘭女子高校の8000円、「三部合唱付での値段」とある）に準ずる、としている）、礼状（2／16）あり。謝礼8000円。					（本書1037頁参照）。

昭23	昭23／6／16	昭23／8／6	昭23／8／24	昭23	昭23／10	昭24／1／19	昭24
高等学校 道立釧路女子	鹿児島水産専門学校	愛媛県北宇和郡来村立来村中学校	北海道室蘭女子高等学校	釧路市湖畔小学校	札幌市立一條中学校	員組合鹿児島県教職	茨城県立古河高等学校
校歌	校歌	校歌	校歌	校歌	校歌		校歌
無	無	有	有	無	有	有	有
風巻景次郎			風巻景次郎			平田正己	高田瑞穂
無	無	無	無	無	無	無	無
伊福部昭	長谷川良夫	長谷川良夫	長谷川良夫	伊福部昭	下總覺三	長谷川良夫	長谷川良夫
作曲料領収書写（9／13）と礼状（9／15）あり。謝礼5000円。	依頼状、楽譜送付状（8／16）、謝礼支払についての往復文書あり（①依頼校より謝礼支払通知（8／27）。②東京音楽学校より送金未着についての照会（9／14）。③依頼校より解答（9／20）。調査の結果、指定された支払銀行（三菱銀行下谷支店）ではなく誤って同行本店に入金されていたことがわかり、改めて手続きした。④東京音楽学校より10月13日付で謝礼受領の通知（11／2）。作曲料5000円受領書写）。	長谷川宛依頼状（東京音楽学校に長谷川宛て届き、長谷川に転送）、礼状（10／20）、楽譜送付状（11／4）、作曲料領収書写（11／4）あり。痕跡あり）、楽譜送付状（9／13）あり。 謝礼5000円。	作詞者を通じて依頼。風巻よりの依頼状（作曲者として長谷川を指名。女声二部合唱、ピアノ伴奏付きを希望。封筒をGHQにより開封された作詞者を通じて依頼。礼状（9／8）、作曲料領収書写（9／18）あり。謝礼5000円。	作詞者を通じて依頼。風巻景次郎（作曲者として長谷川を指名。女声二部合唱、ピアノ伴奏付きを希望。封筒をGHQにより開封された作曲料領収書写（12／1）、作曲料領収書写（12／15）あり。東京音楽学校のメモに「十月下旬同校〔依頼校〕校長上京口頭で依頼を受く」とある。作詞者は北大教授。10月下旬に依頼校校長を紹介する旨を書き込んだ風巻の名刺あり。謝礼6000円。	（宮園教育顕彰歌）。東京音楽学校名義での作曲を希望。歌詞は公募による一等当選歌。依頼日は日教組文化部員井上春男の来校依頼による。作曲料領収書写（1／19）、楽譜送付状（1／22）あり。謝礼5000円。	作詞も依頼。樂譜送付状（1／29）、作詞作曲料領収書写（2／4）あり。謝礼12000円。	

昭 23 5 25	岐阜県恵那郡 加子母村立加 子母中学校	中学校	福島県河沼郡 坂下町立坂下	山形県長井中 学校	門司鉄道教習 所	岡山県	昭 23 5 3	
校歌		校歌		校歌	所歌	その他		
有		無		無	無	無	有	
安松 安江、 古田							依頼校での 募集による	
無		無		無	無	無	無	
		下總覺三		長谷川良夫	片山顕太郎	長谷川良夫	長谷川良夫	
頼 校 は、 予 算 不 足 の た め 依 頼 取 消 し (7 /17)	歌詞は二種現存。依頼状あり。東京音楽学校は、歌詞が二種送られてきた理由について照会し、作曲料は500円と提示(6/11)。6/11の件回答の催促および歌詞は東京音楽学校で選んでよいか照会(7/12)。依	依頼状あり(封筒に書込「昭和廿二年十月二十日作曲送付ズミ」)。その後12月18日付で謝礼100円の小切手が書留で郵送されてきたものの、東京音楽学校がこれを紛失していたことが翌年2月に発覚(東京音楽学校が郵便局に照会し、郵便局から確かに配達済み、との6月10日付回答あり)。小切手の再発行に時間がかかり、事態が終結したのは7月28日。往復書類多数および支払証明控あり。また、依頼校が諸手続きに100円を負担していたため、東京音楽学校が返却している(7/22)。謝礼100円。	都立神代高校教諭山本京子(東京音楽学校卒業生)を通して依頼。依頼状(日付不明)、楽譜送付状(7/31)、作曲料領収書写(8/13)あり。謝礼500円。	樂譜送付状(7/7)、作曲料領収書写(8/13)あり。東京音楽学校が、作曲者を片山に決定した旨を伝える手紙(6/14)に、「先般御上金通知書(8/10)、作曲料領収書写(8/20)」あり。謝礼700円。謝礼500円。	(岡山青年の歌)唯是震一(印)工藤和子(印)國枝誠也(印)。東京音楽学校より依頼者宛に、選外佳作4名に対する賞金と作品審査手数料を差し引いた額を長谷川に渡した。旨の通知(9/13)。	(逍遙歌)東京音楽学校卒業生堀道子(山口高校教務課長の妻)を通じて依頼。依頼状、樂譜送付状(8/13)、作曲料領収書写(9/13)あり。東京音楽学校は当初、曲を職員および生徒から懸賞募集し、諸雑費として500円申し受ける(5/20)。懸賞の応募要項あり)としていたが、入選該当曲がないため長谷川に依頼し、作曲料は同じく500円である旨を通知(7/12)。6月27日付掲示案は「山口高校逍遙歌入選発表」、入選該当曲が無いので審査員に於て作曲した。一、選外佳作として左記四名に金二百円宛を贈る。(但し賞金引渡しは来月中旬の見込)記小田野正之(印)唯是震一(印)工藤和子(印)國枝誠也(印)。東京音楽学校より依頼者宛に、選外佳作4名に対する賞金と作品審査手数料を差し引いた額を長谷川に渡した。旨の通知(9/13)。	依頼校での 募集による	山口高等学校 生徒自治会

昭22／11／26	山口市立小郡中学校	校歌	無	土井晩翠	無	下總覺三
昭23／1／19	福岡県田川郡赤中学校	校歌	有	平尾安治	無	豊隆宛
昭23?	青森県八戸市鮫中学校	校歌	無	長谷川良夫	礼状兼作曲料（2000円）支払通知のみ（12／29。年は記載なし。校長小宮豊隆宛）。	依頼状（2／4受付）、楽譜送付状（2／7）あり。東京音楽学校は謝礼額を2000円以上と提示（昭22／12／19）。依頼校は謝礼を直接長谷川に送ったが、事情を知らない東京音楽学校が催促した。6月16日に終結。

昭和二十四年（自三月 至十二月）作歌作曲依頼書綴

依頼年月日	依頼者	種別	歌詞	作詞者	楽譜	作曲者	備考
昭24／4／20	昭24／4／11	昭24／3／16	広島県三原市立第一中学校	富山県西礪波郡学校組合立福光中学校	校歌	校歌	
学校	青森県北津軽郡五所川原町立五所川原中学校	校歌	有	吉波彦作	有	有	
				榎原昇			
	和田山蘭						
	有	無	無				
	片山顕太郎	長谷川良夫 (選曲)	下總覺三				
	依頼状による。東京音楽学校には、同封のはずの歌詞がなく、作曲料は单声で6000円、合唱編曲は一種につき五割増とある（4／25）。依頼校よりの歌詞追送通知（4／24。東京音楽学校には4／30に到着。「五月六日片山先生に依頼」の書込み。封筒にGHQによる開封の痕跡）、楽譜送付状（5／14。希望どおりに二部合唱に編曲した、と通知）あり。	依頼状、樂譜送付状（4／19）、作曲料領収書写（4／23）あり。依頼校は直接下總宛に伴奏付きを希望（3／16）。依頼校より東京音楽学校宛に、作曲者として下總を指名した旨を通知（3／27。「1／9〔？〕下總先生に依頼ズミ」と書込み）。歌詞は昭和23年の綴りにもあり、「男女500名 優美快活明朗 四月末日迄 五月中旬発表」と書込み。作詞者は依頼校校長。謝礼6000円。	依頼状（2／4受付）、樂譜送付状（2／7）あり。東京音楽学校は謝礼額を2000円以上と提示（昭22／12／19）。依頼校は謝礼を直接長谷川に送ったが、事情を知らない東京音楽学校が催促した。6月16日に終結。	依頼状（2／4受付）、樂譜送付状（2／7）あり。東京音楽学校は謝礼額を2000円以上と提示（昭22／12／19）。依頼校は謝礼を直接長谷川に送ったが、事情を知らない東京音楽学校が催促した。6月16日に終結。			

昭24／5／19	青森県北津軽 郡五所川原町 立五所川原中 学校	校歌	有 和田山蘭	片山顯太郎
昭24／4／26	富山県富山市 立岩瀬中学校	校歌	有 大島文雄	依頼状（作曲者として信時を指名。書込「五月六日依頼」）、樂譜送付状（5／14。合唱用に編曲した旨通知）、作曲料領収書写（5／24）あり。 作詞者は富山高等学校教授。謝礼6000円。
			有 信時 潔	依頼状（作曲者として信時を指名。書込「五月六日依頼」）、樂譜送付状（5／14。合唱用に編曲した旨通知）、作曲料領収書写（5／24）あり。 作詞者は富山高等学校教授。謝礼6000円。
				依頼状（作曲者として信時を指名。書込「五月六日依頼」）、樂譜送付状（5／14。合唱用に編曲した旨通知）、作曲料領収書写（5／24）あり。 作詞者は富山高等学校教授。謝礼6000円。

### 當學校へ委嘱サレシ著作物（作曲）ノ著作権ニツキテ

從來當校へ委嘱サレタル校歌、祝歌等作曲ノ著作権ハ學校名義ノモノニセヨ、個人名義ノモノニセヨ委嘱者へ作曲ヲ引渡シ、コレガ代償ニ相當スル作曲報酬ノ受領ヲモツテ作曲上ノ全權利ハ委嘱者ニ移轉シリタルモノノ如クニ解セラレタルガ如シ。然ルニ學校外一般作曲者側（例ヘバ作曲家協會）ニ於ケル近來ノ傾向ヲ見ルニカクノ如キ形式ニ基ク權利ノ移轉ハ全部權利ノ移讓ニハ非スシテ、委嘱作曲ノ權利範圍ハ該作曲ノ直接ノ使用目的ニ限定スルモノト解スルニ至ル。例ヘバ校歌ニ於テハ委嘱學校ノ直接使用及ビカヽル目的ニ限ラレタル、營利ニ非サル複製、蓄音器吹キ込み、及ビ演奏ニ限ルモノトシ、コレニ含マレザル行爲、例ヘハ營利ヲ目的トスル出版、蓄音器及ビトーキー吹キ込み、ラヂオ放送及ビ興行演奏ニ對スル著作權ハコレヲ著作者ニ於テ保留スルモノト解セラル。祝歌等臨機的作曲ノ場合モ亦コレニ準ズルモノト解セラル。作曲家協會ノ趣旨ハコノ點ニ存スルモノ、如ク、當校ニ於テモコノ趣旨ヲ參酌シタル規約ヲ設クルノ必要ナキヤ。校歌ノ場合ノ如ク特殊的、局地的ニ解セラル、場合ニ對シテハ適用嚴重ナル必要ナキニ似タレドモ、特ニコ

レ亦興行ノ目的物タリ得ルコト想定シ得ベク、蓄音器吹キ込ミノ目的物タリ得ルコトアリ（早稻田大學校歌ノ如ク）コノ場合從來ノ如ク權利ノ所在曖昧タルトキハ單り出版業者、蓄音器業者又ハ興行者ノ不當利得ニ坂シ、著作権者ハコノ不當所得ニ關シテ容喙シ得サルコト事實ナリ。例ヘハ今回橋本國彥氏ニ委嘱サレタル東京市復興祝歌ニ對スル著作権ノ所在曖昧ナルガ爲メニ起リタル蓄音器業者ノ不當利得ヲ考フルニ、該作曲ハ東京音樂學校作曲ノ故ヲ以テ、營利ノ目的ヲ以テ蓄音器吹キ込ミヲ行ヒコレガ販賣ヲナセルニ係ラス、著作ハ印稅ノ支拂ヒヲ要求シ得ザルモノナルガ、歌詞著作者ハ西條八十氏ナルコト明瞭ナルガ爲メニ作歌ニ對シテハ印稅ヲ支拂ヘルモノナリ。當校ハ音樂學校作曲トアルモ著作権ヲ所有スルニ非ザルガ如ク、橋本氏モ亦著作権ノ明瞭ナル所有ヲ主張シ得ズ、又委嘱者東京市モ權利ノ全部ヲ行使セザル、コノ曖昧ヲ利用シテ利益ヲ獨占スル蓄音器業者ニ對抗スルノ必要ナキヤト思議セラル、餘地アリ。

當校ハ本件ノ如キ一般作曲ノ應需ヲナスハ元ヨリ音樂普及ヲ第一義トスルノ精神ナルハ明カナレドモ、形式ノ不備ノ爲メニ一個商人ノ營利ノ具トセラル、コトハ注意ヲ要スルニ非ザルカト考ヘラレ、

且ツ當校ニ於ケル本件ノ如キニ對スル取り扱ヒ如何ハヒキテハ校外一般ノ作曲者ノ利益ヲ阻止スルカ如キ恨ミヲ抱カシムルニ至リコノ點不利ナラズヤト思考サル

本件ハ將來ヲハカリ相當思慮ヲ要スヘキ重要ノ件ト思考サルゝモノナルニツキ配慮方ニツキ御伺申シ上グルモノナリ

### 對策案

一、學校名義タルト個人名義タルトヲ問ハス著作権ニ關シテハコレヲ學校又ハ適當ナル組織ノ下ニコレヲ確實ニ所有セシムルカ、又ハ學校名義ノ場合ト雖モ權利ノ所在ハ作曲者ニアルコトヲ確實ニスルコト。

一、委囑者ニ對シテ印刷物等適當ナル方法ヲ以テコノ趣旨ノ諒解ヲ通達スルコト

一、權利侵害者ニ對シテハ學校又ハ適當ナル組織又ハ個人ヨリコレニ對シテ抗議シ、權利保護ノ實ヲ完全ニスルノ手段ヲトルコト

(手書き)「自昭和五年至昭和八年 作曲依頼關係」

### 作歌及び作曲の依頼について

近時音樂思想の普及に伴つて、各種學校の校歌は勿論、銀行會社新聞社等の行歌、社歌、市町村等の公共團體の歌、さては此等の團體で行ふ諸種の式典に用ふる唱歌等の作歌または作曲を本校に依頼して來るもののが、著しく增加の傾向にあるが、この依頼を受けた場合は、學校長に於てそれ／＼教官中適當の人々に依頼して、其の需めに應ずることにしてゐるのである。併し元來本校は他の需めに應じ

て作歌または作曲とかは何れも學校としてこれを行ふ譯でなく、全然個人として依頼に應ずる次第である、であるから其の作歌者は作曲者に對しては相當の報酬を贈つていたらしかなければならないのは勿論である。そしてその報酬を從前の例に依つて、小學校のものは作歌作曲各參拾圓以上、中等學校のものは各五拾圓以上、といふ大體の標準で、歌詞または歌曲の如何によつては標準以上の場合もあり、官廳公共團體及諸會社等からの依頼によるものは、其の種類程度の如何によつて、それ／＼別にこれを御相談することにしてゐる。それで作歌でも作曲でも、大體に於て其の作歌者または作曲者の個人名義で發表するのを原則とするのであるが、偶々『東京音樂學校作歌』または『東京音樂學校作曲』と銘うつたものがある場合もある。もとよりこれも個人として作歌または作曲せられたことにはかはりはないのであるが、官廳とか公共團體などから特別の依頼によつて、便宜其の個人の名義を出さぬまで、法令上特別の意義がある譯ではない。併し斯様な場合は、一般的の場合と同様に個人の作成したものを他の關係者に合議して慎重審議をかさねることの外更に特別の委員會を設けてこれを詮議することにしてゐるのである。要するに本校は制度上に於て作歌または作曲の依頼に應ずる機關ではないのであるけれども、前記の様な手續で一般の要求に應じ、聊かでも國家社會の文運に貢獻せんことを期してゐる次第である。

そこでこれを依頼せられる上に就いて、注意を願ひたいことの一二を述べる。先づ第一は作歌または作曲の資料となるべきものを提供せられたいことである。作歌の場合に資料が必要なことは言ふまでもないが、作曲の場合にも歌詞の内容について解釋の要ある事項

や訓み方は勿論、曲の程度や曲想などについての希望をも示されたいのである。

号 昭和八年三月 三七〇三九頁に掲載されている

次ぎは著作権の問題である。從來本校に作歌または作曲を依頼せられた場合、其の著作権は報酬の授受により全部依頼者に移つたもの如く考へられた様であるが、一般著作者側、例へば作曲家協會の近來の態度を見ると、作曲依頼者の権利範囲は、其の作曲直接の使用目的に限定するものであつて、報酬の授受によつて著作権の全部を移譲するものではないとしてゐるのである。であるから校歌の場合とすれば、これを依頼した學校では其の學校直接使用及び其の目的のためにする營利に非ざる複製、蓄音器吹込、演奏會等をなすを得るに止まり、これに含まれざる行爲即ち營利を目的とする出版、蓄音器並にトーキー吹込、ラヂオ放送及び興行演奏等に對する権利は其の作歌者及び作曲者が保有するものと解せられるのである。これはまことに至當な意見であると信ずるので、將來本校に作歌または作曲を依頼せられた場合、其の需めに應じて作成した歌詞または曲譜の著作権については、其の個人名義たると、便宜學校名義を以て發表したると拘らず、すべてこの解釋と同様に取扱ふこととしたのである。これは本校關係者にして作歌または作曲の依頼に應じた人々の利益に關係あるばかりでなく、一般著作者の利益にも影響する所があると考へたからである。勿論校歌等については、其の性質上かかる問題の發生する様のことは殆んど無いであらうけれども萬一の場合を豫想して権利の所在と限界とを明確にしておく方がよいと信じたからであることを諒せられたい。

(手書き)  
(一) 自昭和五年至昭和八年 作曲依頼關係。この文書は「同聲會會報」第一九二

#### 東京音樂學校が著作権問題を決定

東京音樂學校では教職員、生徒等同校關係者を中心として作曲並びに作詞に關する著作権の確立を期することとなつた。今迄同校に依頼者に移轉するものゝ如く解釋されてゐたが今後はその著作権は個人名たると學校の名義たるとを問はず依頼者の権利範囲は其の作曲自體の直接の使用目的に限定することになつた。故に、例之校歌等の場合學校の直接の使用、及びその目的の爲めにする營利に非ざる複製、レコード吹込み、演奏會上演は差支へないが營利を目的とする出版、レコード吹込、興行的演奏に對する権利は作歌者並に作曲者が保有することに決定した。

〔音樂世界〕第三卷第一号 昭和六年一月 一五三頁)

### 八 第四臨時教員養成所

本書年譜に見られるように、大正十一年四月一日から昭和七年三月三十一日までの十年間、東京音樂學校内に第四臨時教員養成所が設置されていた。

事業の概要を把握するため、ここでは以下の四項目を取り上げる。

- (一) 第四臨時教員養成所の設置について
- (二) 第四臨時教員養成所の規則・カリキュラムなど
- (三) 第四臨時教員養成所の生徒について
- (四) 第四臨時教員養成所の職員について